

【様式1】

自己評価書

四日市市立 中部西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	【知】 (1) 問題解決能力の育成 (2) 豊かな学力の定着 (3) 児童の実態把握と指導方法の工夫	3
主な方策 成果と課題	学校評価 児童アンケート ・授業の内容はよく分かる AB評価94% ・自分から進んで学習に取り組んでいる AB評価89% 概ね良好な結果と言えるが、授業がよく分かるという一方で「自分から進んで」という点で評価が下がっているのが課題である。 ○「家庭学習のすすめ」では、昨年度からよいノートのサンプルを集めたため、より良い見本を提示することができた。 ○昨年度同様、あらゆる活動の場を活かして表現活動を行うことができた ○地域の公共施設、商店など地域教材を活かした体験活動を充実させることができた。 ○朝読、司書や図書館ボランティア、図書館まつりなどを利用して読書の推進を図ることができた。 ○研修計画に基づき、指導案検討や授業公開に深くとりくむことができた。	

重点目標 2	【徳】 (1) 生活習慣の向上 (2) 心の教育の充実 (3) 問題行動の未然防止	3
主な方策 成果と課題	学校評価 児童のアンケート ・自分から進んであいさつができる AB評価93% ・学校のきまりはきちんと守っている AB評価93% ○あいさつ運動の実施 児童会の自主的なあいさつ運動推進により、元気にあいさつをすることができた。 ○清掃活動の充実 きらきら金曜日には、給食時の放送でも流し、より丁寧に清掃することを促した。 ○道徳教育 各クラス年1回以上の授業公開を実施し、考える道徳教育をめざした。 ○問題行動の未然防止 定期的なケース会議を月1回、必要に応じてその都度実施するよう努めた。	

重点目標 3	【体】 (1) 健やかな体づくり (2) 命を守る取組の推進 (3) 食に関する教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>学校評価 児童アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはんを毎日食べる AB評価96% ・安全に気をつけて生活している AB評価95% <p>○かけ足・外遊び強化月間の実施 →学年問わず外で遊ぶ姿が見られた。また、担任も外に出て体を動かしていっしょに遊ぶ姿が見られた。 →かけ足記録会やなわとび集会に向けて、休み時間に自ら練習に励む姿が見られ、運動に対する意識を高めることができた。</p> <p>○年間を通したふれあいパトロールの実施→毎月実施することで、子どもたちの安全意識を高めることができた。</p> <p>○年間5回の避難訓練の実施→定期的に行うことで安全意識を高めることができた。</p> <p>→毎年、不審者対応訓練を行い、教師の動きを確認したい。</p> <p>△緊急一斉下校訓練を実施したが、児童の半数以上が学校での引渡しであった。そのため、引き渡し訓練として、毎年実施した方がよいのではないか。</p> <p>○食育の授業および委員会やクラスの取り組み →全校で系統的な食育の授業を行うことができた。朝食を食べている児童は、今年も多かった。</p> <p>○養護教諭・栄養教諭からの発信及び連携→通信やエピペン研修などにより、アレルギー対策を共通理解できた。</p> <p>△基礎体力の向上に向け、大まかな学校全体の年間計画を工夫する必要がある。</p>	

重点目標 4	【トライアングル】 参加・参画による学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>学校評価 保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加参画型の教育活動や体験活動は充実している AB評価98% ・子どもたちの様子や学習内容がよく分かる AB評価98% ・学校の教育活動は、全体的に見て満足できる AB評価97% <p>○学校公開（春・秋）→保護者・地域のゲストティーチャーが学習活動を支え、共に学ぶ姿が見られた。 △活動が固定されつつあるが、見直しをしながらより良いものを工夫している。</p> <p>○まちかど音楽会（7回目） →地域・保護者ボランティアの支えで毎年実施できている。今年は、会場を工夫し通路を確保することができた。大勢の人の前で歌声を披露することで子どもたちの自信になっている。</p> <p>○学習支援員を活用することができた。</p> <p>○資料室の充実→昔の暮らしについて、実物を見ながら学習することができた。（3年）</p> <p>○学校参画委員会（年5回）の実施→参画委員の意見を教育活動に生かすことができた。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・「学校づくりビジョン」をはじめ、平成30年度から実施される「道徳の教科化」や「英語の教科化」等、新教育課程を見通したものにしていける必要がある。 ・若手教職員が増えるなか、より職員間のコミュニケーションの充実を図り、組織的な指導体制を整備していく必要性を強く感じる。 ・安全意識への向上を、一年間を通じて計画的にしていける必要がある。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 浜田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の育成	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>主体的に学ぶ子の育成として、本校の研修テーマである「共に学び合う授業の創造～子どもたちのつながりのある豊かな学び合いを目指して～」を実践するために今年度は、①「聴く」ことを重視した対話を設定する。②課題・発問の提示を工夫することを具体的な手立てとして取り組んできた。その結果、児童の教育活動に関するアンケートでは「授業はわかりやすいですか」の質問に対しては、十分・概ね十分と94%が、「友だちの思いや考えを聞こうとしていますか」の質問に対しては96%が十分・概ね十分と答えている。</p> <p>特別支援教育の推進として、月1回の就学支援委員会を実施し、職員会議の後でも報告会を実施することで、特別支援教育の推進を試みた。そうすることで、特別支援の児童を教員全員で見えていくことを再確認することができた。しかし、特別支援学級籍の児童数に対して、教員・介助員の人数が少ないために、十分な支援ができなかったことが課題である。</p> <p>教職員の力量アップについては、12月に6年目となる公開研究会を実施し、それに向けて授業研究などを全校で行うことができた。また、積極的に先進校視察や県外研修に参加する体制づくりや環流報告ができた。課題としては、公開研究会を通しての外部からの評価や意見から、本校の研修に生かす部分で、細かい具体的な意見などが集まらないことが課題としてあげられる。</p>	
重点目標2	豊かな人間性の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>道徳・人権教育の推進については、年度当初に仲間づくりビジョンを立て、その後、2回の振り返り、そして提案授業や次年度から始まる道徳科に向けて、本校の児童の実態を全体で確認し合った。</p> <p>居心地のよい学級づくりについては、月1回のいじめ防止対策委員会を開催し、いじめ調査の後には、教育相談の時間を設定した。そうすることで、組織的に解決を図るよう心がけてきた。しかし、児童の教育活動に関するアンケートの「困ったとき、先生に相談できますか」の質問に対しては、17%の児童がやや不十分・不十分と答えており、児童が困っているときに、どのように対応していくべきか課題としてあげられた。</p> <p>読書活動の充実については、朝の読書、図書館祭り、語り聞かせをなどの活動を行った。また、学級文庫も定期的に入れ替えを行うなどの環境整備にも努めた。その成果として、児童の教育活動に関するアンケートの「朝の読書に一生懸命に取り組んでいますか」の質問に対して91%の児童が十分・概ね十分と答えている。</p>	
重点目標3	健康・体力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>体力・運動能力の向上については、2学期は朝のかけ足、3学期はなわとび奨励期間を設定し、全校で体力・運動能力の向上にむけて取り組みを行うことができた。しかし、児童の教育活動に関するアンケートの「運動したり外で遊んだりしていますか」の質問に対しては20%の児童がやや不十分・不十分と答えているため、自主的に体力・運動能力の向上に取り組めるようにしていくことが課題である。</p> <p>心と体の健康教育の推進については、代表委員会の児童を中心にあいさつ運動などに取り組んできたが、自分からあいさつができる児童はまだ少ないため、今後も継続したあいさつ運動の取り組みが必要である。また、清掃活動については、掃除を一生懸命取り組んでいるという児童が十分・概ね十分で94%であるため、学習環境改善の成果としてあげることができる。</p> <p>安全に対する意識の向上については、学期に1回の自然災害における避難訓練を行い、そのうち、1回は地域の方にも協力を願い、2次避難訓練を行った。また、今年度は不審者対応訓練も警察署の協力を得て、初めて実施した。不審者侵入をどのように知らせるか、児童をどのように不審者に近づけないかなど、課題が見えてきたので、次年度以降、そのことをふまえた訓練を実施をしていく。</p>	

重点目標 4	地域とともに子どもを支える学校	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>全員参加による学校経営については、各指導部長や各委員会委員長が中心となって、学校づくりビジョン達成のために、具体的方策を設定し、年2回の振り返りを行った。主な方策の一つである「勤務時間内に効率的サービス運用を図る」については、不十分・やや不十分と答えている職員が多いことが課題としてあげられる。</p> <p>コミュニティスクール推進については、昨年度指定校を受け、今年度も年5回の定期実施を行った。会議の中で、委員の方が、人材バンク作成における、地域の人との連携調整役など、地域と学校をつなぐ役割を果たしていただいた。</p> <p>保護者・地域への情報発信については、今年度4月に初めて保護者対象の学校説明会を実施した。また、学校だよりやホームページを通して、学校の様子を発信することができた。学校評価アンケートでも保護者の方の9割を超える方が、学校だより・ホームページ等は子どもの様子を伝えるのに有効あるいは概ね有効と答えている。</p> <p>地域の教育力の活用については、各学年とも1回以上は地域の方を活用した授業を行い、外国語活動やクラブ活動では、ゲストティーチャーの活用も行った。</p>	

2 改善方針

重点課題1の、特別な支援が必要な児童に対して十分な支援ができなかったことについては、特別支援の児童は、学校全体で見えていくという共通認識のもと、意識をして対応できるように取り組んでいく。また、人権学習については、6年間で、さまざまな人権課題を確実に学習するカリキュラム編成を行っていききたい。

重点課題2については、児童アンケートの結果から「困ったとき、先生に相談できますか」の割合が低いことに対して、日常的な会話を心がけることや相談できる選択肢を増やし、困った時に相談できる人がいるような環境整備を整えていく。また、読書活動の充実に向けては司書をもっと活用することで、さらに充実していくようにしたい。

重点課題3については、体力調査の結果からも本校の体力面は、全国平均より下回っている種目が多いので、体力調査の分析を十分に行い、弱点克服に向けた体育の授業を展開していく。また、児童が日常的に運動に親しめるような取り組みも行うことで、「運動したり外で遊んだりしていますか」の肯定回答の割合を上げていく取り組みにもつなげていきたい。また、本校の課題として、児童が進んであいさつをする姿が少ないことから、委員会活動の取り組みを続けるとともに、保護者への啓発やはたらきかけも行っていきたい。

重点課題4の勤務時間内に効率的な職務運用を図るための改善方針としては、総勤務時間縮減推進委員を中心に具体的な取り組みや声かけを検討していきたい。また、地域の教育力の活用として、引き続き地域教材リストや実施記録を元に更なる拡充を行っていききたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 塩浜小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力が育つ授業の推進	3
主な方策	<p>【項目】個に応じた指導の工夫による基礎学力の一層の定着を図ります。</p> <p>(1) 聴く・話す・話し合う・書くなどの言語活動の充実</p> <p>(2) 朝の読書を含めた読書活動の推進</p> <p>(3) 児童が主体的に取り組むような指導法の工夫・改善</p> <p>(4) 中学校区の教職員が連携を密にした教育活動の充実</p>	
成果と課題	<p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書記録カードを活用することで、児童の読書への意欲が高まった。 ・児童が主体的に取り組めるよう「ねらい」や「つきたい力」を踏まえて教材をつくったり、学習過程を工夫したりすることができた。 ・学習でつまずきが見られる児童には、個別指導を行い、学習内容の定着を図った。 ・家庭での読書習慣の定着に課題がある。 	

重点目標 2	健康な心と体の育成	3
主な方策	<p>【項目】認め合い支え合う学級集団づくりを進めます。</p> <p>(1) 児童の実態から始める人権教育・多文化共生教育・道徳教育の推進</p> <p>(2) 個に応じ、つながる特別支援教育の推進</p> <p>(3) 体験活動を積極的に取り入れた豊かな人間性・社会性の育成</p> <p>(4) 運動する機会や場を設定し、発達段階に応じた運動習慣の育成・体力の向上を図る</p> <p>(5) 学校林を利用した環境教育の推進</p>	
成果と課題	<p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業で、準備運動と主運動のつながりを子どもたちに意識させることで、「何のためにこの運動をしているのか」ということを意識させることができた。 ・学習林が整備されたことで、各学年が自然とふれ合う機会が増え、自然の大切さを実感することができた。 ・一人ひとりが大切にされるなかまづくりや互いの人権を尊重する意識や態度を育てる人権教育の取り組みを、学校全体で系統的に進めていく必要がある。 	

重点目標 3	信頼される学校づくり	3
主な方策	<p>【項目】家庭や地域と共に力を合わせ、塩浜地区の未来を担う子どもを育てます。</p> <p>(1) 安全・安心な学校づくり（健康教育・防災教育）</p> <p>(2) 家庭・地域との連携や協働（塩浜地区ならではの地域資源を生かした教育の推進）</p> <p>(3) コミュニティスクールの活動の充実</p>	
成果と課題	<p><成果と課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した防災訓練で、児童の防災意識が高まった。 ・学校評価アンケートやチェックシートの取り組みをしたり、分析したことを学級懇談会で保護者と情報交換したりして、子どもたちの生活改善につなげることができた。 ・子どもを取り巻くさまざまな問題を共有することで、組織的に家庭や地域との連携をはかることができた。 ・保護者や地域に参観してもらう機会を設けているため、開かれた学校づくりができていくという評価を得ている。 ・コミュニティスクールにおいて、地域の力をより引き出す努力が必要。 	

2 改善方針

- ・家庭での読書については、図書館で借りた本を家に持ち帰る習慣を定着させる。
- ・学校の人権課題を明らかにし、研修会の持ち方の工夫や実践を交流し合う場の確保に努める。
- ・コミュニティスクールの会議内容の再考
- ・学校教育活動の在り方を理解してもらうことで、地域と学校との接点を見出し、地域人材の発掘及び有効な活用につなげていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 羽津小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	進んで学び合う力	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】 ○確かな学力の定着 ・ぐんぐんタイムにおいて読書、国語科や算数科の練習問題に取り組む。 ・読書を習慣化するために、朝読書、家庭読書などを読書週間に取り組む。 ・読書ボランティア「まざりいず」やPTA役員の協力で、読み聞かせ会を実施する。 ・「家庭学習のてびき」を配付し、家庭学習を習慣化するために、毎日宿題に取り組む。 ○問題解決能力の向上 ・ペア学習やグループ学習の活用をふまえて、個々の考えをもつ時間や学び合いができる学習課題を設定する。 ・地域と連携した体験的な学習を進める。</p> <p>【成果】 学力アセスメントでは、ほとんどの項目で全国平均や県平均を上回る結果を維持することができた。今までの方策の継続と更なる向上をめざし、新たな方策も試みることも惜みず努力した。グループ学習などを通して、考えたり発言したりするなど積極的に話し合いに参加する児童が増えた。「授業で発言・発表をしている」という児童は昨年度より12%も増えた。「読書をしている・読書が好き。」という児童は85%と読書の習慣化はおおむね良好であった。自分の考えをしっかりとつ活動を重視することで、表現力の向上につながった。</p> <p>【課題】 地域と連携した体験的な学習を進めることができたが、新たな地域教材の開発や人材の追加に努めなければならない。</p>	
重点目標2	認め合い協働する実践力	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】 ○人権を尊重する仲間づくりの推進 ・昨年度の道徳年間指導計画の見直しを基に、本年度の道徳教育に取り組む。 ・「なかまづくり」の推進。(学級遊びやきょうだい学級による児童集会の計画。教員が人権授業に関わる交流会や研修を通して実践力をつける。) ・支援を必要とする児童について、全職員による情報共有と共通理解を図る。中学校における児童生徒にかかる指導の連携。 ・Q U調査の指標を活用した児童理解や学級指導に取り組む。 ・校内特別支援委員会の定期的な開催や、担任やSCなどによる教育相談・カウンセリング体制の充実。 ・保護者への人権授業の公開。 ○生活習慣と規律ある生活の確立 ・あいさつをすることを通して、コミュニケーション力を伸ばす。 ・全校や学年・学級による指導の徹底(集会などで全体指導、学級会での話し合い、児童会の呼びかけ) ・啓発新聞やポスター掲示を通しての規範意識の向上。</p> <p>【成果】 児童へのアンケート「友だちの気持ちを大切にしている。」では、99%が「そう思う」に回答。昨年度の道徳教育の見直しやQ U調査を活用した学級指導が効果的な取り組みへとつながった。また、「自分のことを分かってくれる友だちがいる。」と感じる児童は昨年度より6%も向上し96%に到達した。95%の児童が「あいさつをしている」を回答。あいさつの大切さを意識する教育活動に取り組めた。児童や学級が支援を必要とする場面において、校内特別委員会やケース会議など通じて、職員全体の体制でサポートを実施することができた。廊下歩行など規律を守ろうと意識する児童が昨年度より8%増え、目標としていた80%を大幅に超えることができた。年々のわずかな割合の上昇であったが、取り組みの継続と改善が今年度の成果へとつながった。</p> <p>【課題】 道徳教育に関して特別な教科としての新たな教育活動が実施される。本年度の道徳教育・人権教育の成果を継続するためにも、新たな教材を中心とした指導計画や教材研究に積極的に取り組まなければならない。廊下歩行など規律を守ろうと意識する児童は86%と児童の意識は高まっているが、意識と行動の伴わない児童がまだまだいる。意識の向上と自己コントロールの自覚をめざし、取り組みを改善する必要がある。</p>	

重点目標 3	健康意識と体力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <p>○健康・安全意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健日より、保健指導、生活リズムチェック表の取り組みを充実させる。 ・食物アレルギー管理の徹底とていねいな個別対応。 ・給食だよりを発行したり、栄養教諭と連携した食育の授業に取り組んだりする。 ・避難訓練、引き渡し訓練の実施と防災ノートの活用。 <p>○体力・運動能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストなどの分析を通して、児童の運動能力の実態把握。 ・運動好きの子どもを育む授業づくりや、授業での基本運動の充実となわとび運動の取り組み。 ・休憩時間の過ごし方において、クラス遊びを推奨し、進んで運動をする児童を増やす。 <p>【成果】</p> <p>食物アレルギー管理に関して、栄養教諭との連携を高めながら、対応児童の持参する弁当を保管する設備の充実が新たに図れた。緊急時引き渡し訓練は、学校職員と保護者の連携や手順などが定着してきた。みえの学力向上県民運動チェックシートを活用して、生活リズムチェックを行い、児童への指導に生かすことができた。</p> <p>体育授業時の5分間縄跳び運動の継続など、児童の体力向上への取り組みを充実することができた。各学年において統一された「なわとびカード」や補助用具の活用、長なわ記録会やなわとび名人発表といった行事を実施でき、なわとび運動に親しむ児童が増えた。保護者アンケートの「学校は体力の向上に取り組んでいると思う。」に、93%の回答を得られた。</p> <p>【課題】</p> <p>災害時・緊急時への訓練のための訓練ではなく、現実的な安全確保のできる避難の実現に向けて今後検討していくべきである。</p> <p>体力運動能力については、全学年で調査を行い、成果と課題について明らかにすることができた。特になわとび運動における意欲向上が成果として挙げられた。今後、成果を継続させていくことが課題である。</p>	

重点目標 4	家庭や地域とつながる学校	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <p>○特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内特別支援委員会における方針や、SCなどによる教育相談・カウンセリングからの対応について、学校や担任が保護者との連携を図る。 <p>○開かれた学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動アンケートをもとに、学校づくり協力者会議と連携した学校評価を行い、PDCAサイクルによる学校づくりを進める。 ・学校だより・学年だよりによる発信内容の充実。学校ホームページの充実。 ・授業参観・学校公開・学校行事（学校集会など）の充実 <p>○保護者・地域との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、PTAと連携した安全指導。 ・地域や保護者による教育支援ボランティア・ゲストティーチャーの活用を進める。 ・保幼小中（学びの一体化）の交流や研修を深める。 <p>【成果】</p> <p>授業参観など年間計画通り実施でき、保護者アンケート「学校の様子を見る機会を十分に行っている。」では97%もの高い支持を得られた。今後も授業参観などの充実を図る。また、「たよりやホームページから学校の様子がわかる。」というアンケート結果も90%と高い支持を得られ、ホームページの運用方法の継続の成果が現れた。</p> <p>【課題】</p> <p>読書週間における読み聞かせなどを、PTA保護者ボランティアによって全学年を通して実施してもらうことができた。地域の在住者や組織による「学ぶ」場を設定し、実施することができた。しかし、関わりをもてなかった学年もあり、教育課程に沿える形で地域の教育力の参加協力を、今後も見いだしていかなければならない。</p>	

2 改善方針

<p>・児童アンケート「学校に来ることが楽しい。」では、昨年度より2%の向上があり、楽しいと感じる児童が90%を超えていた。しかし、学校生活に対する悩みや不満を抱いている児童はまだ多い。児童の悩みにいち早く気づき支援をしていくとともに、児童が生き生きと活躍できる授業や行事になるように努めたい。</p> <p>・「あいさつをきちんとしている。」では、児童アンケートと保護者アンケートの回答の差が11%もあった。挨拶の声が小さかったり、相手を見ずにあいさつしたりすることが原因と考えられる。今後はさらに家庭や地域と密接に連携した取り組みが必要である。</p> <p>・本年度、自己肯定感を捉えるアンケートに「自分には良いところがある。」と84%の児童が回答し、取り組みの成果が現れてきた。今後も自己肯定感を高める取り組みに力を入れていきたい。</p> <p>・保護者アンケート「家庭学習の習慣が身についている。」では、肯定的な回答の割合が下降傾向である。児童の家庭学習の習慣化をさらに進めるために、宿題の出し方を工夫していきたい。また、自主学習などの自発的な学習へと家庭学習の質を高めるための指導も行っていきたい。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 海蔵小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1 (研修)	○毎日の授業の充実 1時間1時間の授業を、子どもたちが「考える楽しさ」「学ぶ楽しさ」を味わい「わかった」「できた」「力がついた」と実感できるものに高める。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○つけたい力を明確にした系統性のある指導 ○研修委員を中心とした学年・校内で学び合う体制 ○教職員支援システム等による個人研修の活性化 ○地域指導者による学習支援 ○学習環境の整備 など <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「子どもにつけたい力」を設定したことで、より注意深く子どもたちを見つめられ、具体的な手立てを検討し、子どもの実態に即した指導を進めることができた。 ○見通しをもち、課題に取り組む子が増えてきた。 ○「わかる」「できる」を実感している子が増えてきた。 	
重点目標2 (人権)	○友だちと仲良くする 道徳的実践力を育てるとともに、自尊感情（自分のよさに気づき、自分をかけがえのない存在として感じる）を高める。言葉に気をつける、笑顔で接する。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内面をゆさぶる指導の工夫 ○児童の気持ちを受け止め、教師と児童、児童相互の温かな人間関係を構築 ○仲間づくり研修会の実施 ○四同研の提案や研修会への参加 など <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権教育推進計画に沿って、全職員共通理解のもと「仲間づくり」を進めることができた。 ○仲間づくり研修会を学年単位で密に行えたことで、学年全員で子どもを理解し、自尊感情を高められるような取り組みを行うことができた。 ○自分や友だちを大切にするとはどういうことか、日々の学校生活の中で具体的に指導を積み重ねていく。 	
重点目標3 (学習)	(子どもたちに求める態度) 誠実な態度 規律ある態度 勤勉な態度 ○チャイムで始める授業 ○課題に全力で取り組む姿勢	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年・全職員による一致した指導 ○家庭・地域との連携 ○環境整備 ○予鈴を用いた時間遵守の意識づけ ○主体的に取り組める課題づくり ○1時間目開始前の落ち着いた雰囲気づくり(朝の読書) <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予鈴を鳴らすことで、学習の準備を始めることが少しずつ定着してきており、チャイムとともに学習を始めることができるようになってきている。しかし、まだ不十分と感じられる。共通認識を図り、指導を徹底していかなければならない。机上の整頓も課題。 ○家庭学習の手引きを作成、配布していることで、職員間、家庭との共通理解が図られた。児童と保護者に対するアンケートの文言の違いから結果の数値に差が見られるため、今後も学年懇談会や通信などを通して、家庭学習について発信していく必要がある。 ○学習支援ボランティアとして、保護者や地域の方に協力していただき、子どもたちの学びをより豊かなものとすることができた。 	

重点目標 4 (生活安全)	(子どもたちに求める態度) 誠実な態度 規律ある態度 勤勉な態度 ○朝のあいさつ、授業の始めと終わりのあいさつ ○だまって掃除をする、後片付けまできちんとする ○トイレのスリッパをそろえる ○きまりをまもる	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>○学年・全職員による一致した指導 ○生徒指導連絡会等による情報共有 ○学びの一体化の推進</p> <p>○学校からの情報発信 ○家庭・地域との連携(コミュニティスクールの推進) ○環境整備</p> <p>【成果と課題】</p> <p>○「こんな海蔵っ子になろう」を活用し、子どもたちへの指導について全職員による共通理解を図ることができた。また家庭にも協力を得ながら、年間を通して指導に生かすことができた。</p> <p>○地域と連携しながら児童の登下校時のあいさつの現状を知り、指導に生かした結果、あいさつできる子が増えてきている。しかし、週明けの朝のあいさつには課題が残る。</p> <p>○後片付けまでできるように掃除道具を整備し、掃除場所ごとにカラービニールテープを貼ることで、どこに掃除道具を戻せばよいか視覚的に分かりやすくしている。そのため掃除道具箱が整頓されている。</p> <p>○委員会が中心となり、毎日朝と放課後にトイレスリッパ点検を行った。花丸カードや丸カードを作成し、そろっているトイレにはカードを貼るなど意欲向上に努めた。各学年、学級で指導を続けた結果、意識が高まり、スリッパがそろっていることが増えた。</p>	

重点目標 5 (保健体育)	(子どもたちに求める態度) 誠実な態度 規律ある態度 勤勉な態度 ○体育の授業や体育的行事を、運動の楽しさを感じられるものにするともに、運動機会をできるだけ多くして体力を高める。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>○授業始めの5分間運動の実施 ○全校での体力テスト実施と分析</p> <p>○持久走・縄跳び運動の実施</p> <p>【成果と課題】</p> <p>○体育的行事がよりよい活動となるように、PTAや地域の方と連携し、協力して取り組むことができた。</p> <p>○5分間運動では、毎月、季節の応じた運動を行わせた。また、主運動では、つけたい力を意識しながら授業を工夫することができた。しかし、説明や準備などの時間の使い方や運動量の確保などに改善が必要である。</p> <p>○体育の授業や行事で、教職員の一致した指導の下、服装を整えて取り組むことがほぼ達成できたと感じている。(体操服の貸し出しを行ったことも、良かった。)</p> <p>しかし、体操服の管理では返却されていない、数が足りないなどの課題が残った。</p> <p>○行事に取り組むときに、準備の段階から、行事のめあてを共有して指導することができた。</p> <p>○学習課題の提示のためのホワイトボードの活用は、授業のめあてをはっきりさせ、学習のまとめに有効な手立てであった。しかし、活用できない時があり、毎時間徹底されるまでには至っていないようである。</p> <p>○アンケート結果から外遊びが好きだと答えた割合が少し下がった。授業の中で、子どもたちに運動の楽しさを伝えていくことを意識していかなければならない。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の結果から、学年別・運動別・系統別でデータ分析をしていく。その上で、その学年の強み弱みを明確にしていく。また、弱みを克服できるよう授業改善に取り組む。 ・授業時の運動場・体育館の割り当て方について改善する必要がある。 具体的には、各クラス曜日・時間を固定された状態で授業を組んでいく方がよい。 ・課題提示し見通しをもたせ、授業で分かったことを振り返ることができる活動を取り入れた授業づくりを今後も研修として進めていく。 ・始業前の準備を定着させるために、朝の読書の前に本を準備させることから始める。 ・家庭学習の手引きを年度初めや、学期初めに確認する。また、学年通信等で家庭に啓発をし続ける。 ・「こんな海蔵っ子になろう」の実現に向け、「トイレのスリッパ点検」や「あいさつ運動」など児童会の活動を充実させ、より児童の主体的な活動になるよう、さらに取り組む。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 富洲原小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	4
主な方策 成果と課題	<p>・ 90%の児童が「読み・書き・計算の力がついてきている」と感じており、保護者においても90%以上（判断できない・わからないを除いた総数に対する割合）が基礎・基本の学力が定着していると教育活動に関するアンケートで回答している。これは、本校が基礎基本の力の定着を大切に考え、学びの一体化の取組でもあるベーシックタイム（朝の10分間学習）等で漢字や計算力の向上を目指した取組を進めていること、「家庭学習のてびき・すすめかた」を使い、保護者の協力を得ながら家庭学習の充実を図っていることが、着実に児童の力になっていると考えられる。</p> <p>・ 「授業で教え合ったり考え合ったりしている」と感じている児童は、年々評価が高くなってきており、今年度は91%に達している。研修テーマを「自分の思いを伝え、高め合う授業づくりを目指して」とし、「教師が出すぎない」をキーワードに、児童が主体的に学び合う授業を目指してきた。今後も、効果的なペア学習・グループ学習の活用、少人数指導の有効的な活用を研究し、主体的・対話的で深い学びを創造していきたい。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>・ 「人権の大切さについて、きちんと考え行動している」児童の割合が94%である。今後も、豊かな人権感覚、人権意識を養うため、日常的な人権学習を行うとともに、地域の方にゲストティーチャーとしてきていただく等、地域人材や外部講師を活用した人権教育を進めていきたい。</p> <p>・ 「学校生活のきまりを守っている」児童の割合が91%で、規範意識が高い傾向にある。また、「社会のルールについてみんなで考え合うことができている」児童が89%である。これは、道徳・学活等の授業にとどまらず、交通安全・防犯・人権・ネットモラルにかかわる出前授業や、修学旅行や自然教室、社会見学等の校外学習の機会もとらえ、多層的に指導を行ってきた結果であると考えられる。</p> <p>・ どの子ども尊重される学年・学級集団を構築するため、些細な人間関係のトラブル等を看過せず、きめ細やかな対処・対応を行ってきた。また、学年を超えた情報の共有を行い、学校全体で児童理解に努めてきた。</p>	
重点目標 3	健康・体力の向上と危機管理能力の定着	4
主な方策 成果と課題	<p>・ 86%の児童が「進んで体を動かしている」と感じている。また、「基礎体力の定着と運動能力の向上」の項目において、90%以上の保護者が肯定的な回答であった。年間計画に基づいて各行事や〇〇月間（鉄棒・とび箱・持久走・縄跳び）、体育科の授業等を継続的に行ってきた成果であると考えられる。体力テストでは、全学年で取り組み、結果を記録し、児童は前年の記録を超えようと意欲的に取り組んでいる。</p> <p>・ 「危機管理の徹底」に関することでは、90%以上の保護者が肯定的な評価であった。今後も緊急下校訓練や避難訓練等の防災訓練、防犯訓練、交通安全指導に取り組み、児童の安全確保、危機管理意識の向上、情報提供に努めていきたい。</p> <p>・ 「保健指導と食育」に関することについては、90%近くの肯定的な評価をいただいている。長期休業中に歯みがきや早寝早起きのがんばりカードに取り組みせたり、学校保健委員会で姿勢について考え、チェックカードにで姿勢について意識させてきた。今後も家庭と学校が連携して取り組めるように努めていきたい。</p>	

重点目標 4	地域とともにある学校づくりの推進	4
主な方策 成果と課題	<p>・「学習したことは、将来役に立つ」「将来の夢や目標をもっている」と90%以上に児童が肯定的にとらえている。また、「自分のがよいところがある」と、自己肯定感をもつ児童が増えている。各学年で外部講師の方による授業や出前授業、校外学習に取り組んでいる。また、コミュニティスクール推進により、地域の方に定期的に授業での児童の様子を参観していただいている。いろいろな方と接することで、視野が広がり、褒められたり励まされたりすることも増え、児童の自信や意欲へと繋がっていると考えられる。今後も継続的に、地域と共に学校づくりを進めていきたい。</p> <p>・「通信、ホームページ等による情報提供」「授業参観や学校行事の設定や呼びかけ」に関することについて、保護者の90%以上が肯定的な評価をしている。しかし、昨年度より「判断できない・わからない」という回答が増えたことも真摯に受け止め、より丁寧な情報発信に努めていきたい。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>・「先生たちは、考え合ったり話し合ったりする授業をしている」と96%の児童が感じている。校内研修において「出すぎない授業」を合言葉に、主体的に学び合う授業に取り組んできた成果であると思われる。今後も、校内研修の充実により教職員の指導力の向上を図り、授業改善と授業充実を進める。</p> <p>・「自分や友達に悩みや困ったことがあったとき、先生に相談できる」児童は、80%以上いる。今後も、児童からの働きかけを待つばかりでなく、わずかな変化にも気づき教師側から声をかけたり、担任ばかりでなく他の教師にも安心して相談できる雰囲気づくりに努めていきたい。</p>	

2 改善方針

・教職員へのアンケート項目「ICTを活用した授業の充実」において、「子どもの学習課題への興味・関心を高めたり、学び合いや協働的な学習を深めたりできるよう、ICTを効果的に活用することができた」と肯定的に多くがとらえているが、「発達の段階に応じた情報活用能力を身につけさせるための学習活動を行うことができた」では全項目中一番低い回答となっている。このことは、より一層、ICT研修を進めなくてはならないということである。今後、ICT研修会への積極的な参加、地域の人材によるICTサポーター等の支援により、授業や校務におけるICT活用を進めていきたい。

・本年度、保護者への教育活動に関するアンケート結果において、「判断できない・わからない」という回答が多かった。学校だより、学年・学級通信、各種たより、ホームページ等で、発信を行ってきているが、より積極的に、より丁寧な発信に努めていきたい。

自己評価書

四日市市立 富田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力を定着する。	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>・一昨年度から「問題解決能力の育成を目指した実践的・効果的な授業づくり等の研究～思考の過程が見える、表現する力を育てる～」を研修のテーマとして、ペア・グループ学習や問題解決学習を取り入れた授業（5つのプロセスを意識した授業）を、学び合いのある授業づくりの具体的方策として取り入れてきた。</p> <p>・3年目であるので、さらにプロセスを意識した、課題・見通し・共有・振り返りを意識した授業に取り組めた。</p> <p>・思考の過程が見える、表現する力を育てるを研修のテーマとし、考えてみたい課題、自分の考えを持たせる手だて、考えを出させる手だて、思いを伝える手だてを工夫することで、学びを深める子どもをめざし、授業づくりを進めることができた。</p> <p>・「授業はわかりやすいですか」という項目の子ども用のアンケートでは、・・・95%の値でとてもポイントが高い。</p> <p>・「授業で学習したことは、将来に役に立つと思う」という項目の子ども用アンケートでは、96%とポイントが高い。</p> <p>・各学年の取組を校内研修等で交流し合い、それを日々の実践の授業の中で活かすことで、子ども達が自分の考えを持ち、意見を交流し学びを深める姿が昨年度よりもさらに見られるようになった。</p> <p>・英語実践推進校であり、外国語担当を中心に校内全体で重点的に取り組み、「外国語の授業は楽しいですか」という項目の子ども用アンケートでは、肯定回答が82%というポイントであった。</p> <p>・各学年の実態に応じて、朝の学習・漢字・計算・視写などを学期毎に、計画を立てて取り組んできた。結果、各学年に配当されている漢字の90%以上が書けるようになった児童は、全校児童の98%（2学期）になった。また、各学年の重点とする計算問題についても90%以上の習熟・制限時間内での処理を達成できるように、2学期から取り組みを進めている。</p> <p>・視写の取り組みでは、10分間で何文字書けたかを記録し、学期ごとに指導初期・終期と実施してきた。1～2学期の結果から、どの学年も指導により書ける文字数が増えており、学年目標字数を超える学年が増えている。また、富田中学校区学びの一体化教科部会にて、子どもたちの「ノート作り」について情報交換をする中で、どの学年も学年に応じたノート指導がなされ、「学習内容が自分の考えと共に、分かりやすくまとめられているノート」を目標に発達段階に応じた指導の有用性が見えてきた。今後も集中力や書く力の向上と共に、ノートへのまとめ方といった学習技能の向上も大切にしていきたい。</p> <p>・夏期にICT研修会を実施した。近年ネット利用の低年齢化が進んでいることから、ネットモラルを持つための指導法の研修を行った。また、本校に配置されているプロジェクタなどの機器活用法について校内研修を進めたこともあり、教職員のICT機器の活用場面が増えた。今後は、学力向上をしていくうえでの効果的な活用法を共有していく必要がある。</p> <p>・全国学力・学習状況調査結果をふまえ、強み弱みを分析し、全教職員へ周知し、共通理解をすることができた。尚、調査実施後、早い段階で全職員により、自校採点を行ったことで、本校児童の学力を把握し、学力の傾向を掴むことができ、いち早く全職員での授業改善を図ることができた。</p> <p>・NRT到達度検査を実施した。全国平均より高いポイントが多い。学年ごとに強みと弱みを分析し、授業の改善につなげることができた。</p> <p>・低・中・高学年それぞれの年間読書量のめあてを設定し取り組んできた。読書の時間や校内読書週間を設けたり、ボランティアやストーリーテリング団体や教師による読み聞かせをしたりすることで、多くの児童がめあてを達成することができた。</p> <p>・学校掲示板にて、掲示委員会の掲示物と共に、各学年の学習紹介コーナーを設けている。掲示板の前で立ち止まる子どもも多く、学びの様子が学年内に留まることなく、他学年にも広がりがつつある。</p>	

重点目標 2	心の教育を充実する。	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の教育相談、年3回のいじめ調査、4年生以上を対象とした年2回のQ U調査により、各学級や児童の実態を把握し、その結果を学級経営に役立てるとともに、学年間及び職員間で児童の共通理解を図った。 ・上記以外にも、毎月の職員会議の「児童情報交換」にて、各学級や児童の実態を報告し、職員間での共通理解を図るよう努めた。また、早急に職員間で共通理解を図らなければいけない場合は打ち合わせ等で集まり、共通理解を図るよう努めた。 ・「学びの一体化」では、保幼小中で気になる児童・生徒の情報交換を行い、連携を図った。 ・児童の実態に応じて、定期的に「ろうかのきまりを守ろう」という全学級の代表者1人ずつが廊下に立ち、廊下を安全に歩行できるよう呼びかけを行った。実際に廊下に立った児童が学級で気づいたこと等を発表させることで、「みんなで守ろう」という意識が強まった。しかし、取り組み期間が終わると、忘れて走ってしまう、校内安全の意識が定着しないという課題が残った。 ・年2回「ふれあい集会」として“思いやりのある子”の育成をねらいとし、全校児童で取り組んだ。“ふれあい班”の人たちと協力することの大切さや友だちのよさに気づくことができ、上級生は下級生を思いやる気持ちをもつことができた。ふれあい集会を行う前に、ふれあい班の学年間で交流する「ふれあい遊び」を実施したので、交流の深まりも見られた。2回目の集会では“昔遊びコーナー”として「地域の方」にも協力を仰ぎ行うことができた。また、昨年度の反省をいかし、ふれあい集会の前に「地域の方と昔遊び」を紹介することで、より密な交流になった。 ・「差別を見抜き、差別を許さない主体的に行動できる子」をテーマに、各学年で人権教育の提案授業を行ってきた。各学年で重点教材を明確にし、人権教育を教育年間計画に位置づけ、心の教育を進めてきた。どの学年も子どもの実態に即した学習題材を選び、取り組めた。 ・毎日の生活や授業の中に、友達を認め合う関係・協力し合う関係を大切にする活動も取り入れた。その結果、個人差はあるが、人の気持ちを考えて行動に移せる子どもが増えてきた。しかし、学んだことが実生活の中で生かされないことがまだある。 ・なかまづくりレポートをもとに、人権学習・なかま作りについて教師間で実践交流を図った。 ・学校評価アンケートでは、心の教育の充実に関して、保護者アンケート「思いやりの心が育っている」項目は 93%の肯定回答であった。今後も実践力をつける取り組みが必要である。 ・「いじめを見たとき止めるための行動をおこすことができますか」という子ども用アンケートでは、肯定回答が87%と昨年度よりポイントが少し上がった。 ・道徳年間計画を見直し、それをもとに授業進行すると共に、子どもたちの実態に合う教材開発を進めることができた。 ・道徳の教科化に向けて校内研修を実施した。記述式の評価や教材の流れ等具体的にイメージを持ち2学期以降の指導に活かすことができた。 	

重点目標 3	たくましい心と体をつくる。	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会をはじめ、かけ足週間、なわとび週間（長縄・短縄）、長縄記録会などの取り組みを通して体力向上に努めてきた。また、各学期に、体育の授業や外遊びに関するアンケートを児童に実施し、それとともに、「楽しく取り組める」授業の改善に努めてきた。 ・授業開始時に5分間運動に取り組むとともに、授業のめあてと振り返りを行い、子どもたちが運動のおもしろさを感じられる授業づくりに取り組んできた。 ・およそ9割の児童が「体育の授業が好き」という質問に「とても好き」「まあまあ好き」と回答している。 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技調査では、5年生男女ともにABC判定の児童が9割に迫る割合となった。 ・担任を中心とした食育指導、掲示物や給食だよりの取り組みを通して、食の大切さを伝える活動を実施してきた。 ・養護教諭を中心として、保健室前の掲示物や保健だよりの取り組みを通して、継続的な保健指導を行ってきた。 ・歯磨きや怪我の手当、早寝早起きなどの学習も発育測定時に積極的に指導してきた。また、学校保健委員会では、体験的な学習を取り入れ、けがをしにくいバランスの良い体づくりについて考える機会を設けてきた。 ・「学びの一体化」の体力部会では、体力テストのアンケート結果の分析と運動指導の情報交換、生活習慣アンケートの実施と分析をし、共通理解を図ることができた。 ・各学期に取り組んだ学力向上県民シートや中学校区で取り組んでいる生活習慣アンケートを活かし、子ども達の生活リズムを改善する取り組みを行ってきた。保護者への啓発を促すため中学校と連携し、睡眠についてのチェックシートを作成して、10月に小中一斉で取り組みを行った。さらなる改善を努めるためには保護者への啓発が欠かせない。今後も保護者への発信を継続していきたい。 	

重点目標 4	学校教育力を高める。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で、教材や指導方法について、日頃から話し合い、工夫して授業に取り組んできた。また全体提案授業や学年部研究授業についても、学年で事前・事後に検討し改善することで成果が得られた。 ・保幼小中合同の全体授業研や学びの一体化による話し合いにより、発達段階に応じた指導の手だてを学び、連携した学びを進めることができた。 ・学年で研修主題を達成するために、5つのプロセスをもとに、問題解決能力の育成を目指した授業づくりを進めた。考えてみたい課題・自分の考えを持たせる手だてと出させる手だて・思いを伝える手だて、学び合いの三つの柱の手だてを話し合い、1年間の取組計画を立てた。年度末には成果と課題を作成する。この手だてをもとに、全体研修会や学年研修会をすることで他学年の様子を知ることができ、子ども達への指導に活かすことができた。 ・授業で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れ、授業で扱うノートに目標（めあて・ねらい）とまとめ（ふりかえり）を書く授業に取り組んだ。 	

重点目標 5	家庭・地域とともに子どもを育てる。	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」を配付し4年目になる。4月の学校づくり説明会、6月の懇談会の場でも家庭学習の手引きについての説明を行い家庭学習の大切さを伝えてきた。学年通信や学級通信にて、子どもの自主学習ノートを紹介したり、内容について知らせたりした。さらに、校内掲示板にも自主学習の頑張りを掲示してきた。その結果、家庭学習が定着している子が増えてきた。また、家庭学習への意識の高まりや宿題への協力や自主学習の内容や量の深まりが見えてきた。一方で、家庭学習が定着していない子への指導を考える必要がある。 ・今年度も「環境学習」「地域学習」において、地域の方をゲストティーチャーとして迎え、有意義な学習活動となった。地域教材開発は、徐々に進めてきてはいるものの、教師自身が富田についてより深く知る必要がある。 	

2 改善方針

<p>【教職員の指導力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この取組を通して、表現する姿や学び合う姿がどのように力がついてきたのかを検証し、次への成果・課題として取り組んでいく必要がある。 ・学力は定着してきているので、11年間を見通した子ども達の姿を考え、さらに自分の言葉で表現できる子どもを育てる必要がある。 <p>【確かな学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学力学習状況調査やNRT到達度検査などの結果から、強み弱みを分析し、本校職員の周知と共に、学びの一体化教科部会にて、中学校と情報交換を進め、授業改善につなげる。 <p>【心の教育を充実する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの姿から、より道徳的実践につなげられるよう、道徳年間計画を見直し、「導入」「展開」「終末」といったより具体性を伴った計画に改訂する。 <p>【家庭・地域とともに子どもを育てる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」の配付継続と、通信や懇談会などで「自主学習の方法」や「実際の子どもの学習ノート」などを、保護者に伝えていく。また、休日の学習や学習時間の在り方についても考えていきたい。さらに、家庭学習が定着していない子に対して、学校と家庭がより連携した指導を進めていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 日永小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○朝学習の充実では、基礎基本の学習を繰り返し行うことで学力が定着してきた。みえスタディ・チェックで4年、5年ともに正答率が県平均より2～3%以上、上回ることができた。ただ、既習内容でも、少し時間がたって忘れてしまったためにできなかった問題もあったので、朝学習や宿題の中身を工夫して、既習内容をうまく復習できるようにした。</p> <p>○学び合いのある授業、行事の実践では、グループ活動、ペア活動の時間を増やし、児童が互いに「話す・聴く・考える」ことで学び合うことができた。</p> <p>○全学年でノート指導に力を入れた。1時限の学習の課題を明示し、課題解決の課程がノートに残るように工夫した。</p> <p>○家庭学習の充実（家庭学習+1プログラム）では、各学年に応じたプラスワンの取り組み方を掲示し、取り組み内容を充実させることができた。</p>	
重点目標2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○いじめや差別を許さない態度や判断力、自分や他者を大切にできる心の育成の充実では、児童へのアンケートで「他の人を大切にしている」という回答が96.9%だった。また、保護者へのアンケートでは「児童一人ひとりの人権を大切にしたい教育を進めている。」に94.2%の肯定的回答をいただき、本校の人権教育への取り組みに一定の成果が出ていると分析している。ただ、児童へのアンケートで「自分のことが好きである。」という回答が65%にとどまり、昨年より若干下落した。引き続き自己肯定感を育てる取り組みに力を入れていかなければならない。学年があがるにつれて自己肯定感が下がる傾向があるので、高学年での取り組みの工夫が必要である。</p> <p>○違いを認め合い、互いに育っていこうとする心の育成では、学期初めや何か気になることがあるときに学年集会を持ち、児童の意識を高めるようにした。また、運動会や長なわ集会などの行事でも仲間づくりを意識した内容にして取り組むことができた。</p>	
重点目標3	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○体育の授業や体育的行事の充実では、新体力テストを全学年で実施し、その結果分析をもとに体育の授業改善やかけ足・なわとび等の体力づくりに取り組むことで、基礎体力の向上に努めることができた。また、授業の始めに「5分間運動」を行い、基礎体力の向上を図った。投げる力を向上させるため、休み時間にドッジボールに取り組んだり、物を握る力を高める遊びや運動に取り組んだりした。</p> <p>○安全教育、保健指導等の充実では、手洗い・歯磨き等の保健指導を養護教諭が行うことにより、自分の体や健康に関心を持つとともに、生活習慣を改善していかうとする児童が増えてきた。</p> <p>○食育の推進では、全学年で発達段階に応じた食育を行うことで、食についての児童の意識を高めることができた。また、1年生を対象に食アレルギーの学習にも取り組んだ。</p> <p>○社会生活上のルールの徹底では、児童へのアンケートで、94.7%の児童が「学校のきまりをまもっている。」と回答したが、登下校の仕方、廊下歩行等今後も根気強く全職員が一貫した指導を続けていかなければならない。</p>	

重点目標 4	教職員の資質・指導力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○校内研修の充実、全員授業公開による指導力の向上では、教員全員が授業公開を行い、事後検討会を通して、子どもたちの学び合う姿、授業の進め方、課題の与え方など本校が授業を行う上で大切にしていることについてふり返ることができた。グループで事後検討会を行ったことで、多くの参加者から発言があり、充実した事後検討会にできた。</p> <p>○少人数指導、IT等の指導の充実、ICT機器の活用では、全学年で算数科で少人数指導・ITを行い、複数の教師の視点で児童を把握し、授業を行うことができた。また、全学年、全教科でパソコンや電子黒板、プロジェクター等のICT機器の活用ができた。その結果、児童にわかりやすい授業が行え、児童自ら授業に参加することが多くなった。ただ、電子黒板が1学年に1台しかなく、必要な時に使えないことがあった。</p> <p>○チャイム席の徹底。45分(90分)完結の授業展開の工夫では、児童に「5分前行動」を徹底させ、教師も授業開始のチャイムに遅れないよう行動した。</p> <p>○保・幼・小・中が連携した授業づくり、キャリア教育の推進では、南中学校区で歩調をそろえた取り組みを行った。また、中学校の教師が小学校で授業をするなどして、スムーズなつながりができるようにした。6年生が高校でものつくり体験を行った。</p> <p>○校務の効率化の促進では、パソコンを活用した効率化を進めることができた。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上（家庭・地域等との協働）	3
主な方策 成果と課題	<p>○ホームページの充実、通信等の工夫では、学校HPの毎日の更新や学級・学年通信により学校の様子を保護者・地域等に知らせることができた。</p> <p>○ゲストティーチャー、学生ボランティアの活用では、積極的にボランティアを募集し、図書ボランティア、つんつく保存会、学生ボランティアなどに来ていただくことができ、多くの児童が地域の方とふれあうことができた。また、今年度は保護者ボランティア登録制度2年目になり、登録していただいた保護者に家庭科や社会科・総合的な学習の時間の授業支援に入っていた。ボランティアに支援していただくことで学習を深めることができたが、ゲストティーチャーに来ていただく場合は、ねらいを明確に持つとともに、次時にどのようにつなげていくかについても十分に考えることが課題になった。</p> <p>○地域と協働し、交通安全指導、防犯活動等を推進することができた。</p> <p>○学校公開日や授業参観、学校行事等、毎月学校を公開する日を設け、年10回以上公開することができた。授業や行事等を公開したことで、多くの保護者や学校関係者に参観していただき、学校の様子を知っていただくことができた。また、日頃から家庭との連携を図り、理解と協力を得るように努めた。</p> <p>○年1回の学校評価をもとにした改善活動。年3回の学校づくり協力者会議を開催した。</p>	

2 改善方針

<p>○重点目標 1 「確かな学力の育成」 授業の課題とふりかえりをノートに書かせることを徹底する。 日永っこ10の準備の点検を定期的に行うとともに、用具の正しい使用方法を個別指導で徹底する。</p> <p>○重点目標 2 「豊かな心の育成」 自己肯定感を育てる取り組みを人権教育担当、道徳教育推進教師が主になり、全校で計画的に行っていく。</p> <p>○重点目標 3 「健康な心と体の育成」 基礎体力向上のため、休み時間は外に出て、普段から体を動かすようにさせるとともに、体育の始めの5分間運動を継続する。</p> <p>○重点目標 4 「教職員の資質・指導力の向上」 全体研修会は全教員で行うが、学年研修では、該当学年以外の参加者が少なかったので、積極的に他学年の授業提案にも参加するようにする。主研修以外の研修も積極的に行っていく。</p> <p>○重点目標 5 「家庭・地域との連携」 地域の人材を今まで以上に利用する。指導内容を再点検し、新たなゲストティーチャーを発掘する。</p>

【様式1】

自己評価書

四日市市立 四郷小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○基礎基本の定着のために、朝学習や木7学習・長期休業中（補充学習）を行い、基礎学力の定着に取り組んだ。3～6年生の算数では、少人数指導を実施し、「わかりやすい」と答える児童が多く、基礎学力の定着に効果があった。</p> <p>○問題解決能力をつける授業づくりでは、めあてを確認し、解決のために見通しを持たせるように工夫した。今後、聞く力を育てる指導を充実させる必要がある。</p> <p>○ICT機器を活用し、視覚化してわかりやすい授業に取り組めた。</p> <p>●家庭学習の定着に重点を置き、「家庭学習の忍法の術」を配布し、保護者とも連携を取り家庭学習の定着に取り組んだ。家庭学習が定着している児童と定着していない児童があり、課題の工夫や保護者との連携を深めていく。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○一人ひとりを大切にした生徒指導では、職員間の情報共有と学校全体で取り組むことに重点を置いて指導することができた。</p> <p>○学校アンケートやQV・仲間づくりレポートを活用し、実態把握を行った。仲間づくりの職員研修を行い、児童の対応に役立てた。</p> <p>●児童会活動や縦割り班での班活動を取組んできた。上級生が下級生の手本となるようにしてきたが、まだ日常的な生活場面では発揮できることが少ない。児童会であいさつ運動に取り組んできたが、自分から進んであいさつができる児童の育成が課題である。</p>	
重点目標 3	健康な心と体の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○児童が意欲的にスポーツに親しむ行事や授業（水泳・運動会・行間駆け足・マラソン記録会・業間なわとび等）を計画的に実施することができた。6年生が1年生のサポートをしたり、5年生が様々ななわとびの技を示範したりするなど、継続的に運動をする児童の姿が見られた。</p> <p>○スクールカウンセラーや専門機関と連携して健やかな心の育成に取り組めた。</p> <p>○栄養教諭と担任、養護教諭と担任が連携した食育や保健学習を全クラスで行うことができた。</p> <p>○避難訓練や地域防災訓練などを通して様々な災害から自分の身を守る安全教育に取り組む、自助・共助の力を育成できた。</p>	
重点目標 4	特別支援教育の充実	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○特別支援委員会を定期的で開催し、個々の児童のニーズに応じた教育を学校全体で共有し、推進できた。</p> <p>○校内特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に教育相談を行い、校内支援体制づくりを行った。</p> <p>○サポートルーム研修に全職員で取り組んだ。今後も教材の工夫等、個々の児童の実態に合った研修を深めていきたい。</p> <p>○教員全員がユニバーサルデザインの授業づくりの研修を進めた。次年度も引き続き授業改善を行っていきたい。</p>	

重点目標 5	家庭・地域との連携	4
主な方策 成果と課題	<p>○学校便り・学年便りの発行やホームページの定期的な更新を行い、開かれた学校づくりに努め、情報発信を行った。</p> <p>○コミュニティスクール運営委員会や保護者・地域と連携し、教育活動ができた。交通安全ボランティアや図書ボランティアなどにより、子どもの安全見守りや豊かな心の育成など協力いただいた。また、地域学習では、自治会長をはじめ、案内役として地域の方に地元の歴史や伝統芸能などの説明をしていただき、学習が深まった。</p>	

重点目標 6	教職員の資質・能力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○県・市の教育アドバイザーに若手教員が丁寧な指導を受け、授業力向上につながった。具体的な助言をいただき、授業づくりや学級経営を学べた。</p> <p>○学びの一体化の取り組みで校区の校園と情報交換ができ、見通しを持った対応策を話し合うことができた。6年生では、英語科・体育科の中学校教員による乗り入れ授業が行われ、中学校への期待を持たせることができた。</p> <p>○教職員が地域学習をするのに、四郷郷土資料館の協力や西日野にじ学園との交流を行い、学習を深めることができた。</p> <p>○小学校英語の導入に向けて校内研修を行い、学び合うことができた。</p>	

2 改善方針

○生徒指導対応においては、教育委員会や関係機関と連携を取り、全職員が同じ対応ができるようにする。全職員で情報共有をするために、日報や打合せで確認し、学校として対応する。

○児童のあいさつや規範意識の向上のために、児童会活動の内容を検討して活性化を図り、自主活動ができるようにする。

○学習の基礎基本となる読解力や文章構成力を向上させる指導を引き続き研修していく。

また、ユニバーサルデザインによる授業を検討し、研修を深める。

○豊かな人間性の育成として、コミュニケーション力の向上と思いやりの気持ちを持って相手と接することができるように、日常の様々な教育活動の場面で指導する。また、児童の発達段階を考え、計画的な道徳の授業、人権学習を推進する。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 高花平小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	自ら考え自ら考える力の育成	3
主な方策 成果と課題	○アンケート調査より、子どもたちの学習に対する意欲的な姿勢が感じられた。スタディタイムなど基礎学力定着を図る取り組みが、子どもたちの自信につながっているものと思われる。基礎学力定着による定着に加え、聴き合ったり、話し合ったり伝えあったりする学び合う授業スタイルの確立が、子どもたちの学習に対する姿勢に表れていると考えられるので、今後も取り組みを継続していきたい。	
重点目標2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	○「人権を尊重し、いじめや差別をなくす実践力の育成」については、教育相談やQUアンケート調査などを利用した早期発見・早期対応の体制が確立できており、問題行動が少なく、子どもが落ち着いた生活を送っている。いじめや差別の未然防止については、保護者も児童も高評価が昨年度より上がっており、子どもの意識も向上しており、保護者にも理解してもらえるようになってきている。 ○あいさつについては、保護者・子どものアンケートから昨年度より、高い評価が増えている。しかし、D評価も1ポイント増えており、あいさつできる子としない子の2極化が進んでしまっている。今後も引き続いて指導していく必要がある。 ○教育相談や個別指導の充実についても、児童・保護者とも高評価を得られた。子に応じた指導の充実が、子どもの落ち着きにもつながっていると考える。	
重点目標3	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	○「健康な心と体の育成」に関して、アンケートの結果から、今年度も比較的良好な評価を得られた。昨年度に引き続き、体育の授業の充実と、遠足や運動会、マラソン記録会及びかけあしタイム、なわとび週間等、年間を通して体育的行事に取り組んでいる成果と捉えている。また、外遊びの日を決めて、クラスで休み時間に遊んでいる学年の評価が高い傾向が見られた。授業や行事だけでなく、休み時間にも外で遊んで体力をつけていけるよう、学校全体で指導していきたい。 ○食に関する指導については、家庭の授業や養護教諭による保健指導を行ってきた。来年度も、引き続き取り組みを続けていきたい。 ○安全教育に関しては、避難訓練や交通安全教室などの行事に取り組んできた。しかし、校舎内で廊下を走っている児童の様子もみられる。子どもたち一人ひとりが意識をして、安全に過ごせるよう、日頃の声掛けに努めていきたい。	
重点目標4	地域に貢献する学校、家庭・地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	○情報公開等に対する保護者の評価は、前年度に比べ下がる結果となった。HPや通信等を通じて定期的に教育活動に関する情報発信を行っていく。 ○朝のあいさつ運動や下校時の見回り活動、クラブ活動や昔遊び等、多くの場面で保護者・地域との連携を図ってきたことにより、子どもたちの安全や豊かな学びが実を結んでいる。こういった活動や学習が、より充実したものとなるように連携を密にし、地域人材を活用していきたい。	

2 改善方針

○ 高め合う支え合う教職員集団

授業を互いに見せ合ったり、指導方法を共有したりしながら、授業改善を目指して取り組んできた。今後もさらなる授業の質の向上をめざし、授業づくりを柱に、中堅ベテラン教員が、若手教員の悩みを吸い上げる等のサポートを行いながら、教職員全体のレベルアップを図る。また、来年度は、外国語の移行期間でもあるため1年をかけて全体計画や流れを考えていきたい。

○ 学校・保護者・地域が一体となった運営

・HP、通信の定期的な更新や発行を行い、新しい情報を提供する。
・あいさつ運動やクリーン作戦等の活動を継続し、特に、あいさつの励行に重点を置きながら、人間性豊かな心の育成を図っていく。また、本年度、地域の人が講師となって、クラブ活動や防災訓練等の体験学習が行われ、子どもたちにとって貴重な学びになった。今後も地域の人材を活かした教育活動を計画する。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 常磐小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>「学校の勉強は、よく分かりますか。」 【児童アンケート結果 96%】 「家庭学習をきちんとしていますか。」 【児童アンケート結果 86%】 「本をよく読んでいますか。」 【児童アンケート結果 82%】</p> <p>【朝学習の充実、基礎的・基本的知識・技能の習得・定着】 ○校内研修にかかわり学校全体で学び合いを行い、子ども同士や教師が、分からない子に寄り添うことで、主体的に学習する子が増えてきた。朝の学習時間には、学力調査等の調査結果を活かして、算数の基礎・基本の問題や自分の考えを書く問題を中心に行っている。 【学ぶ意欲を高める学習環境づくり】 ○家庭学習では、週に2回、自主的に学習に取り組むことを学校全体で取り組んできた。今年度は、塾や通信学習などを家庭学習の時間に含めなかったため、アンケートの数値が下がったと考えている。しかし保護者に向けての発信や、手本となる自主勉強を学級掲示を推進したことで、保護者も子ども共に自主勉強への関心が高まっている。 ○月に一度の読書週間を入れていることで、読書に親しむ児童が多くなってきている。また、学期に一度図書館祭を行い、いろいろな種類の本に親しむ機会を設けている。 △子ども自身が、自分の借りた冊数がすぐわかるような工夫が必要である。</p>	

重点目標 2	心の教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>「掃除中は『さしすせそ清掃』を守れていますか。」 【児童アンケート結果 90%】 「相手の気持ちを考えた話し方や行動ができていますか。」 【児童アンケート結果 94%】 「自分から気持ちの良いあいさつができていますか。」 【児童アンケート結果 94%】 「あなたは、自分のことを大切だと思いますか。」 【児童アンケート結果 96%】</p> <p>【豊かな人間性の育成】 ○毎年続けて、集会活動、学校行事、特別活動等において、個々が活躍できる場づくりを進めてきたため、高学年が様々な場面で、積極的に行動できるようになってきている。 ○あいさつや清掃など、委員会児童がお手本となり学校全体に広げることができた。 △学年集団、ビジョンチームなどで、常に指導の共通理解をはかる必要がある。 【よさやちがいを認め合い、仲間と共に生きる力の育成】 ○△人権教育、道徳教育については、それぞれの学年で取り組みを進めてきたが、学校としての系統性等を充実する必要がある。 ○それぞれの学年で、自分の住む町をクローズアップしたり、様々な立場の人と出会ったりすることで、自分を見つめ直す機会をもつことができた。 【きめ細やかな児童理解】 ○Q U やいじめ調査の結果をもとに、学年・校内で対応することができた。日頃から、日記、生活ノート等の利用、教育相談週間の設定をして、児童理解に努めることができた。 ○△校内支援委員会が定例化し、支援児童への共通理解を図ることができるようになったが、個々の児童の具体的な支援については、どのように検討し相談等をしていくと良いかさらに検討が必要である。</p>	

重点目標 3	体力、健康・安全意識の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>「授業に一生懸命に取り組んだり休み時間に進んで運動したりできていますか」 【児童アンケート92%】 「早寝・早起き・朝ご飯・1日に2回以上の歯磨きを守れていますか」 【児童アンケート90%】 「給食を残さずに食べていますか」【児童アンケート91%】</p> <p>【体力の向上】 ○体育の時間のカリキュラムについて、三重大学教育学部保健体育科教育学研究室が発行している「学びのこよみ」を活用することで、学校全体として同じ時期に同じ内容のものに取り組むことが多くなり、準備などの時間を短縮できるようになった。 ○体力向上推進アドバイザーに授業に入ってもらったり、指導・助言をしてもらったりすることで、体育の授業の改善と体育の時間前の体力アッププログラムが定着しつつある。 ○ジャンピングボード、竹馬などの遊具を体育委員会が準備したり、教師が休み時間に運動場で一緒に遊んだりしたことで、休み時間に外遊びをする児童が増えた。</p> <p>【安全意識の徹底】 ○避難訓練後に振り返りシートを記入することで、子どもたちが意欲的に参加できるようになった。</p> <p>【基本的な生活リズムの定着・改善】 ○歯磨き指導により、毎日継続して給食後に歯磨きをしている児童がいる。今後、さらに広げていけるように検討していきたい。 ○△栄養教諭と担任による食育指導により、子どもたちの給食に対する意識が高まり、給食の残菜の量が次第に減ってきた。体育（保健）の授業や、休み時間の取り組みを効果的に年間計画に組み込み、さらに残菜量を減らすことができるようにしたい。</p>	

重点目標 4	保護者・地域との連携の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>「学校は、教育活動の様子や情報をわかりやすく伝えてありますか」 【保護者アンケート結果 89%】 「全体的に見て学校の教育活動に満足していますか」 【保護者アンケート結果 92%】</p> <p>【地域に開かれた学校づくり】 【保護者・地域のニーズ】 ○保護者アンケートの実施・結果の分析を行い、学校づくり協力者会議でも共有ができた。 ○学校だより・ホームページによる発信、授業参観・学習等の掲示、個別懇談会、学校行事など保護者が月に1回程度来校する機会の設定により、連携を図っている。 △授業参観・学習発表会の参観者数は多いものの、1学期の学級懇談会、2学期の個別懇談会（希望制）の出席率は低く、参加・出席を広げる工夫が必要である。 ○△今後もキャリア教育や普段の授業で取り組まれている考える力を高める取り組みについて、保護者や地域との連携を深めながら系統性を検討していく。</p>	

重点目標 5	校内研修の推進－教職員の資質・能力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>「わからないことや考えを伝え合いながら、学習に参加できていますか。」 【児童アンケート結果 96%】 「お子さんは授業の内容を理解していると思いますか。」 【保護者アンケート結果 90%】</p> <p>【考え合い、学び合う授業の研究推進】 【各種研究会への参加、大学連携】 ○全員が年1回以上の研究授業を行い、三重大学教授と連携して、7回の授業研究会を実施し、具体的な場面を取り上げた検討をすることができた。 ○授業公開週間を各学期に1回設定したり、外部講師を招いてに各学級の日常の授業に対する助言をいただいたりして、実践を交流することができた。 ○校内の教師が講師として、校内のニーズに合わせた研修会を行うことができた。 ○12月2日に公開研修会を開催して、多くの参加者からご意見をいただくことができた。 ○県内外の研究推進校にたくさんの視察を行い、校内に還流することができた。 △授業を教師間で見合い、意見を交流する機会を増やし、さらに研修の日常化を進めたい。</p>	

2 改善方針

重点目標 1 確かな学力の定着に向けて

①学力調査、NRT等の分析結果をもとにして、重点課題に沿った朝学習と学習意欲を高める環境整備に取り組む。

②主体的に家庭学習に取り組めるように、自主学習の進め方の指導、家庭との連携を進める。

重点目標 2 心の教育の推進に向けて

①子どもたち一人一人の居場所や活躍の場づくり、子どもたち同士の絆を深める実践を行う。

②特別支援委員会が中心となり、児童理解や指導法に関する情報共有を図る。

重点目標 3 体力、健康・安全意識の向上に向けて

①体力テストの結果を踏まえ、重点課題を決めて授業改善・休み時間を活用した体力づくりに取り組む。

②安全指導・管理のため、教職員の危機管理に関する研修に取り組み、日常的な指導を継続する。

重点目標 4 保護者・地域との連携の推進に向けて

①保護者アンケートの集計結果に対して、組織的な検討・継続的な改善を行う。

②生活リズム改善・カリキュラムマネジメント（学習支援）・不登校対策を柱とした家庭や地域との連携を図る。

重点目標 5 教職員の資質・能力の向上に向けて

①授業公開の日常化と研究実践の交流の充実を図る。

②重点課題や教員の要望にもとづいた校内研修会の充実を図る。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 内部小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	考える力の育成～学び合う授業づくり～	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策) ○わかる授業・楽しい授業をめざす ○コミュニケーション能力を育てる ○読書を楽しむ子どもにする ○家庭学習の定着を図る (成果と課題) 「子どもの気づきをつなぐ授業づくり」を校内の研修テーマとし、全領域で、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりを行ったり、月1回「朝の学習」週間を設定し、各学年の実態に応じた学習内容を取り入れたりすることで、基礎的な学力の定着を図ることができた。家庭学習の定着も83%で、ほぼ身に付いており、進んで学習していると答える児童も85%で、意欲的に学習に取り組む児童も多い。読書を好む児童は79%であるものの、家庭で進んで読書をする児童は43%であるので、家庭での読書習慣の向上に向けて、学校と保護者との連携を図っていききたい。</p>	
重点目標 2	人とつながる力の育成～ともに生きる仲間づくり～	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策) ○基本的な生活態度を身につけさせる ○道徳教育・人権教育を充実させる ○特別支援教育の体制づくりを充実させる (成果と課題) 「内部っ子のきまり」をもとに、学校生活のルールを守って生活するために、ほとんどの職員が統一した基準で指導することができた。日頃、児童会や委員会を中心に、あいさつや清掃について啓発活動を行うことで、児童の意識も高くなっている。児童(清掃93%)と保護者(身の周りの整理・整頓48%)のずれがとても大きい。そのため、学校での取り組みについて、家庭に発信する必要がある。自分のことが好きという児童が78%で、毎年、自尊心・自己肯定感が低い実態があるため、全ての教育活動で、一人ひとりを認め合えるよう、さらなる取り組みが必要である。</p>	
重点目標 3	健康で安全な生活をつくる力の育成～健康なからだづくり～	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策) ○健康な生活や食生活への関心をもたせる ○体育的行事や体育の時間を通して、体を動かす気持ちよさを味わわせる ○子どもの安全意識を高める (成果と課題) 基本的な生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん」については、毎年児童・保護者の意識は高く、89%の家庭で実践することができている。テレビやゲーム等の使用について、「家庭でルールを決めて守っているか」は、児童79%、保護者66%と児童と保護者で意識のずれがあるため、家庭への啓発が必要である。安全に気を付けて生活している児童が96%、保護者が90%であるが、教師が57%と児童・保護者と学校のずれがあり、校内外のけがも多いため、引き続き危険予測・危機回避能力の育成を図っていききたい。</p>	

重点目標 4	家庭・地域とともに歩む学校	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の特色ある教材を各学年の教育課程に位置付ける ○地域住民の教育への参画を進める ○学びの一体化を推進し、内部中学校区で一貫した教育を目指す ○子どもと向き合う時間を増やす ○通信やホームページによる情報発信に努める <p>(成果と課題)</p> <p>各学年の活動（1年・昔の遊び伝承 2年・秋と遊ぼう（リース作り） 3年・ホタル保全活動 4年・校内剪定作業 5年・米作り 6年・戦争体験聞き取り）において、地域の方々に大変お世話になり、内部地区ならではの学習が定着・充実している。「ありがとう集会」は、お世話になっている地域の方々に感謝する機会として、全校で取り組む伝統的行事となっている。また、学びの一体化として、保幼小中との情報交換や授業交流も行うことができ、今後も引き続き、児童・生徒の共通理解を深めて取り組んでいきたい。</p>	

2 改善方針

- ・全ての児童にとって、「わかりやすい授業」を行うことを常に考え、少人数教育（ティーム・ティーチングを含む）、ICTの活用などを効果的に取り入れ、引き続き、校内研修も充実させていきたい。
- ・基本的な生活習慣の確立のために、家庭と密に連携を取り、児童がより意欲を持って取り組めるような設定を検討していきたい。
- ・新学習指導要領実施に向け、日課表を見直し、英語活動の推進・充実を図るとともに、新しい教科「道徳」の指導・評価にも力を入れて取り組んでいきたい。
- ・総勤務時間縮減のために、行事の精選や会議の短縮化をさらに図っていきたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 小山田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	めざす子どもの姿①豊かな心を育む子ども	3
主な方策 成果と課題	<p>①自尊感情や思いやりの心を育みます。【道徳・人権教育・学級会・いいところ見つけ】</p> <p>②学習や活動を通して、相手のよさに気づき、相手の立場に立つことの大切さを学ばせます。【班活動・班学習・係当番活動・休み時間・学級レク】</p> <hr/> <p>○学校生活全般で、相手の気持ちを考えることや仲間のよさに目を向ける姿勢を大事にしてきた。</p> <p>○授業の中でペア学習・グループ学習等複数で活動することにより、友達のよさに気づいたり相手の思いをしっかりと聞いて考えたりすることができた。そのことが、自分自身に自信をもつことにもつながっている。</p> <p>●個々の児童への相談体制、支援体制をさらに充実させることが必要である。</p>	
重点目標2	めざす子どもの姿②確かな学力を育む子ども	3
主な方策 成果と課題	<p>③個に応じたきめ細やかな指導と評価を行い、学習の成果や学力の伸びを認め、励まします。【個別指導、机間指導、ノート点検、少人数指導】</p> <p>④朝学習や家庭学習に継続的に取り組み、基礎基本の定着を図り、学力向上に努めます。【あさかぜタイム・家庭学習の習慣化】</p> <p>⑤学年に応じた本に親しませて、人に内容や感動を伝える意欲や力を伸ばします。【朝読書・図書の日・図書館まつり・読書感想文】</p> <hr/> <p>○T・Tや少人数指導の中で、個別指導や机間指導できめ細かで即時の対応をすることにより、個々の学力の向上や学び合う姿勢を身につけることができ、確かな学力の向上につながった。</p> <p>○ペア学習やグループ学習により友達の考えのよさに気づいたり、考えをより深めたりすることができた。</p> <p>●基礎基本の定着を図るため、研修担当からプリントを紹介するなどの体制ができていますが、家庭学習の定着にはまだ課題がある。</p> <p>○図書館司書、図書支援員による読み聞かせ、図書館まつりの取組など本に親しませる機会が充実している。</p>	
重点目標3	めざす子どもの姿③健康な心と身体を育む子ども	3
主な方策 成果と課題	<p>⑥運動の量と技能を高める体育を通して、楽しみながら体力向上を図ります。【体育科・5分間運動・かけ足・なわとび・業間遊び】</p> <p>⑦保健指導や食育を通して、健康な生活習慣や食習慣を育てます。【保健指導・学校保健委員会・給食指導・食育の授業】</p> <p>⑧行事を通して、自立する力（生きる力）、仲間と協力する力（共に生きる力）を育てます。【芋煮会・運動会・遠足・なかよしタイムなど】</p> <hr/> <p>○肋木、鉄棒など遊具を使った5分間運動をとり入れている学年が多く、基礎体力づくりに役立っている。</p> <p>○発育測定時に学年に応じた保健指導や学校栄養職員による食育指導ができた。</p> <p>○たてわり活動や行事への取組等により、協力することや相手への思いやりの心を育むことができた。</p> <p>●学校保健委員会の持ち方について、日程や学校医の参加についても検討していく必要がある。</p>	

重点目標 4	めざす教職員の姿 「教育への使命感を自覚し、自らの人権感覚を問い、家庭・地域と共に歩む教職員」	3
主な方策	②道徳・人権教育に計画的に取り組めます。授業参観で年に1回は公開し、家庭との連携を図ります。【道徳・人権教育・特別支援教育】 ③子どもの変容にアンテナを高くし、問題の早期発見・対応に努め、報告・連絡・相談を密にします。【Q U・教育相談・家庭訪問・児童理解・生徒指導】 ⑥めあてと振り返りを意識した達成感のある授業づくりに努め、確かな学力を育てます。【わかる授業の促進・少人数指導（T・Tなど）】 ⑩保護者や地域等と連携し、教育効果を高めます。【地域学習・学習支援・学びの一体化・情報モラル教育】	
成果と課題	○Q U調査の結果をもとに手立てを考え、情報を共有し、児童の気持ちに寄り添えるように努力した。また、必要に応じて家庭訪問をし、迅速に対応することができた。 ○校内作品展や廊下に特別支援学級の作品を展示することで、特別支援学級児童の理解が深められた。 ●T T授業の為の、打合せ時間の確保が難しい中、有効な時間活用が必要である。 ●校区が広範囲に及び、地域学習素材を十分に活用することができなかった。	

重点目標 5	めざす学校の姿 「人権が大切にされ、安心でき、学ぶことが楽しい学校、地域に開かれ信頼される学校」	3
主な方策	①教職員の人権感覚や指導力などの向上のために、研修と改善に継続的に取り組めます。【研修・授業研究会・校内巡視・学校評価】 ②安全のための環境整備や指導を行い、問題の早期発見・対応に努め、報告・連絡・相談を密にします。【危機管理・防災・防犯・交通安全・避難訓練・命の学習】 ③あいさつ・清掃・整理・整頓に率先して取り組み、気持ちよく学習できる環境づくりに努めます。【あいさつ運動・清掃活動・美化励行・花壇整備】 ④学校公開・運動会・作品展・学習発表・たより・HPなどで、子どもたちの取組や様子を紹介します。【学校公開・運動会・学習発表・情報発信】 ⑤読書活動・クラブ活動・地域学習などで保護者や地域の支援のもとに、効果的な学習を高めます。【読み聞かせ・クラブ活動・学習支援・芋煮会】 ⑥P T A・学校づくり協力者会議・地域団体・関係機関と連携して、子どもたちの成長を見守ります。【あいさつ運動・親子下校・親子D E人権・親子除草】	
成果と課題	○月1回の安全点検や日々の見回り等で、安全安心に学習できる環境づくりを管理職のリーダーシップにより進めることができた。 ○登下校指導、あいさつ運動等、学校と家庭、地域が連携して取り組むことができた。	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな心を育む子ども」については、小規模校のよさを生かし、縦のつながりを重視した児童主体の行事や活動をより充実する。いじめをなくし自他の人権を大切にするように、道徳や人権教育の充実を図り、仲間づくりに力を入れる。児童の仲間関係にアンテナを高くし、困ったことを出し合い、何でも相談しあえる学級集団作りを引き続き行う。担任が一人で抱え込まないように、校内の相談、支援体制の確立を図る。 ・「確かな学力を育む子ども」については、少人数指導を効果的に活用し、「めあてと振り返り」「四日市モデル5つのプロセス」を意識した授業づくりを行うことで成果を上げてきた。採点研修で本校児童の「強み・弱み」を分析し、KJ法を用いた対話中心の校内研修を実施することで、各自の実践をより直接的・具体的に学び合うことができたので、来年度も継続する。家庭学習の定着について、家庭との連携をさらに進めていく。 ・地域教材の開発やゲストティーチャーの人材確保に力を入れ、地域学習を充実する。 ・「健康な心と身体を育む子ども」については、児童の健康・食育に関する実態を踏まえて家庭・地域と共に考え合う「学校保健委員会」となるように学校医にも計画的に相談をかけていく。 ・登下校の安全については、家庭・地域と共に考えていくように連携を図る。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 河原田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	たしかな学力と体力の向上を目指す	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着・向上 ②学習集団の育成 ③少人数教育の充実 ④体育科の授業の充実と体力の向上 ⑤生活リズムの確立と健康への意識向上 <p>①朝学習における反復練習は基礎学力の定着に有効であった。既習事項を掲示したり、学習に関する図書を置いたりするなど教室環境を整えることができた。基礎学力については、学年による系統立てた学習が今後課題である。</p> <p>②聴き合う関係づくりに努め、ペア活動、机の配置を目的によって変える方策をとることができた。</p> <p>③基礎学力の定着に効果があった。</p> <p>④生活リズムチェックで保護者への啓発はできた。今後も保護者の意識向上につなげたい。</p>	
重点目標 2	思いやりのある心をそだてる	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ①系統だてた道徳教育の充実 ②特別支援教育の充実 ③生徒指導の充実 ④安全意識の向上 <p>①道徳の授業研において、価値葛藤について研修で協議することができた。状況によって行動を変えてしまう児童の姿が課題であり、自律心を育てる必要がある。</p> <p>②地域コーディネータ・カウンセラーと連携し、気になる子への対応を速く行うことができた。今後も連携を図っていく。</p> <p>③決まり事を確認し、教職員で統一した指導を行うことができた。問題が起きた時には迅速な対応をすることができた。</p> <p>④定期的な登下校指導を行い、子どもたちの様子を交流できた。問題があるときには、地区担当が中心となり、早めの指導につなげることができた。継続的な指導が必要である。</p>	
重点目標 3	地域や保護者と連携した学校づくりを進める	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者・地域への情報発信 ②学校評価の活用 ③安心・安全な学校づくり ④地域ボランティア及び交流活動の活用 <p>①HPの更新の手順が従来より煩雑になり、更新の頻度が少なくなったため、今後は回数を増やす努力を行っていく。</p> <p>②学校アンケートの結果について、指導部でその都度検証をし改善できることを共有した。結果は学校便りで保護者に還流している。</p> <p>③PTAには旗当番や行事の時の安全確認等、地域の方々には環境整備等、たくさんの協力を得られた。</p> <p>④近隣の高校をはじめ、老人会、地域探検など地域にとてもお世話になっている。来年度も続けていけるよう引継ぎ等をしっかりと行っていく。</p>	

重点目標 4	職員としての資質を向上させる	4
主な方策 成果と課題	①子どもの学びの追究 ②三重大学との連携 ③各種研修の推進 ④学びの一体化の推進 ①子どものゴールとなる姿を目指した課題づくりについて、学年を超えた話を職員間で行う姿があった。今後もこの雰囲気は大切にしていく。 ②本校の実践と理論がつながる研修を行うことができ、自分の研修をより深めることができた。 ③県外研修、他校の公開研修に参加し、その還流を研修会で全職員が学び合い、実践に生かすことができた。 ④乗り入れ授業を通して、小中間だけではなく、他の小学校との連携を強めることができた。	

2 改善方針

- 重点1 たしかな学力と体力の向上を目指す
 - ・基礎学力の定着・向上→家庭学習の定着と自主学習の推進。
 - ・学習集団の育成→教師と子どものやりとりだけではなく、子どもと子どもが関わり合いながら、学んでいく授業を推進する。
 - ・少人数教育の充実→効果的な少人数教育の持ち方について今後も考えて取り入れていく。
- 重点2 思いやりのある心をそだてる
 - ・系統だてた道徳教育の充実→道徳の教科化により、指導と評価の研修を今後も重ねていく。
 - ・特別支援教育の充実→今後も一人一人に必要な支援と誰もがわかりやすい指導について考えていく。
 - ・生徒指導の充実→Q Uやアンケートや子どもとの関わり等から、子どもの変化に気づき、早い対応をしていく。
- 重点3 地域や保護者と連携した学校づくりを進める
 - ・地域ボランティア及び交流活動の活用→地域から学んだことを通して、自分のこれからの生き方を見つめるキャリア教育につなげていく。
- 重点4 職員としての資質を向上させる
 - ・子どもの学びの追究→授業公開を行い、教職員同士の学び合う関係を継続し、授業力・指導力を高めていく。
 - ・各種研修の推進→今後も授業研究を公開し、広く意見をもらい教職員相互の研修を深め、専門性を高めていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 川島小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「問題解決能力向上を目指した授業づくりの研究」～自分の考えを相手に分かるように表現する力を育てる～を校内研の主題とし、四日市モデルを活用した授業づくりを進めることができた。仲間と共に考える授業の組立が定着しつつある。 ○ 5年生のNRT学力検査等では、高得点の子とそうでない子の差が大きい、個人差を克服できる指導の工夫が必要である。 ○ 自分の考えを周りの友だちに表現するための話し合い活動を授業に取り入れてきている。自分なりの解き方を友だちにわかるように説明できる児童が増えてきているものの、まだまだ少数である。これについても、指導の工夫が必要である。 	
重点目標2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりの思いや考えが大切にされる集団づくりをめざし、Q-U調査の分析や教育相談・いじめ調査をもとに仲間づくり・学級づくりを進めた。また、児童・学級の問題を全職員で共有し学年団を中心に協力して対応することができている。 ○ 人権教育・道徳教育の公開授業を学年1クラスずつ提案した。また、中学校区の学びの一体化研修では全クラスで道徳の授業を公開し、中学校区で児童や学年の人権課題を探り、いじめや差別を許さない態度の育成に努めた。 ○ 高学年でのSNSによるトラブルを未然に防ぐために、保護者ととともに啓発に努める必要がある。 	
重点目標3	健康で安全な生活を送る力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学期の発育測定に合わせて養護教諭が保健指導を行った。栄養職員も各学年に入って食育の指導を実施し、自分の健康について意識させることができた。 ○ 各学級では、廊下を走らない・危ない遊びをしないなど規範意識を高く持たせる指導を日常的に実施し、校舎内外でのけががないよう努めた。 ○ 外で遊んで運動に親しめるよう「全校外遊びデー」の取り組みを行い、週に一度は全校児童が外に出るようにして学級遊びや全校縄跳びに取り組んだが、自主的に運動をする児童が高学年女子に少ないという傾向がみえる。 ○ 跳び箱・ハードル走・水泳など学年ごとに系統性を持たせ、各自の目当てを意識させて体育の授業をすることができた。 ○ 不審者対応訓練では職員が不審者を演じ教室に突然入ってくることで、実際の状況に似た設定で避難の仕方を確認することができた。 	
重点目標4	特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月に一度の校内支援委員会を開き、支援の必要な児童の状況を共有することができた。カウンセラーの来校日にあわせて開催したが、相談時間と重なることが多く専門的な見解を会議の中で直接聞く機会は少なかった。 ○ 学級での指導から支援が必要と思われる児童について、保護者に連絡をして教育支援課や通級・転籍につなげることができた。来年度入学予定児童についても園への聞き取りをし、入学当初から支援の在り方を探ることができている。 ○ 学校規模が大きく職員も多いので、児童の情報が素早く共有できるよう今後もコーディネーターや管理職への報告の徹底を継続する必要がある。 	

重点目標 5	読書活動の充実	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書室の蔵書冊数の維持のほか、児童に人気の本や、いま読ませたい本を計画的に購入し、学級文庫の充実にも努めた。学級文庫用貸し出しを継続することで図書室に行かなくても本に親しめる環境づくりができた。 ○ 学期に1回ずつの読書週間を位置づけたり、図書館まつり・ブックトーク・絵本劇場などを開いたりしながら児童の読書に対する関心を高めることができた。 ○ 図書館ボランティアのブックママの協力によって、図書委員が行う読み聞かせ等の指導までしていただき、該当児童にとっては、貴重な経験となった。 ○ 読書する子とそうでない子の差があるので、身近な学級文庫の充実や担任による本の紹介など読書活動をさらに推進させられるような環境整備をしていく必要がある。 	

重点目標 6	指導者の資質向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一提案を原則に、学年で授業研究を進め、校内全体研修会の事後検討会を小グループで開き、全員が意見を言うようにした。また、話し合ったことやグループごとの意見を模造紙にまとめて発表することで共通理解を図った。 ○ 各種研修会に職員が積極的に参加し、研鑽に努めたほか、教育アドバイザー制度を活用し、初任者や経験の浅い教員の力量向上に努めた。 ○ 学年内の経験の長い職員が中心になって研修や保護者対応について学び合えるようにしてきたが、日常的な教育活動に関するOJTが推進できるような時間を十分確保できなかった。 	

重点目標 7	開かれた学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学期ごとに学校づくり協力者会議を開催し、地域の方から意見をいただく機会を持った。 ○ 市民センターや社会福祉協議会から紹介された方をゲストティーチャーとして招き、生活科や総合的な学習の時間を利用して人権教育・障がい者理解教育・郷土教育などの授業ができた。 ○ 学校便りや学級通信を発行するとともにホームページでも学校からの情報を発信できた。 ○ 年間3回のオープンスクールのほか年間3回の授業参観日を設け、保護者が児童や授業の様子を自由に参観できるようにした。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き校内研修を充実させ、児童の「わかる」「できる」授業づくりを進め、自分の考えを相手にうまく表現できる児童を育てる。 ・ 平成31年度北勢地区人権・同和研究大会発表に向けて、さらに一人ひとりの思いを大切にしつつ集団としてのルールやマナーの指導を充実させ、差別やいじめを許さない仲間づくりを推進する。 ・ 体力づくりや健康づくりのために、学年ごとに系統性のある体育の授業を充実させたり、児童会活動・委員会活動と連携したりするほか、担任だけでなく養護教諭や栄養教諭とともに指導する。 ・ 特別に支援を必要とする児童についての情報共有に終わらず、どのような支援が必要か、どのタイミングで専門機関につなぐかなど、支援の在り方を探る校内支援委員会にしていく。 ・ 職員研修充実のため校内研修以外に外部講師を招聘したり、市内外に研修に出かけたりして職員の授業スキルを高める。 ・ 職員が健康でゆとりをもって児童と向き合えるように、会議・行事の精選をし時間外勤務を減らしていく。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 神前小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	同和教育の推進	4
<p style="text-align: center;">主な方策 成果と課題</p>	<p>同和教育はすべての教育の原点であり、自分が好きになる教育、なかまを大切にする教育であり、すべての人権教育につながる。そこで、全学年が「つながり」をテーマとし、人権について学び合う人権総合学習（生活科）に取り組んだ。人権集会を学校公開として年 2 回行い、こうした取り組みを保護者・地域の方にも伝えている。1 回目は活動の方向性、2 回目は 1 年間の活動報告と位置付けて行った。また「友だちからなかまへ」をなかまづくりのテーマに、日記作文指導・達成感を持たせる取り組み・QI 調査の活用などに取り組んだ。学級のなかまづくりについては、なかまづくりの中心になる児童を全職員で共通理解をし、子どもたちとの向き合い方を考察しながら進めた。また、地域の人権活動に教職員も参加し、地域の中でも人とつながるように取り組んだ。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4 段階評価平均、後ろの数字は 4 年～6 年児童の平均） ○子どもさんは、自分や友だちを大切にしていますか。（3.53 3.6） ○子どもさんは、学校へ喜んで登校していますか。（3.4 3.3） ○学校は、自分の命や友だちの命を大切にする教育を進めていますか。（3.45 3.8） 4 年～6 年児童アンケートのみの該当項目 ○あなたは、友だちとの関わりを考えながら行動していますか。（3.4） ○あなたのクラスには、いじめや仲間はずれはありませんか。（3.2）</p> <p>【成果】「つながり」をテーマにさまざまな取り組みを行い、なかまづくりを意識して授業づくりを考えてきたことで、友だちとの関わりを考え、いじめや仲間はずれのない学校にしたいという思いを子どもたちと共有することができた。また、学級通信を多くの学級で定期的に発行することができ、保護者の理解・協力も得ながらさまざまな取り組みを進めることができたことも、上記項目の評価の結果として現れたのではないかと考えている。 【課題】今後も子どもの実態や課題に合わせて、医療機関・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・教育支援課とも連携し、「つながり」を大切にできるように指導を続けていきたい。</p>	
<p style="text-align: center;">重点目標 2</p>	<p style="text-align: center;">学び高め合う授業づくり</p>	3
<p style="text-align: center;">主な方策 成果と課題</p>	<p>教え合う授業から学び合う授業を目指してきた。もっと知りたい、解決したいと思うような課題づくり、つけたい力を意識した課題づくりや子ども同士の意見のつながりとなげ方についての研修を深め、聴き合い学び合いたくなる授業を追求してきた。また、授業研修では全体研修・学年部研修ともに共通のテーマを設定し、それぞれの研修をつなげて進めていくように心がけた。また、NRT 到達度検査や全国学力・学習状況調査、新体力テスト等の分析を行い、授業改善へつなげるよう取り組んできた。上記のように、目の前にいる子どもたちの実態から手立てを考えていくようにし、全校で同じ方向を向いて子どもの育ちを確かめていくよう取り組んできた。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4 段階評価平均、後ろの数字は 4 年～6 年児童の平均） ○子どもさんは、聴く力が育っていますか。（3.09 3.3） ○子どもさんは、思いや考えを話す力が育っていますか。（3.06 3.2） 4 年～6 年児童アンケートのみの該当項目 ○あなたは、わからないことは先生や友だちにたずねることができますか。（3.5） ○あなたは、友だちと協力したり、助け合ったりして学習していますか。（3.5）</p> <p>【成果】学び合いの授業を通して学力の向上を図るために、考えたくなる課題づくりとその提示の工夫、自分の考えを持たせること、授業者がどこに学び合いを仕組んだかを共通の研修課題として取り組んできた。子どもたちが「わからない」ことからスタートすることで、困ったことをペアやグループで解決していく学び合いのスタイルが見られるようになってきた。 【課題】さらに研修の積み上げを継続しなければならない。今後も学び合いの授業のイメージづくりや共通テーマの理解を研修・学習指導部を中心に進める必要がある。また、先進校視察などで学んできたことを還流し合う機会を増やし、教職員の指導力を高めていきたい。</p>	

重点目標 3	基本的な生活習慣の定着	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>朝の帯タイム（おめばち）・家庭学習の定着・読書活動の推進など学力向上の取り組みや、体力向上ミニ集会・かけ足・縄跳びなど体力向上の取り組みを進めてきた。また、あいさつや掃除を進んで行う態度の育成にも努めてきた。このような取り組みの土台となる基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭と連携しながら取り組んできた。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均） ○子どもさんは「読み・書き・計算する力」が身についていますか。（3.48 3.6） ○子どもさんは、家庭学習（宿題・自主学習・読書など）が身についていますか。（2.97 3.3） 4年～6年児童アンケートのみの該当項目 ○授業で学習したことは、将来役に立つと思いますか。（3.6） ○将来の夢や目標を持っていますか。（3.5） ○先生は、わかりやすく授業をすすめてくれていますか。（3.8）</p> <p>【成果】家庭学習の目安となる時間以上に進んで取り組む姿が増えてきている。学級だよりなどで家庭学習の仕方を伝えてきたことで、低学年児童の中にも自主学習を始める子が出てきた。ノートを書くことや自分の考えを持って授業に臨む力も付いてきている。家庭学習の定着が十分でない子については家庭訪問を繰り返し、生活習慣・学習習慣をどのように家庭でつけていくのがよいのか保護者と話し合ってきた。また、新体力テストにも全校で取り組んでいる。体力向上アドバイザーの指導や、体力向上を意識した方法を授業づくりに取り入れたことで、運動を楽しみながら体力を高めていく姿が見られた。</p> <p>【課題】今後も一人ひとりの「学力・体力向上」「基本的な生活習慣の定着」を図るために、個別指導や支援（TT体制）を継続していく必要がある。</p>	

重点目標 4	一人ひとりを大切にした教育	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>保護者と相談をしながら、一人ひとりの子に合わせた支援を進めてきた。校内特別支援委員会を中心に、学校全体で支援のあり方を考え、取り組みを進めた。さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、児童の困り感を少しでも取り除き、「学ぶことが楽しい学校」を目指して取り組んできた。支援が個別に必要な児童は、あけぼの学園・あさけ診療所・通級学級・教育支援課との連携なども行った。また、学期ごとに1回（1ヶ月間）各担当が教育相談の時間を個別にとり、児童に悩みがないか確かめ、支援をしてきた。教育相談でつかんだ課題に対しては、全職員で共有し、児童自らが「いじめ」の加害者にも被害者にもならないよう取り組んだ。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均） ○学校は、保護者からの相談などについていねいに対応していますか。（3.59 3.7） ○学校は、一人ひとりの違いを受け止めて、子どもの理解・支援を適切に行っていますか。（3.43 3.7）</p> <p>【成果】家庭訪問を通して保護者の理解・協力も得ながら、子どもへの支援を進めた。学校としては個別の対応を行い、全職員で共通理解を図りながら特別支援教育を進めることができた。また、中学校と連携して中学校進学に向けたケース会議、保育園・幼稚園と連携して小学校の入学に向けた会議を持つこともできた。</p> <p>【課題】児童にどんな力をつけていくのかについて、常に教師間や保護者と連携して考えていくことが必要である。</p>	

重点目標 5	地域に学ぶ・人とつながる取組	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>保護者・地域の協力が得られることを学校の強みと考え、地域の中にある教育力・子育て力や人と人とのつながりに学び、地域力を活用させていただき、保護者・地域とともに進める学校を目指してきた。今年度も「つながり」をテーマに取り組み、コミュニティかんざき運営委員会の方の全面的協力を受けて、児童の学びの場となる学校の環境整備や教育活動に直接協力をいただいた。また、学校ボランティア（手話サークル、図書ボランティアなど）の方に学ぶ機会も積極的に持った。さらに、本年度は地域の指導者の方に協力を得て、地域子ども教室を開催した。</p> <p>保護者アンケート該当項目（４段階評価平均） ○学校は、保護者や地域の人たちから学び合う機会を積極的に持っていますか。（3.61） ○学校は、学校や授業を積極的に公開していますか。（3.77）</p> <p>【成果】今年度もゲストティーチャーに出会い、人権や人のつながり、神前の文化について、多くの学びの場を持つことができた。コミュニティかんざき運営委員の方の協力もあって、自分たちや学校が地域の方に応援をしてもらっていることを強く感じている。</p> <p>【課題】今後も学校と地域が相互に協力し合う形を継続していきたい。地域活動（地区運動会、里山保全活動、人権フェスティバル、文化祭、ウォークラリーなど）に積極的に参加するよう子どもたちにも働きかけているが、児童数の減少や家族の多様化等のために、活動を充実させることが難しくなりつつある。何回か地域活動に参加している児童は、その魅力を知っているので毎年参加しているが、一方でなかなか地域で行っている活動内容に興味を示さない児童もおり、児童だけでなく保護者への働きかけも行っていきたい。</p>	

重点目標 6	安全・安心な学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>コミュニティかんざき運営委員の方の応援も受けて、環境を整備し、花づくりや栽培活動などを通して、地域との「つながり」が感じられる学校づくりを目指してきた。また、学校・学年・学級だよりやHPなどでできる限り今起きていることを保護者に伝え、課題も知らせることで、逆に保護者・地域の方に安心してもらえる学校になるよう取り組みを進めた。また、地域の方からも要望が強い通学路の環境整備、登下校の安全指導について取り組みを進めた。学校としては、土曜授業を利用して緊急時引き渡し訓練も行っている。</p> <p>保護者アンケート該当項目（４段階評価平均、後ろの数字は４年～６年児童の平均） ○子どもさんは、誰とでもあいさつ（おはよう、こんにちは、ありがとうなど）ができますか。（3.04 3.4） ○子どもさんは、けがや事故をしないように安全に気をつけていますか。（3.33 3.7） ○学校は、学校や子どもたちの様子などを通信や懇談会などで、分かりやすく伝えていきますか。（3.66） ○学校は、防災や防犯について、子どもたちに自分に身を守るための方法を伝えていきますか。（3.53）</p> <p>【成果】学級通信・学校だよりを定期的に発行し、子どもたちのありのままの姿を保護者に伝えるよう努力してきた。学校アンケートの結果からも「伝わっている」という回答が多く、応援してくださる保護者の姿を感じることができた。また、コミュニティかんざき運営委員の方を中心に学校に来てくださる地域の方がたくさんいることで、子どもたちは「自分たちは見守ってもらっている」「応援してもらっている」という気持ちを持つことができ、「神前の町が好き」と感じられる気持ちが育ってきている。</p> <p>【課題】防災の面では、まだ危機意識が薄いように感じている。子どもたちもいざという時の行動を問われると自信が持てない様子がある。避難訓練等の事前指導を充実させ、今後も子どもたちの視点に立ち、不安と思うことを取り除き、防災の面からも安心して学べる学校づくりを目指していきたい。</p>	

2 改善方針

6つの重点項目を掲げて「地域に学ぶ・人とつながる」を昨年度と同じく本校の強みと位置付け、地域立の学校を目指してきた。校務分掌を学校づくりビジョンと結びつけ、重点項目ごとに担当するチームごとに見直しを行い、年度途中であっても気づいたことは修正・改善を行い、教職員一人ひとりが意識して学校づくりを進められるように取り組んできた。そして、その修正や改善ををはじめ気になることを学校だよりやHPにて保護者に伝えてきた。こうした姿勢を職員が示し実践することで、保護者からも「チーム神前」を高く評価してもらっていると感じている。

研修だよりの発行、一人2回の公開授業などを継続しながら、学力向上をより一層意識して学び合う授業づくりを進めていきたい。また、今後も全国学力・学習状況調査や新体力テストなどを活用し、子どもの実態に合わせた授業改善をより推進していきたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 桜小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○授業後の「ふりかえり」の場が定着し、確実に力がついてきた。内容面に関する文章量も増えてきた。</p> <p>○「話す・聴く」については、ペア学習やグループ学習を教師が意識して取り組むことで、児童に達成感を持たせることができた。</p> <p>○話し合いの系統表やノート書き方を作成することで、全教職員が共通理解を図り、学校全体として実践を進めることができた。</p> <p>○少人数指導を取り入れることで、一人ひとりの様子をしっかりと見ることができた。高学年では、ノート指導など効果的に指導を進めることができた。一方で、低学年では、児童の実態に応じた取り組み（クラスで分ける）にした方が良かった。</p> <p>○外部講師などを活用して、さまざまな体験活動や地域学習に取り組むことができた。</p> <p>△児童の中には、「読書好きな子」が多い中、「読書嫌いな子」への指導が難しい現状になっている。</p> <p>○ICT教育に関して、各学年の指導系統表を作成したことで、学年に応じた指導に取り組むことができた。</p> <p>△電子黒板の台数が限られているため、使用時間に制限があり、十分に活用できなかった。</p>	
重点目標2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○Q U調査後に実施した教育相談が、子どもたちの実態把握に非常に役立った。今後も調査結果をより詳細に分析し、学年で共通理解を進めて指導していく。</p> <p>○学校の決まりや子どもたちの指導を、全職員で統一してきたため、子どもたちの「落ち着いて学習する姿」が見られるようになった。指導の判断に迷った時でも、どの子にも同じ指導をすることができた。</p> <p>○トイレ掃除について、今年度は2年生から取り寄せた。年に1、2回しか順番が回ってこなかったものの、自分たちが使ったところはきれいにするという意識を、2年生なりに持つことができた。トイレの使い方にも変化が見られ、スリッパをきれいにそろえられるようになった。</p> <p>△あいさつと言葉遣いにおいては、さらなる取り組みが必要である。</p>	
重点目標3	健康な心と体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○2限目と3限目の業間を20分に伸ばし、毎週水曜日に「全校外遊びデー」を設定。また、竹馬・スキップジャンプなどの休み時間に自由に児童が使える教具を設置して、体を動かすことを楽しむ機会を増やしたことで、休み時間に外に出て遊ぶ児童が増えた。</p> <p>○校内夏季研修で5分間運動の実技講習を実施し、5分間運動の充実を進めた。また、体育科の年間指導計画のガイドラインを設定し、単元ごとに系統性を持たせた学年の目標を設定したことで、充実した指導を進めることができた。</p> <p>○食育について、指導部主導で学期ごとに指導案を提案し、全校で指導を進めたことで、児童の食に対する意識の啓発を進めることができた。</p> <p>△昨年度からの課題であった「いのち」の学習については、計画を立てて進めてはいるが、さらに指導の充実を図る必要がある。</p>	

重点目標 4	学校教育力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○年間を通して、特別支援教育、仲間づくり、体育実技、教科指導、食育等、様々な研修会を開催することができた。</p> <p>○仲間づくりの研修会の中で、S G Eを体験する時間を作った。これにより、学級で取り組むS G Eの種類が増えた。</p> <p>○夏季研修での実践発表では、多くの職員がパワーポイントを使ってのプレゼンテーションを行った。これにより、職員のI C T技術が向上した。</p> <p>○「学びの一体化」による乗り入れ授業は、内容も児童に好評であった。今後も続けていきたい。</p> <p>○経験の浅い教員が、気兼ねなく先輩教員に質問できる雰囲気がある。また、拠点校指導員との連携もスムーズである。</p> <p>△「学びの一体化」の取り組みは、公開授業のみで終わってしまう。地域が一体となって子どもを育てようという職員の意識が弱い。</p>	

重点目標 5	地域とともにある学校づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>○今年度も学習発表会・作品展を実施することで、児童の頑張っている姿や一生懸命に取り組んだ作品を見ていただくことができた。</p> <p>○保護者アンケート『学校は、授業参観や学校行事、懇談会、各種通信・ホームページなどで、学校の活動や子どもの様子を伝えてますか。』で、98%の高評価を得ている。学校だよりをはじめ、HPや授業公開など積極的に情報発信がなされている。また、年間計画の中でも位置づけられており、計画的に進められている。</p> <p>○図書ボランティア（読み聞かせ・飾り付け）や環境支援ボランティアなど、学校の教育環境整備に積極的に関わってもらっている。</p> <p>○年度末（3学期）に学校評価を行うことで、一年間の学習活動の反省の場をきちんと設けることができています。</p>	

2 改善方針

- ・「いのち」の学習について、学年ごとの系統表を作成し、指導部主導で指導案や教材教具を提案・準備して更なる充実を図る。
- ・「学Vivaセット」の活用が十分ではなかった。指導部会の中で、各学年で使用する教材を検討・準備して、使用する機会を作る。
- ・読書に対する関心を高めるためにも、学級文庫の充実を図ることが大切である。校内で予算化して新書を購入する計画を作る。
- ・あいさつは、今年度委員会活動を中心に取り組みを行ったが、自分から進んであいさつできる児童は少ない。また、言葉遣いについても改善の余地がある為、挨拶と言葉遣いに特化した取り組みを計画する。
- ・毎年Q U調査をしているが、その検証方法についての研修会が、ここ数年行われていない。1クラスを取り上げて、みんなでグラフの見方を学ぶ会を、来年度の夏季研修会で開催する。
- ・「学びの一体化」を公開授業のみで終わらせないために、各学校共通化できる生活や学習のルールを交流し、揃えられることはないかを検討する。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 県小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の10分間の学習や授業、家庭学習での繰り返し学習について、教師間で交流を行い、低学年からの積み重ねで基礎基本の定着ができた。 ・算数科における少人数の指導方法を工夫して、確かな学力を身につける基礎を作り上げることができた。 ・「宿題などの家庭学習をしている」と回答している児童の割合は93.3%と高く、昨年度より2.2ポイント増であった。家庭学習の定着が進んでいる。また、低学年からの自主学習の取組を通して、学習内容の定着と深まりが進んでいる。 ・「授業で習ったことがわかる」と回答している児童の割合は88.1%と昨年度の89.9%より1.8ポイントの減である。わかりにくさを感じている児童が特定の学年に見られる。児童の思いに寄り添ったわかりやすい授業を展開するため、校内研修の充実を図りながら、引き続き指導方法の工夫、学習内容の定着に取り組んでいく必要がある。 	
重点目標 2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に「家庭読書カード」の取組を行うことで、家庭で読書をするきっかけとなった。チェックシートで家庭の取組が増えていることが確認できた。 ・学習発表会やおすすめの本の紹介などの発表の場で、聞き手を意識した発表や聞き合おうとする態度を育むことができた。 ・読み聞かせサークルの活動や図書館司書による読書推進および図書館の整備により、読書に親しむ児童が増えた。さらに、PTAの協力によるブックバイキングで読書への意欲づけができた。 ・各学年部で道徳の研究授業を計画的に進め、道徳教育の推進に取り組んだ。 ・あがたっ子委員会の月別目標による呼びかけや指導によって、あいさつや清掃など、子どもたちの中で生活規律や規範意識は向上させることができた。しかし、廊下歩行については、廊下を走る児童がまだまだいるので、引き続き課題として指導していく必要がある。 	
重点目標 3	健康安全教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「休み時間に外で元気に遊んでいる」と回答している児童の割合は、昨年度と比べて4.1ポイント増えて、77.8%であった。各クラスでの定期的な外遊び、業間かけ足や業間なわとび等が外遊びのきっかけになっていると考えられる。今後もそういったきっかけづくりを大切にしていきたい。 ・食育では、栄養教諭と連携し、各学年に応じた充実した食育が行われ、子ども達は自分の生活を見直したり改善しようと心がけたりすることができた。また、保健指導では、養護教諭が中心となって、発育測定の間を中心子ども達の実態に応じた指導が行われた。 ・「全国体力運動能力・運動習慣調査」の結果から、男女共に全国目標値を上回る項目、下回る項目が顕著に表れた。授業のはじめに5分間運動を取り入れるなど、強みを伸ばしながら弱みとなる項目を意識した授業づくり、体力づくりに取り組む事で、弱みの向上につなげたい。 	

重点目標 4	特別支援教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個の特性や能力に応じた教育内容を創造し、適切な指導支援を行うことで、一人ひとりの自己実現ができるよう取り組みを進めた。 ・定期的に特別支援委員会を開催し、スクールカウンセラーと連携しながら、支援の必要な児童の実態把握、具体的な支援、関係機関との連携などについて検討した。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、担当職員、介助員および支援員により、個に応じた適切な支援に取り組んだ。 ・「子どもたち一人ひとりが自分の持てる力を発揮して、学習や様々な活動に参加できるように努めている」と回答している保護者の割合は、92.6%と昨年度比+5.6ポイントとよい評価を得ている。 ・スクールカウンセラーが保護者だけでなく、児童の相談にもものってもらったり、授業中に観察したりしており、それを担任や特別支援コーディネーターとも情報を共有することで、児童理解や実態把握につなげることができた。 	

重点目標 5	教師力の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会や授業研究会を積み重ねて、授業力の向上に取り組んだ。 ・継続的に同じ主題を設定して取り組むことで、全教師の意思統一がなされ、主題の実現に向けての意識を高めることができた。 ・「授業中に友だちの意見を聞いたり、自分の意見を発表したりしている」と回答している児童の割合は84.1%と昨年度より3.2ポイント増であった。主体的・対話的な授業形態が進みつつある。しかし、教師主導の授業が主となることもあり、主体的対話的で深い学びの実現に向けてさらに取組を進める必要がある。 	

重点目標 6	家庭・地域と協働する学校	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「学校は、通信（学校・学年・学級）やホームページなどで学校や子どもたちの様子をよく伝えていると思いますか？」の問いについては、93.9%の保護者が「そう思う」「まあそう思う」と回答しており、昨年度の89.7%を4.2ポイント上回っている。学校だよりは、保護者だけでなく地域への回覧を行っている。引き続き、各種の通信やホームページで学校の取り組みや児童の様子などについて、タイムリーな情報発信に努めていきたい。 ・継続的に行っている「地域連携花壇」の取り組みでは、地域の方とのふれあいのなかから、花を植え、育てる活動を通して、地域を大切に思う心などを学ぶよい機会となっている。 ・児童の93.3%が宿題などの家庭学習をしていると回答している。保護者の82.3%が宿題などの家庭学習の習慣が身につけていると回答しており、家庭学習に対する意識の差がやや見られる。家庭学習の習慣化に向け、保護者と連携したさらなる取り組みが課題である。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「学校の教育活動に満足していますか」の問いについては、94.9%の保護者が「そう思う」「まあそう思う」と回答しており、保護者の満足度は大変高い。さらに改善の工夫を行いたい。 ・児童アンケートで「学校が楽しい」「まあそう思う」と回答した児童は、93.3%で昨年度比+0.8と高い値である。しかし、「学校が楽しいと思わない」「あまり思わない」と回答している児童が、依然として6.7%いる。引き続き、楽しく学校生活を送れるよう、教育相談等を通して一人ひとりを大切にするとともに、お互いが認め合える学校・学級づくりをめざしていく必要がある。 ・児童の78.7%が「自分によいところがある」と回答しているが、そうは思わない児童が2割以上おり課題が残っている。児童の現状に合わせた満足感や達成感が味わえる機会を増やし、自尊感情を高める工夫が必要である。 ・「生活習慣チェックシート」や「家庭読書習慣」の取組を引き続き行い、生活リズムや読書習慣の定着に向けて、保護者との連携を深める。 	
--	--

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 三重小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力をつける	3
主な方策 成果と課題	<p><成果> ○基礎学力の定着（漢字・計算プリント、補充学習など繰り返し学習を進めた。） ○「書く力」の向上（ノート指導でまとめを書くなど日常の学習に取り入れた。） ○家庭学習の定着（自主学習やプリント教材等を使い、定着を図った。） ○自主学習の推進（まとめる力や学びを深める力につながるよう進めてきた。） ○学習への意欲（ペア・グループ学習などを学び合いを生かし、児童の「学びたい」という意欲を大切に学習を進めてきた。）</p> <p><課題> ○学力の格差（ITや少人数、個別指導などを入れ、丁寧な指導と補充を行ってきたが、計画的な活用をさらに進める必要がある。） ○小1～6年間の指導方法について、教員間で共通理解を進め、児童に合った支援を進めていく必要がある。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p><成果> ○読書活動の充実（朝の読書、週1時間の図書、ボランティア活動など本に親しむ機会が増えてきた。） ○生活の規律（チャイムの習慣や3つの約束など子どもの意識が向上してきた。） ○毎日の授業の充実（児童の実態に寄り添い、学年で取り組みを進めることを心がけ、みんなが安心して落ち着いて授業を受けることを大切にしてきた。） ○思いやり・支え合い（児童が考えて行動できるよう「子どものよい姿」を伝えるようにしてきた。）</p> <p><課題> ○3つの約束の「時間」で休み時間後の切り替えが後半遅くなってきた。 ○自分たちの課題について学年集会などで確認し、意識の向上を図る必要がある。 ○地域・家庭と連携し実践に繋げるため、啓発や情報発信を強化する必要がある。</p>	
重点目標 3	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p><成果> ○体力の向上（学級遊び（レク）の推進、体育での運動量の確保、なわとび記録会に向けクラス練習や自主練習の増加など、外での運動の機会の確保に努めた。） ○食育の推進（栄養教諭による授業、遠足など行事に合わせ食指導を行った。） ○生活リズムの向上（生活リズムチェックによる意識向上の定着を行った。）</p> <p><課題> ○運動能力の個人差（運動能力に差があり、外遊びや運動に消極的な児童がいる。）</p>	

重点目標 4	教職員の協働	3
主な方策 成果と課題	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の共通理解の推進（週1回の打合せ・学年間の情報交換を密に行った。） ○児童への支援の推進（支援のための情報交換や学級・学年間の連携を進めた。） ○教職員の協働（情報共有により、各自が校内での出来事に対して迅速に対応することができた。） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○未然防止への取り組み（早期対応をしてきたが、未然防止にまだ甘さがあった。） ○授業改善（教職員が相互に授業改善し合う機会（時間）の確保が難しかった。） ○特別支援教育の校内研修会の充実が必要である。 ○1日の中で授業の空き時間が少なく、時間的ゆとりの確保が必要である。 	

重点目標 5	家庭・地域との協働	3
主な方策 成果と課題	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域との協働活動（米作り、各学年調理実習、土鍋体験や平和教育、図書・学習ボランティア、防災教育、地域探検、長寿会等交流活動、登下校の見守りなどを通じて、教育活動を理解してもらえる機会が増加してきた。） ○ホームページ（HP）の定期的に更新し、情報発信が行えた。 ○みえ委員会での意見交流（「がんばっている子どもたちの姿」を伝え、また逆に、委員方の声を子どもたちに届けたことで地域学習の一層の励みになった。） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活リズムチェックの改善で、家庭により温度差がある。家庭の協力を得るために学校からも、もっとフィードバック等の情報を知らせる必要がある。 ○みえ委員会等の方と教職員の交流方法など工夫していく必要がある。 	

2 改善方針

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○学校教育ビジョンの共通理解を深め、その具体的な方策を進めていく。 ○地域・家庭との連携を深めることで、教育活動の効果をより高めていく。 ○教職員の総勤務時間縮減を進め、児童の教育活動の準備・指導・支援の時間を確保していく。 |
|--|

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大矢知興譲小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>・「四日市モデル」を中心とした教育実践を行い、子どもたちが生き生きと学習できるような授業づくりを進めることができた。</p> <p>・全国学力・学習状況調査は、全国平均よりも良い結果であった。継続した取り組みと共に、弱みについては、今後の課題とし、日常の授業を大切にしていきたい。</p> <p>・学習規律の統一と定着に関しては、多くの子どもたちがチャイムを守って行動できている。今後も職員一丸となって指導を続けたい。</p> <p>・家庭学習に意欲的に取り組んでいる子どもが90%を超えているが宿題をやるのがやっとという子どももいる。自主的に家庭学習に取り組めるよう、支援を続けていく。</p> <p>・ICTを活用した授業を行ってきたが、情報モラルに関しての指導が必要である。利便性の裏にある危険性について、児童のみならず、保護者、教員も意識を向上していく必要がある。</p> <p>・学級担任と特別支援学級担任が子どもたちの指導について、よりよい支援ができるよう、連携して取り組むことができた。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>・「なかまづくり」についての研修を行い、大切にしたい考え方などを学校全体で共通理解することができた。</p> <p>・いじめアンケート、Q-U調査、教育相談を日頃のなかまづくり、学級づくりに役立てることができた。</p> <p>・各学年で人権教育の重点教材を設定して取り組んだ。今後も系統性を考えて取り組みたい。</p> <p>・読書活動では、図書館まつりを年2回開催し、朝の読書や家庭読書、読み聞かせ、読書貯金などの活動を広めてきたので、児童の読書量が増えてきている。ただ、保護者の学校評価アンケートを見ると家庭での読書を増やすことが難しいようである。</p> <p>・キャリア教育で、外部講師を呼び、自分の仕事について語ってもらった。普段触れることの無い職種の話の聞いたことで、子どもたちも興味を持てた。</p> <p>・代表委員会が中心となつての挨拶運動で自主的に挨拶をする子が増えてきている。その一方で登下校時のマナーの悪さについて地域の方々からご指摘いただく点がある。</p>	
重点目標 3	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>・授業の最初に「5分間運動」を取り入れることにより、児童が授業に興味を持ったり、主運動につながる技能を高めたりすることができた。今後も効果的な「5分間運動」や新しい運動を紹介するための校内研修をしていきたい。</p> <p>・新体力テストの結果から、長い距離を歩いて通学したり、スポーツ少年団等に入っていたりする子の数値が高いという傾向がみられた。授業で持久走に取り組むだけでなく、短縄や長縄など休み時間等に子どもたちが自発的に取り組める運動を推進していきたい。また、柔軟運動を苦手としている子も多いので、鉄棒やマット、跳び箱などの運動をする時期を全校で統一することで、器具を活用しやすくし、効果的に指導できるようにしていきたい。</p> <p>・保健指導では「からだもこころも健康な生活をおくろう」「良い姿勢のポイント」「せっけんを使って手をあらおう」など健康な生活の習慣化をはかるような指導を全学年に行った。また、食育では教科と関連づけた内容で指導を行った学年が増えたので、来年度は全学年で教科と関連づけた食育が行えるように計画したい。</p> <p>・命の大切さでは、各学年が発達に応じた指導を行った。4年生では二次性徴に加え、月経指導の機会も設けた。今後も系統的に取り組めるようにしていきたい。</p> <p>・安全教育では、火災・地震を想定した避難訓練を行い、「Jアラート」についても、その音声を聞かせるなどの指導を行った。交通安全教室を毎年行っているが、交通事故件数が増加しているので、日々の指導を強化し保護者への啓発の必要性も感じている。</p>	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を中心とした研修を行い、授業力の向上に取り組んだ。学びの一体化では乗り入れ授業や公開保育の参加など積極的に行うことができた。 ・全職員が授業提案を行い、互いの授業を見合い、検討する中で、研修を深めることができた。また、指導主事、教育アドバイザーなど多くの方に授業を見ていただき、指導力の向上に努めることができた。 ・児童・保護者アンケートを実施し、児童の実態と保護者の学校に対する評価を全職員で共有し、今後、取り組むべき課題について、明確にすることができた。 ・子どもと向き合う時間や授業の準備時間の確保のため、会議や業務の精選が必要であるが、まだまだ改善されていない現状がある。全ての教育活動は子どもの成長のため、という目的を見失うことなく、今後も時間を有効に使い、教育活動の質を高めていきたい。 	

重点目標 5	保護者・地域との協働	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の様子で気になることがあれば、すぐに学校と保護者が連携を取り合い、対応するように努めてきた。 ・総合的な学習の時間や生活科の時間、クラブ活動などで地域の方々にゲストティーチャーとして来ていただき、児童は意欲的に学習・活動することができた。 ・登下校を安全にするために、保護者や地域の方と協力して通学路に立ち、児童を見守ることができた。歩き方などのマナーは今後も指導を続けていく。 ・学校公開、授業参観を年数回実施し、保護者や地域の方に児童の様子を見てもらうことができた。 ・学校だより、学年だより、学級通信等を通して、学校や児童の様子を地域や保護者に伝えてきた。今後も地域や保護者の要望に応えることができるよう、教育活動の発信に努力していきたい。 	

2 改善方針

<p>(確かな学力の定着)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが「よく、分かった。」と言えるような授業づくりのため、更に研修に励んでいく。 ・宿題だけでなく、子ども自らが進んで家庭学習に向かえるよう、家庭学習の手引きを活用したり、自主学習のやり方など、具体的アドバイスを رفتりしていく。 <p>(豊かな人間性の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかまとのつながりを大切にした授業づくり、学級づくりを進めるために、子どもたち一人一人をよく観察し、一人一人のつながりを大切にしていける。社会的マナーに関して、保護者、地域と連携し、繰り返し指導を行っていく。 <p>(健康・体力の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業のみだけでなく、子どもたちの健康・体力づくりに関した環境を整える努力をしていく。 <p>(学校教育力の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は授業力の向上のための研鑽に努める。生活面での指導にも意思統一を図り、一丸となって取り組んでいく。 <p>(保護者・地域との協働)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域の方々からの要望に少しでも応えていけるよう、学校だより、学年・学級通信、ホームページなどを通して教育活動についての情報発信を行っていく。地域の方々にゲストティーチャーなどの活動への協力を計画的にお願いしていく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 八郷小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <p>①問題解決能力向上のための授業づくりに取り組みます。</p> <p>②基礎的・基本的な学習内容の定着を図ります。</p> <p>③言語（読む・書く・話し合う）と体験を重視した教育活動を展開し、授業を改善していきます。</p> <p>④ICTを活用した教育や、外国語活動（英語授業）の充実に取り組みます。</p> <p>⑤読書活動・図書館指導を充実させ、本に親しむ子を育てます。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>○「問題解決能力の向上のための授業づくりガイドブック・四日市モデル 5つのプロセスを活用して」の冊子を活用することで、共通した視点を持って計画的に校内研修を行い、授業研究・事後研修会等、充実したものとなった。</p> <p>○書く機会を設定してきたことで、書くことに抵抗はなくなってきた。目的に応じて書き方、書く内容の質を高める指導の工夫をしていきたい。</p> <p>△問題解決学習を定着させ、子どもに「より楽しい」と思わせる課題の設定、授業の進め方を検討していく必要がある。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <p>①「考え・議論する」道徳の推進を図ります。</p> <p>②いじめ調査・QU調査等の実施により安心して過ごせる学級づくりに取り組みます。</p> <p>③教育活動全体を通じたキャリア教育の計画と推進に取り組みます。</p> <p>④ スクールカウンセラーとの連携のもと、教育相談の充実を図ります。</p> <p>⑤東北復興支援活動等や地域行事に参加することでボランティア精神を育てます。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>○児童アンケート「人を思いやり、協力して活動することができるか」の項目に、9割以上の児童が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答え、昨年度よりも数値がのびている。道徳をより推進し、学校の活動全体で豊かな心を育てていきたい。</p> <p>○「仲間づくり」の研修を行い、QU調査を活用して学級集団の理解を進めたりするなど、毎日の教育活動の中で、職員は「人権」の視点を意識して取組を行った。</p> <p>○キャリア教育として、企業・大学と連携しながら授業を進め、社会見学等でフィールドワークを行ったり、修学旅行で様々な職業を模擬的に体験して、実生活・実社会との関連を図った学習を推進できた。</p>	
重点目標 3	健康な心とたくましい体の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <p>①子どもが意欲的に運動に取り組むための授業づくりや環境整備に取り組みます。</p> <p>②学校保健委員会や学校医等との連携などを通して心と体の健康教育推進に取り組みます。</p> <p>③栄養教諭や関係機関と連携し給食指導等を通して食に関する指導の充実を図ります。</p> <p>④「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に規則正しい生活リズムの定着を図ります。</p> <p>⑤危険予測能力の向上をめざし様々な体験活動を生かした安全教育の充実を図ります。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>○体力テスト結果は全国平均以上で、運動や体育授業が好きと答えた児童が多かった。季節を通して運動場で遊ぶ児童も多い。今後も運動や遊びを放課後や家庭でも継続的に取り組めるような働きかけをし、体づくりに向けて意識を高めていきたい。</p> <p>○防災教育計画に基づいて、実践力を高めるように指導するとともに、緊急時を想定した訓練等行うことができた。引き続き、避難訓練だけではなく、日頃から、話題として取り上げ、防災や安全に対する意識を向上させていきたい。</p>	

重点目標 4	地域・家庭との協力・協働の推進	4
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <p>①学校運営協議会を核として保護者・地域と協働する学校づくりを進めます。</p> <p>②学校支援ボランティアの参画(図書・クラブ・安全・授業等)の更なる充実を図ります。</p> <p>③地域と協働し地域の資源(自然・歴史・施設・人)を活かした授業に取り組みます。</p> <p>④学校教育活動や、子どもたちの様子の積極的な発信に取り組みます。</p> <p>⑤実施したアンケートをもとに評価をいただき、経営の改善に努めます。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>○本校は四日市版コミュニティスクールの草分け的な存在として、運営協議会の活動を通し、学校・家庭・地域が協働した学校づくりを推進することができた。学校運営協議会・拡大委員会のメンバーをはじめ、地域の方々や保護者が協力的で児童の様々な活動を支えてくださり、今後も”つながり”を大切にしていきたい。</p> <p>○開かれた学校として公開授業・自由参観等を実施し、また、地域のお年寄りや園児を招き積極的に交流を行った。学校の情報は、学校だより・学年だより・ホームページ等で積極的に地域や関係機関に発信することができた。</p>	

2 改善方針

<p>①「問題解決能力の向上のための授業づくりガイドブック・四日市モデル 5つのプロセスを活用して」に基づき、プロセスを指導案に位置づけ、授業の改善を進め、学校全体として研修を深める。また、学校教育ビジョンに示されている、教師主導の授業ではなく、学習者が主体であること、子どもたちの伸びようとする力を信じ、任せ、主体的に子どもたちが課題に対して探求し、深めていく学習の構築をめざしていく。</p> <p>②子どもの学習課題への興味・関心を高めたり、学び合いや協働的な学習を深めたりできるように、積極的に職員がICT等を効果的に活用できるような校内研修を推進する。</p> <p>③四日市版コミュニティスクールの草分け的な存在として、学校運営協議会の活動を通し、子どもたちの健やかな成長を願い、地域・保護者と協働した教育活動の継承と発展に取り組んでいく。</p> <p>④給食を通して、栄養教諭を中心に、各担任が食育の意識を高め、児童に対して食べることの大切さ、栄養について児童とともに考え、加えて、家庭への啓発も行っていく。</p> <p>⑤心と体の健康教育について、学校保健委員会や学校医等との連携などを通して、養護教諭による保健の授業・保健だより・ホームページの更新など、児童や家庭への啓発がなされた。また、給食委員会と保健委員会が合同で、健康に対する意識を高める取り組みを今後も継続していきたい。</p>

自己評価書

四日市市立 下野小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	「学び合いの学習」を推進	3
主な方策 成果と課題	<p>・学び合いの授業づくりを進める研修 授業づくりの全体研・学年部研を通して、全教員で授業改善を行っている。学び合う手法として発達年齢に応じて、ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、課題に対する話し合いをしたり、分からないことを出し合いながら教え合ったりして授業を進めている。その結果、学習に対する意欲の向上が見られる。また、児童の93%が授業を分かりやすいとアンケートに答えている。しかし、発表にウエイトを置くと、聞く姿勢が崩れてしまったり、発表したことに満足して最後まで友達の発表を聞けなくなったりするという課題がある。</p> <p>・確かな学力を育む授業の充実 基礎学力の定着のために継続的に、計算カードのタイムトライアルや漢字の再テスト、算数の授業始めの5分間の計算練習等を行っている。個人の学力差があるので、単元末には少人数授業の時間を利用して基本問題と発展問題を習熟別に行うこともした。児童の中には発展問題に意欲的に取り組んだり、中学年でも自主学習に取り組む子が出てきたりしている。授業始めの5分間の計算練習で力はあるが、時間確保には工夫が必要である。</p> <p>・読書活動の充実 「本を読むのが好き」とアンケートに答えた児童が多い。学校では読書50冊認定の表彰や、読書週間や読み聞かせ等の取り組みで読書好きが育っていると考えている。しかし、「家でよく本を読んでいる。」と答えた保護者が56%と児童との意識の差がある。さらに、子ども達がもっと本を読みたいと思うような仕掛けを考えたい。</p>	
重点目標 2	自尊感情や人権感覚を育む学級づくり・特別支援教育	3
主な方策 成果と課題	<p>・人権教育や道徳教育を充実～人権の守られた学級づくり 「友達と仲良くしている。」「学校は楽しい。」「友達や学級の子に、毎日挨拶できる。」とアンケートに答えた児童が90%を超えている。さらに、「いじめや仲間外しをせず、友達と仲良くしている。」と答えた児童は97.3%であり、児童が元気に登校できる環境があることがわかる。授業では、学年に応じて「私は誰でしょう。」「友達かるた」等の友達のことを知る活動や、ソーシャルスキルトレーニング的な要素を授業に取り入れたり、自分のことをスピーチする時間を設けたりして、子ども達を繋ぐ手立てを行っている。しかし、保護者アンケートの結果から、人権学習(いじめ問題等)の内容が十分に保護者に伝わっていない現状であることがわかってきた。</p> <p>・相談体制の充実 学期ごとに、いじめアンケートやQ U調査、生活アンケートを行い、その結果をもとに、担任と全児童が一人ずつ話す時間(教育相談)を設けている。しかし、「困ったときに親や友達、先生に相談している。」とアンケートに答えた児童が約8割にとどまった。この割合は、保護者のアンケートの「学校の出来事をよく話してくれる。」に肯定的な回答をした保護者のそれと同じであった。各担任は日常的に、子どもの日記や、帰りの会での子どものその日の出来事の発表などから、子ども達の様子を掴もうとしている。その中から気になることがあれば個人的に声をかけ、困ることがあればいつでも相談できるような関係を築くことに今後も努力する。 支援の必要な児童については、スクールカウンセラーや地域コーディネーターによる児童観察を踏まえて、校内支援委員会で個々に応じた支援の方法を検討し、全職員で共通理解して指導に当たっている。また、保護者の希望で担任以外にも、スクールカウンセラーと子どもの発達面での相談を行う体制を整えている。</p>	

重点目標3	地域教育力の活用	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を生かした体験活動を進める。 ・人と人とのつながりやかかわりを深める取り組みを進める。 <p>下野まちづくり委員会や楽寿会等の団体の協力を得ながら、地域連携授業の各学年の年間計画が確立している。アンケートからも児童・保護者ともに9割以上が、地域の方の協力を得た取り組みが効果的に行われていると感じていることがわかる。しかし、複数学年で内容の重なりのあるものがあるので、内容の見直しなどを図っていく。</p>	

2 改善方針

家でも本を読もうとする子を増やすために、読書ビンゴや読書パズルなどを取り入れたり、低学年の宿題に音読や計算カードと同様、読書を入れていくことで家庭での読書の習慣をつけるきっかけにしたい。また、学級文庫の本を充実させたい。又、「みえの学力向上県民運動に係る、生活習慣・読書週間チェックシートを活用した集中取り組み」等、今後も家庭との連携を継続していく。

保護者へ、いじめや差別のない学校づくりを進めていることを今以上に伝える方法として、学習プリント、通信、ホームページなどで学習内容を発信したり、学級の子ども達に、大切にしたいことが十分伝わるような話し方や指導法を追求していきたい。

校区の学習において、少し2～4年生に施設や企業などの訪問先の重なりが出ているので、各学年の学習内容に合わせて、どの学年でどこに訪問すると効果的かを見直したり、ゲストティーチャーの活用等、新しい教材・人材も発掘していきたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 水沢小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	4
主な方策 成果と課題	<p>○活動的な学習ができた。特に、四日市モデルを意識した授業作り（単元全体を見通した単元計画）、研修を行うことができた。</p> <p>○教職員間のつながりができており、同じ方向に向かって日々の研修ができた。</p> <p>○学力向上のための研修の充実。夏季研修会（外国語活動・還流報告等）を実施することにより、教職員自身が研修に対して楽しく取り組むことができた。</p> <p>○T・Tの意識が強くなった。</p> <p>○全体研が多く、たくさんの授業を見ることができ、個人の勉強になった。事後研では、具体的な助言をしていただき、考えを深めることができた。</p> <p>○主体的で対話的な深い学びの中で、確かな学力の成果が徐々に上がってきている。</p> <p>●自分の考えを深めるためのペアやグループ活動ができているか。</p> <p>●教師が、子どもたちの考えが深まるような発問ができているか。</p>	
重点目標2	地域とともに育つ子どもの育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○学年に応じて保護者や地域の社会教育推進者とふれあう活動をPTAと共催して行った。（かるた取り・タスポニ・テニポン等）</p> <p>○文化祭では、お茶カフェ、米作り活動の発表、プランターカバー作り、ポッチャを行ったりして交流をはかった。</p> <p>○他にも地域の方と児童と一緒に給食を食べ意見交換を行うなど、コミュニケーション力等の向上の機会を増やすことができた。</p> <p>○地域の方を招き、お茶の入れ方や餅つき・あられ作りを学習したり、地域の伝統芸能（お諏訪踊り）を学んだりして地域について理解が深まった。</p> <p>○地域の防災会の方を招き、地域の危険箇所調べ等を行い自分たちの地域の特性など一緒に考えた。</p> <p>●季節のものが多く、活動の時期がどうしても重なってしまった。</p> <p>●総合的な学習の時間が少なくなり、地域との関わりのある活動と授業時数確保の課題が、今後大きくなっていく。</p>	
重点目標3	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○一年を通して、仲間づくり研修に同じ助言者の先生に入ってもらうことにより、子どもたちの様子を知っていただけた。その上での人権学習の全体研を行うことにより、より具体的な助言をいただくことができた。</p> <p>○仲間作り研修会を通して、児童の実態を共有することができた。</p> <p>○地域・地場産業・自然の3つは切り離せない。</p> <p>○会話スキルの前に、お互いを知る活動が必要である。</p> <p>○Q Uをもとに、教育相談を定期的実施し、児童の課題等の早期発見と解決につなげることができた。</p> <p>○S Cが保護者に十分認識され、保護者の教育相談が適切に進められた。</p> <p>●児童の活動において、委員会活動と学級活動とのつながりを深め、主体的に行動できる児童を育てたい。</p> <p>●コミュニケーション能力を向上させるため、言語・絵・図・動作化などの手段で、自分の気持ちを表現させる必要がある。</p>	

重点目標 4	健康・体力の向上と安全・安心な教育環境づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○2学期に「かけ足」、3学期に「大なわ」を業間活動として全校で取り組み、児童が主体的に運動する姿が見られた。</p> <p>○計画的に食育を行うことにより、児童の食に対する関心が高まった。</p> <p>○防災教育を各学年の発達段階に応じて実施できた。</p> <p>○学校三師を活用した取組として、学校歯科医による低学年対象の「歯磨き指導」、学校薬剤師による6年生の「薬物乱用防止教室」及び教職員対象の「エビペン講習会」を実施した。</p> <p>○各学期に1回、生活チェック期間を設定し、生活チェックシートによる取り組みを行い、生活習慣、家庭学習・読書等の推進を図ることができた。</p> <p>●毎月安全点検を行っているが、子どもの目線から見ると、危険箇所等が多くみられることがわかった。</p> <p>●1学期も、全校的な体力向上の取組を考えたい。</p>	

2 改善方針

<p>○より子どもたちが学ぼうとする課題づくりを考えていく。</p> <p>○振り返りの時間を確保し、振り返りの定着を図る。</p> <p>○授業の中での、ペア・グループ学習の有効な活用方法のあり方を考える。</p> <p>○子どもたちの考えが深まるような発問の工夫を行う。</p> <p>○各学年の活動については、毎年同じものというのではなく、改善や見直しを行っていく。</p> <p>○「あいさつ運動」など定期的に行い、児童の意識を高め、行動力を身につけさせていく。</p> <p>○子どもたちが主体的に取り組む体力づくりを一層進めるため、1学期における全校的な体力向上の取り組みを進めていく。</p>

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	聴き合い語り合う授業づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業において聴き合い、考え合いとなる課題提示 ・自分の思いや考えをもっと知ってもらおうと話す子どもの育成 ・授業に振り返りの活動を設定し、書く活動に取り組む ・ペア学習や班学習を取り入れ、友だちとともに課題を迫及する活動の取り入れる ・食育や健康教育等を通して自分の体を知り、丈夫な体を作ろうとする子どもの育成 ・聴き合い、語り合うことで「わかった」と感じられる授業づくりの推進 ・「学び」の楽しさを追求する子どもの育成 <p>(成果と課題)</p> <p>○子どもの課題となる姿を、背景から理解しようとする意識が学校全体で共有されてきた。</p> <p>○目の前の子どもの姿を出発として、教職員間で意見を出し合いながら授業づくりを進めてきた。</p> <p>○明確に課題を提示し、その授業で何を学ぶのかをはっきりさせようとする意識が高まってきた。</p> <p>○ペアで話し合ったり考え合ったりする活動を積極的に取り入れていくことで、それぞれの子どもが自分の考えを持った上で、友だちの意見を聴くことができるようになってきた。</p> <p>○子どもアンケート「自分の思ったことを相手に話していますか」の肯定的回答率は、昨年度79.9%から今年度80.4%と年々増えている。「話してよかった」と思える体験を積み上げていきたい。</p> <p>○各学年、学期に1回ずつ食育指導と保健指導を行ってきたことで、食や健康に関する子どもたちの知識が広がった。今後も積み重ねていきたい。</p> <p>○子どもアンケートの「先生や友達の話さきくように心がけていますか」の肯定的回答率は、昨年度93.2%から今年度91.5%となったものの、話を聴こうとする姿勢や聴き取る質的な向上が見られる。</p> <p>●ペア活動を必要に感じたり、効果的な場面を見極めたりして取り入れることができていない。</p> <p>●教室をひらき、教職員同士が学び合う体制をとろうとしてきたが、多忙な中で教室が開けられず見合うことが難しい状況があった。担当からの提案を受け、互いに声を掛け合い、授業を見合えるようにする。</p>	
重点目標 2	支え合う仲間づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通した自尊感情の育成 ・安心してお互いのよさを認め合う学級づくりの推進 ・学年の取組を大切に、学年集団として高まろうとする活動の推進 ・委員会や係活動などの自主的な活動や集中して掃除に取り組む ・友だちの意見を最後まで聴き取り、自分の考えを返し、行動できる子どもの育成 ・ルールやマナーの修得に努め、人権問題を解決しようとする子どもの育成 ・人のつながりや人権について学び合う人権総合学習・生活科の取組の推進 <p>(成果と課題)</p> <p>○日頃から教職員同士で子どもについて情報交換する機会を持つことで、子どもへの見方が広がったり、すぐに活かせるアドバイスを受けたりすることができた。</p> <p>○視点となる子を通して、周りの子どもにどんな手立てをとり、なかまとして集団をつなげていくのかという視点でなかまづくりを考えることを共有することができた。</p> <p>○人権総合学習・生活科を通して、子どもたちの関係性がなかまとしてのつながりに変わっていくことを実感することができた。</p> <p>●子どもアンケート「自分のよいところがわかりますか」の肯定的回答率は、昨年度の77.8%から今年度79.0%となったが、依然として20%を超える児童が否定的回答となっている。教師自身が子どもの行動の背景を掴み多面的な見方ができるよう感性を磨きたい。また、その見方を保護者と共有するとともに、綴り、語り合う取り組み等を通して、確かな関係性を築くことで高めていきたい。</p> <p>●休み時間、お弁当給食、児童大集会等を活用しながら、たてわり班で活動する機会を増やし、今以上に縦のつながりをつくっていく必要がある。</p> <p>●子どもアンケート「いじめやなかまはずしはしていませんか」の肯定的回答率は、昨年度89.5%から89.3%となっている。</p> <p>○子どもアンケート「自分や友だちを大切にしていますか」の肯定的回答率は、昨年度97.9%から96.9%と若干下がったが、ほとんどの児童から肯定的回答が得られた。</p> <p>○いじめアンケートを毎学期実施することで、子どもの実態を把握し、個別対応かつ全体への指導へ生かすことができた。そのため、学校アンケートの「いじめやなかまはずしをしていないか」という項目において89.3%の子どもたちがしていないと回答している。</p> <p>●しかし、残り10.7%の子どもが「している」あるいは「どちらかといえばしている」に回答しているが、個別の聞き取りの中でそのほとんどが過去の解決したものであることが確かめられた。教師がその後を継続して見守るとともに、まわりの児童にもしっかりと状況を確かめながら、学級・学年など全体でいじめやなかまはずしのない取り組みとしていきたい。</p>	

重点目標 3	学習・生活の支援体制づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QU検査を活用した仲間づくりの推進 ・学習環境の整備し、学校美化を図る ・場に合わせた挨拶ができる子の育成 ・基礎学力充実タイムの取組による基礎学力の定着 ・のびっこタイムを通じた個別支援 ・学習園などを活用し、自然の恵みや環境を守ることへの必要性を体感できる活動の推進 ・保幼小中高が連携した支援体制の推進 ・家庭と連携した生活習慣(早寝・早起き・朝ごはんなど)の定着を図る ・図書館の本の整備に努め、朝の読書の時間を毎日設定し、読書好きな子どもの育成 ・特別支援教育の充実 ・ICT機器やホワイトボードの活用を進める。 ・自主的な読書習慣と家庭学習の定着に向けた家庭との連携 <p>(成果と課題)</p> <p>○ITの活用について見直し、固定的な役割とするのではなく子どもにとって効果的なものとする方法を教職員間全体で考え、実践につなげていくことができた。</p> <p>○基礎学力充実タイムで、算数を中心に各学年で子どもの実態に応じた内容や方法を考えて取り組むことができ、学力の積み上げにつながった。</p> <p>○家庭学習振り返り週間から見えてきた子どもの課題を、保護者へ発信することで意識やはたらきかけの変化が見られた。</p> <p>○ICTやホワイトボードを活用することで、授業に入りやすくなった子どもも入りやすくなった。</p> <p>○子どもアンケート「いろいろなことを最後までやりとげていますか」の肯定的解答率は、昨年度85.1%から今年度88.1%となっている。</p> <p>●家庭生活において、ルールを守ることや時間の使い方に見直しを持つことができにくく、なかなか改善の見られない子が固定的に何人か見られる。</p> <p>●図書館司書を活用することで、子どもが本に触れる機会が増えてきた一方で、まだまだ読書習慣が十分に身に付いている子どもが多いとは言えない。</p> <p>●昨年度以上に子どもたちは落ち着いており、子どもアンケート「学校の約束やきまりを守っていますか」の肯定的解答率は、昨年度91.1%から今年度87.6%となっているが、個への対応や仲間づくりの中で規範意識が高まったといえる。全職員で、守られていない約束やきまりを見逃さず、子どもたちに問い返していきたい。</p> <p>●児童運営委員会であいさつ運動に取り組むことで、あいさつをしようとする意識づけをおこなった。しかし、アンケートの結果から「進んであいさつができていますか」という項目において、保護者は前年度73.5%だったのに対して今年度は69.7%に、児童は前年度85.7%だったのに対して今年度は83.9%にそれぞれ下がった。今後も児童運営委員会を中心としながら、様々な視点からあいさつの意識づけが必要である。</p> <p>○図書館利用数は増え、低学年を中心に図書室に来て座って読書をする姿が増えている。</p> <p>○「家庭学習振り返りカード」や「すこやかチェック」をもとに、児童と生活習慣について個別に話をする機会を持つようにしている。今後も個別対応を積み重ねていきたい。</p> <p>●子どものアンケートで「読書をするのが好き」と答えている数が増えている一方で、保護者のアンケートの「読書をしていますか」は昨年度より増えているものの、ゲームやパソコンに時間を費やす子どもの実態もあり、47.1%と低い。ゲームやパソコン利用のルール作りを含め、読書週間の定着に向けた家庭への啓発など具体的な取り組みを通して呼びかけていきたい。</p> <p>○学校運営協議会委員の企画により、多くの方に参加していただき、除草作業やトイレ掃除など校内環境整備を図ることができた。</p>	

重点目標 4	地域の方に学ぶ・人がつながる学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会として、地域の方に学ぶ・人とつながる活動に取り組む。 ・人権総合学習・生活科の活動に地域活動を積極的に取り入れ、特色ある活動とする。 ・フリー参観、懇談会、講演会、保々の集い、プール開放、クラブ活動、ボランティア活動など、保護者・地域住民への参画を更に進めます。 <p>(成果と課題)</p> <p>○学校運営協議会委員の方やその団体により、子どもたちに豊かな農業体験や読書活動等を体験することができた。より効果あるものとするために、成果と課題を共有し、今後も継続していきたい。</p> <p>●クラブ活動では、いくつかのクラブをクラブ講師の方にお世話になり、専門性からより豊かな活動をしていただいていた。学校としてのクラブのねらいについての共有を十分に図れていなかった点は課題である。また、新学習指導要領の英語活動による週日課の見直しの中で、現在のクラブ活動のあり方も検討する必要がある。来年度はクラブ講師によるクラブは取りやめ、教職員の個性を生かし、他学年間の交流や様々な活動を体験させることをねらいとしたものに変えていく。</p>	

重点目標 5	安全・安心な学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー等と連携し、子ども・保護者の心のサポートに、全職員で取り組む。 ・いじめのない、仲間はずしのない保々小学校を子どもたちと共に創り出す。 ・学校だより、学年・学級だより、ホームページを通して、学校の様子を積極的に発信する。 ・栽培活動や飼育活動を通して、学校の環境にうらおいが感じられるようにする。 ・児童の安全意識・防犯意識づくりに取り組み、自分の命を守ることができる子を育てる。 (危機回避能力の指導・向上、防犯教室、交通安全教室、防火教室、校内・校区安全マップづくり) ・参観・懇談会・講演会・プール開放、ボランティア活動等、保護者・地域の方の参画を更に進める。 <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○担当職員とSCが連携を密にし、担任とSCとのコンサルテーション、児童観察、校内特別支援委員会への要請等により、職員の児童や保護者への働きかけに生かすことができた。 ○今までの避難訓練を丁寧に確認し、課題を明らかにするとともに、実践的な避難訓練に改善を図ってきた。南海トラフ大地震が予想される中、教職員の防災意識をよりいっそう高めるとともに、児童への防災教育を進めていきたい。 	

2 改善方針

・授業の課題が子どもにとって考え合いたくなるもの、本質にせまるものになっているかは今後も検討が必要であり、職員研修の中で学び合っていきたい。

・だれもが安心していきいき学ぶことができるようにしていくために、子どものくらしや思いを日記などに綴らせるだけでなく、書いたものを伝え合ったり、共感したり、思いを馳せたりする場面を意図的につくっていく必要がある。

・学校アンケート(児童用)における「学校は楽しいですか」という項目において、88.4%の児童が「楽しい」と回答している。残りの11.6%の児童が「楽しい」と感じる取組が必要である。

そのためには、学ぶことが楽しいと実感できる授業づくりに取り組まなければならない。

また、特別活動においては、以下の点を改善していきたい。

①たてわり活動を増やしていく。(児童大集会、たてわり・きょうだい学年による給食、たてわり・きょうだい学年による授業など)

②例年通り行事や委員会、クラブ活動等を実施していくのではなく、毎年内容を吟味していきたい。子どもたちの発想が豊かでないのは、「例年通り」の実施となっているためではないか。やってみたい、楽しい、夢中になる児童主体の活動を進めていく。(例:放送のための音楽CDなどの条件整備も図るとともに、放送委員会の放送内容を児童が聞きたくなるような内容のものにする。)

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 泊山小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○月に1回、朝の学習で聞き取りチェック（学調の聞き取りの過去問題）を実施 ○「聞く話すスキル」を使った暗唱チャレンジ及び、学校集会における異学年での暗唱チャレンジ交流の実施 ○見開き1ページを意識したノート指導及び、その余白を活用した自主学習の推進 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を提示し、最後に振り返りをする授業のスタイルが定着し、子どもたちが見通しをもって授業に取り組むことができた。 ・聞き取りチェックを継続して行うことにより、大切なことを聞き逃さない子やわかりやすくメモをとれる子どもが増えてきた。前日に宿題に出すことや職員室前に掲示することが子どもたちの意欲につながった。 ・聞き取りチェックに引き続き取り組むために、効果的な課題文の作成が必要となってくる。 ・学校集会での暗唱チャレンジによって、意欲的に「聞く話すスキル」に取り組むことができた。また、異学年と交流することによって相手のことを考えて話す力がついてきた。 	
重点目標 2	心の教育の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Q-U調査・教育相談を実施 ○清掃時に黙動で行うことを指導するために、点検カードや、校内巡視を実施 ○授業の開始・終了を意識した指導を実施 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと1対1で話す機会を作ることで、子どもたちの思いを知ったり、問題の早期発見・早期対応ができた。 ・日頃の積み重ねで、授業規律に基づいて落ち着いて学習に取り組めた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃時の黙動が徹底できていない。清掃に集中して取り組めない子どももいる。子どもたちに黙動の意味を捉えさせ、振り返りを行うことが重要。 ・教育相談などの時間確保が難しい。 ・適切な言葉遣いに対する教師と子どもの認識にズレがあり、場に応じた言葉遣い等継続した指導が必要。 	
重点目標 3	からだづくりの推進、安全意識の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業始めの「5分間運動」の実施と運動の面白さを体感できる授業づくり ○楽しく進んで運動できる環境づくり ○体力向上に結びつく体育的行事の実施 ○保健指導・食育の充実 ○一貫性のある安全指導 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5分間運動によって、子どもたちが運動を楽しんだり、体を温めたりすることができた。 ・「かけあし週間とマラソン記録会」、「長縄週間と長縄交流会」など、体育的活動の成果を発表する機会を持つことで、活動に対する意欲を持って取り組むことができた。 ・保健指導・食育については計画的に実施できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5分間運動の実施がクラスによって偏りがあった。また、必ずしも主運動につながる活動になっていなかった。5分間運動の内容についても、教師間で考え合ったり共有したりして、運動量の確保へつなげたい。 ・体育的行事の実施の仕方について、見直していく必要がある。 	

重点目標 4	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師による年1人1回以上の授業提案 ○学期に1度の授業公開期間の設定 ○ミニ研修会の開催 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回以上の授業提案があり、授業公開の参観での気づきやミニ研修会での気づきや学びを取り入れることができた。 ・ミニ研のノート研により、見開き1ページのノート作りを意識して指導し、子どものノート作りが変わってきた。ミニ研を学期に3回行うことで研修を振り返り日々の授業に生かすことができた。 ・研修の方向性がはっきりしているので、意思統一して子どもに向き合えた。 ・特別支援教育のあり方を提案できた。 ・特別支援教育の研修を普通学級での指導に生かすことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業提案は、学年部により指導案検討や参観の時間に偏りが見られた。学年部で計画的に提案日を調整できなかった。 ・T. Tの役割分担を明確にし有効に活用していく必要がある。 	

重点目標 5	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年度初めにおいて、『家庭学習について』保護者と共通理解を図る ○必要に応じた家庭連絡や家庭訪問の実施 ○コミュニティスクール運営協議会等を活用した教育活動の推進及び、学校教育活動におけるアンケートの実施 ○学年通信やH. P. での教育活動の内容や児童の様子の発信 ○地域の文化行事への参加や、学校行事への参観 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動アンケートでの「学校は、お子さんにとって安心して生活できる場になっている」「学校は、体育の授業や行事などを通して、体力向上を目指した取り組みを行っている」の項目において、95%を超える高評価を得た。 ・つんつく踊りなどの文化行事にも、児童が積極的に参加する様子がみられた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月のH. P. の更新を目標としたが、各学年において配信の回数にばらつきがみられた。そのため、保護者からの教育活動に対するアンケートにおいて、「教育活動の発信についてはまだ十分でない」という評価がされた。 	

2 改善方針

<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力・学習状況調査に向けて、過去の問題を授業で取り組んだり、月に1回、家庭学習として提示したりしていく。 ・朝の学習において、基礎・基本の学力を確実にするために、曜日ごとに学習内容を決め取り組む。 ・司書と連絡をとりあって、国語の学習と結びつくような本の紹介や読み聞かせを実施する。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃時における黙動を再度徹底したい。そのために、来年度は清掃場所と人数配置の見直し（暇な子を作らない）、清掃の評価の実施（達成感を持たせる）、音楽の見直し（黙動に合わせて無音）といったことを検討していきたい。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業公開を積極的に行い、主運動につながる5分間運動を教師間で共有し、実践していく。 <p>【重点目標 4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学年部も計画的に参観でき、指導案検討等に過度な偏りがでないよう検討する。 <p>【重点目標 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、月に2回、H. P. 更新や通信等での教育活動の発信を行い、『地域とともにある学校づくり』をさらに充実させていく。
--

自己評価書

四日市市立 常磐西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>1. 基礎学力の定着と学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で、学力調査・NRT等の分析を行い、職員会議等で共有し、2学期以降の指導や基礎学力の育成の参考とすることができた。朝の学習時間「ぐんぐんタイム」では、漢字・計算を中心とした反復練習を行い、基礎学力の定着を図った。 本年度も高学年で教科担任制を取り入れた。担当教科をより深く教材研究することができ、授業を児童の実態に即して工夫することができた。 理科と算数の授業では、TT（チームティーチング）を取り入れ、複数の教員で児童の理解状況を把握してきめ細やかな指導を行ったり、実験や観察を効率よく進めたりすることができた。 本校は学年あたりのクラス数が多く、教科担任制を取り入れやすいという利点がある。反面、教科担任制は時間割変更への対応が難しく、すぐには対応しにくいという課題がある。また、学級数の増加による教室等の施設不足で、少人数指導に対応できないという課題も解決できていない。今後も、少人数やTT、の効果的な運用を考えていく必要がある。 <p>2. 授業づくりの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究主題「なかまとともに学び、自ら考え向上しようとする子をめざして～表現活動を通して、確かな学力を育成する～」の1年次として、四日市モデルの授業形態を意識し、「見通し」を持って課題に向かわせ、書く・話すという表現活動を通して考えを深め合う授業づくりに取り組むことができた。 児童に「めあて」「課題」を意識させ、学習形態に工夫を持たせることで、児童が主体的に考え「学び合い」のできる授業を行うことができた。 「課題解決」や「まとめ」において、自分の考えを「書く」活動を積極的に取り入れた。これにより、書く力が定着してきている。 道徳教育、人権教育において、各学年1回授業研修を行うことができた。また、11月には6年生の人権の授業を全体研修として行い、6年生の人権教育の進め方について学び合うことができた。 <p>3. 読書活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、司書や図書ボランティアによる、授業や季節、行事等に関連した図書コーナーの設置が行われ、読書に対する興味関心を高めることができた。また、ピックアップされた図書を授業の資料として生かすことができた。司書がブックトークや読み聞かせなどを行い、担任と共に授業を進める活動も継続することができた。 	
重点目標 2	豊かな人間性とコミュニケーション能力	4
主な方策 成果と課題	<p>1. 道徳教育・人権教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の教科化に向けて、道徳年間計画を見直し具体的な教材について研究を深めた。 授業参観で、年1回の道徳・人権学習の授業を公開し、保護者への啓発を図ることができた。 2年生・4年生・6年生は、外部講師を招いて人権の授業を行い、人権について考えさせるきっかけを作ることができた。 <p>2. 教育相談、特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 四日市市特別支援地域コーディネーター及び、スクールカウンセラーと連携し、保護者・児童の教育相談を充実させた。支援の必要な児童について、全職員で見ているように、年度の初めに共通理解を図り、また日頃の様子を交流し合い、さらに、関係職員と連携し対応していくことができた。 <p>3. 児童が主体的に取り組む児童会活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、5・6年による委員会活動でよりよい学校づくりのための取り組みを行うことが出来た。代表委員会の取り組みとして、1学期は「とき西っ子夏まつり」を行った。代表委員が中心となり、各学年・各学級ごとに児童が出し物や運営方法を話し合い、主体的に活動することが出来た。当日は、子ども達が協力し合い、楽しく活動する様子が見られた。2学期は、「運動会、ドッジボール大会、赤い羽根共同募金」に取り組んだ。あいさつ運動は、1年を通して取り組みを続けている。 	

重点目標 3	健康・体力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><u>1. 体力・運動能力と食教育の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上の取り組みとして、今年度はとび箱・マットチャレンジ期間を設けた。この期間中、全学年でとび箱とマットに取り組むだけでなく、用具をすべて体育館の一隅に配置した。そのため、準備の時間が短縮され、子どもたちの活動の時間の確保とともに、安全な用具の出し入れの仕方と、次に使う人のことを考えた片づけ方を指導することができた。また、授業の最初に5分間運動を取り入れ、運動量確保とともに、主運動につなげるようにした。全校的な取り組みとして、全校外遊びや長縄チャレンジを行うことで、体を動かすきっかけとなった。 ・地産地消について、栄養教諭と連携して授業を行った。地元で収穫できる作物を知り、食を大事にすることについて栄養指導をした。 ・養護教諭と連携し、全学年を対象に、発育測定後、1クラスずつ保健指導を行った。5年生を対象に、授業参観と兼ねて歯磨き大会を開き、保護者とともに歯磨き指導を行うことができた。また、学校医と連携して学校保健委員会を実施し、6年生とその保護者に参加してもらった。 <p><u>2. 安全教育、防災教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期に1回、避難訓練を実施し、災害が起きたときの避難の仕方や、頭部を守ることの大切さについて意識させることができた。また、PTAの協力のもと、緊急下校訓練を行うことで、緊急に下校しなければならなくなった際に、安全に下校するための方法について訓練することができた。1学期末には、南警察の方に来ていただき、防犯指導をしていただいた。 ・5年生の総合的な学習の一環として、地区防災協議会の方に協力いただき、防災教室を行った。4年生では中消防署の方に来ていただき、防火教室を行った。これらの体験を通して、防災について意識を高めることができた。 ・職員を対象に、南警察の方に来ていただき、防犯指導をしていただいた。さすまたの使い方や、実際に不審者が教室に侵入してきた際にどう対処すべきかをシュミレーションしたことで、不審者対応についての意識を高めることができた。 	

重点目標 4	地域とともにある学校	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「みえの学力向上県民運動」の一環として、生活習慣読書週間チェックシートに取り組んだり、保健だよりや食育だより等を定期的発行したりするなど、保護者へ啓発する機会を持つことができた。 ・地域の方を外部講師として招聘したり、図書ボランティアや保護者が子どもたちの学習支援として協力していただいたりするなど、保護者や地域の各種団体等と連携し、学校教育活動を展開することができた。 ・朝の登校指導や下校パトロールなど、PTAと協力して安全に登下校できるよう見守りを行った。また、通学路の危険箇所の点検など、子どもたちが安全に登下校できるよう自治会・PTAと情報共有することができた。 ・学校だより等の定期的な発行やHPでの学校教育活動の紹介など、保護者・地域への情報発信に努めることができた。 	

重点目標 5	教職員の資質向上と健康管理	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年を中心にOJTを進め、互いに情報交換を図りながら教材研究・教材開発を行うことができた。 ・授業研の全体研修会の持ち方を見直し、グループ討議や交流の仕方を工夫したので、意見交流が活発に行われ研鑽を深めることができた。 ・外国語の研修会を年に数回もち、全教職員で外国語の授業の方法を学ぶことができた。 ・教職員の資質向上をめざして、若手教員の研修会を定期的実施した。 ・県外の研修に参加し、還流することで、日頃の教育実践に活かせるようにした。 	

2 改善方針

- ・空き教室や教師の数に限りがある中で、効果的なTTの運用の工夫を図るなど、児童や学校全体の実態に応じて指導の改善を行っていききたい。
- ・吉田山を管理していくうえで、年1度の研修会を実施しているが、専門の教諭や専門家や業者等が入って手入れや管理をしていく必要を感じる。
- ・生徒指導提案によるアンケートや教育相談等による、児童の実態把握に努め、職員全員が足並みをそろえて指導に当たることができるような具体的な取り組み・目標を設定し、統一した指導を行う。
- ・休み時間や放課後における運動習慣には子どもによって差がある。授業や行事でやっていることをさらに深め、子どもたちの普段の生活でも「やってみたい」と思えるような実践を職場内で交流し合う機会を持ちたい。
- ・学校教育活動の振り返りを定期的に行い、PDCAサイクルによる改善に努める。
- ・新学習指導要領の実施に向け、教科担任制や英語科の教科化等、教育課程の見直しが必要である。
- ・教材教具の整理整頓等も含め、子どもたちの学習環境の整備を定期的に行っていききたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 笹川東小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	①確かな学力の定着 ・基礎的学力の定着や問題解決能力の育成 ・コミュニケーション力の育成 ・学力の実態把握と指導方法改善 ・家庭学習の定着と内容の充実 ・読書活動の充実	3
主な方策 成果と課題	○JSLカリキュラムに基づいたどの子にも分かりやすい授業展開が定着し、児童が主体的に学習に向き合う姿が見られるようになってきた。 ○学力定着のため、算数では、学年はもとより各コースに応じた家庭学習の課題を出し、着実に力をつけられるような取組ができた。 ○算数科では、2・3年生では2コース、4年生以上での3コースに分けた少人数指導により、個に応じたきめ細やかな指導ができた。 ○学習掲示を工夫し、子どもが無意識のうちに学力をつけられるようにできた。 ○笹川子ども教室と連携し、夏季休業中に学力補充の取組を行うことができた。 ○「総合的な学習の時間」では、地域の特色を生かした学習内容とし、つけるべき力を明らかにした「笹川東小プラン」に基づいた取組を進めることができた。 ▲「学び合い」への共通理解が不十分で、教師主導の授業も散見される。さらに研修が必要である。 ▲学校評価の中の「読書好きな子」に関する項目が、保護者・児童ともに肯定的意見が8割弱にとどまり、下降傾向にある。高学年においても「読書タイム」を活用し、取組内容を充実させる必要がある。	
重点目標 2	②豊かな心の育成 ・人権教育・道徳教育の充実 ・特別支援教育の充実 ・基本的な生活習慣の定着 ・教育相談推進と問題行動の未然防止	3
主な方策 成果と課題	○児童集会では子どもたち一人ひとりの得意なことを発表する機会を設けたり、委員会による創意工夫した活動を推進したりして、自主的な児童会活動を進めることができた。 ○毎週児童に関しての情報交換を行い、共通理解を図ることができた。 ○校内特別支援コーディネーターを中心に、児童観察を行い、気になる児童のケース会議を早期に開き、指導方針や支援体制を確認し、児童に合った支援を行うことができた。 ▲遅刻や無断欠席は減少してきてはいるが、未だ無くならない。家庭への働きかけを含めた取組の充実が必要である。 ▲多文化共生教育を行っているが、まだまだ文化の違い、言葉の壁による問題が山積している。子ども心に響く人権教育を推進したい。 ▲スマートフォンの所持率が高くなってきており、インターネット動画サイトなどでのトラブルも見られる。保護者を含めた啓発の取組が必要である。	
重点目標 3	③健康・体力の向上 ・体力づくりの推進 ・学校危機管理体制の強化 ・安全教育の推進 ・健康教育・食育の充実	3
主な方策 成果と課題	○体力推進や食育、生活リズムを整える取組など、年間計画に沿って計画的に進めることができた。 ○地域の見守り隊と連携して、登下校の安全確保に努めることができた。 ○地域の協力者と連携して、子どもたちの励みとなるような学習環境の整備を行うことができた。 ○緊急下校方法を確立し、保護者・教職員・地域協力者の間で共通理解を図ることができた。 ○児童会を中心に、生活目標の取組を行い、子どもたちが自主的に活動する姿が見られた。 ○学びの一体化の取組の中で、中学校から体育科の教員が乗り入れ、より専門性の高い指導を行うことで記録を伸ばすことができた。 ▲体力増進の取組成果が、体力テストの結果として未だ表れていない。 ▲地域と連携した防災の取組をより一層進めていく必要がある。	

重点目標 4	④地域・家庭・関係機関との連携 ・保護者・地域住民・専門家の力を借りた学習活動 ・いろいろな通信やHP等による情報発信 ・学校公開の推進 ・保護者・地域の教育ニーズの把握と改善活動	4
主な方策 成果と課題	○「地域に開かれた学校」を目指して、保護者や地域に学校の教育活動を公開することができた。 ○保護者と学校が協力しながら学校行事をつくりあげ、さらに地域を巻き込んだものとすることができた。 ○学校HPをきめ細かく更新し、学校の教育活動についての理解を得ることができた。 ○スクールカウンセラー、外部の専門機関と連携しながら、子どもたち一人ひとりにきめ細かな支援をすることができた。	

重点目標 5	⑤教職員の資質向上 ・よりよい授業づくりの推進 ・校外研修会を活用しての授業力向上 ・子どもに向き合う時間と心のゆとりの確保 ・西笹川中学校区の学びの一体化推進 ・組織的な取組・協働の推進	3
主な方策 成果と課題	○全員の授業公開や参加型の研修会を通して、教師力の向上を図ることができた。 ○JSLカリキュラムに基づいた研修を深めることができた。 ○職員が率直に話ができる雰囲気づくりに努めるとともに、OJTを推進し、共同的に学び合うことができた。 ○全国学力学習状況調査、NRTやみえスタディ・チェックの結果を詳細に分析し、授業改善を目的とした研修会を実施し、職員の共通理解を図ることができた。 ○校内メールを活用し、職員同士が確実に効率的に情報共有することができた。 ▲全国学力学習状況調査で課題となった項目について、授業改善の取組をさらに進める必要がある。 ▲休憩時間に会議を設定せざるを得ないことがあり、会議精選や各部調整などでさらに仕事の効率化を図り、時間的ゆとりを生み出す必要がある。	

2 改善方針

「学校づくりビジョン」の推進に向け、教師力の向上を図るとともに、学校組織の活性化を図り、学校の教育力を高めたい。

<確かな学力>

- 算数科では、少人数教育による習熟度別指導を推進していく。個に応じたきめ細やかな指導方法の工夫をさらに進めていきたい。
- 日本語指導が必要な児童について、つばさ学級と在籍学級との連携を密にし、個々の児童の課題を共有した上で取組を進める。
- JSLカリキュラムを活用した授業を在籍学級においてもさらに推進する。
- 多文化共生学習計画「笹川東小プラン」に基づいて実践を進めることで、多文化共生についての職員の共通理解を進めていく。また、取組が子どもたちの心に響く実のあるものとなるよう、前例を踏襲するだけではない新たな教材開発もすすめていく。
- 「ささがわワールドフェスティバル」が地域・保護者への有意義な教育活動発信の場となるよう、内容を充実させたい。
- 読書好きな子、読む力のある子を育てるために、昼の「読書タイム」では、落ち着いた読書環境をつくり、個々の読書状況の把握に努める。

<豊かな人間性><健康な心と体>

- 児童会活動や委員会活動を通して、児童の自主性を育む活動を工夫する。
- 「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」の取組を継続し、基本的な生活習慣の定着を図りたい。
- 子どもたちの自尊感情、判断力を育む授業のあり方、指導方法についての研修をさらに進めたい。
- 子どもたちが「自ら学び、考え、行動する」安全教育の推進をさらに進めたい。

<家庭、地域と共に><学校経営、研修>

- 家庭訪問や電話・通信等による迅速、的確な情報共有に努め、HP、学校・学年だよりなどを通して保護者・地域の理解・信頼をさらに高めていきたい。
- 西笹川中学校区の学びの一体化をさらに進めていくために、内容を厳選し、効率的なものとしていく。
- 子どもたちが統合後の学校生活にスムーズに移行できるよう、統合に向けた西小との連携を進めたい。
- 勤務時間縮減に向けてICTを活用した事務処理の効率化をさらに推進したい。
- 英語・道徳を中心とした新学習指導要領に対応した研修会を開催し、授業力の向上を図る。

自己評価書

四日市市立 三重西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>①基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着 ○ノート指導に関して、学年の系統性を図りながら統一した指導に取り組んだことにより、児童も教師も学年が変わっても戸惑うことなく授業に臨むことができるようになった。 ○チャレンジテスト、学調、NRTの分析結果を全教員で共有することにより、児童の弱みをつかみ指導に活かすことができた。また、夏季校内研修で系統立てた指導の重点ポイントを確認する機会をもち、学年のつながりを意識した授業が展開されるようになり、結果として弱みとなっていた計算の分野で成果が見られた。 ○少人数の指導の体制作りが確立されつつあり、1時間を振り返る場面で、子どもの言葉を用いながらまとめをすることができるようになってきた。 ▲言語活動に関しては、まだ成果が明らかとなっていない。</p> <p>②思考力、判断力、表現力の向上 ○どの授業でも「問題」「めあて」「課題」を板書で示すことで、5つのプロセスを意識した授業につながった。児童も見通しを持って学習を進めることができている。 ○ホワイトボードや図への書き込みなど発表の方法を工夫することで、算数用語やキーワードなど、言葉を意識して伝える姿が見られるようになってきた。 ▲特に国語科を中心として、ねらいを明確に持ち、文章の書き方などを丁寧に指導していかないと学力が定着しないことを実感した。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>①互いに認め合う豊かな人権感覚の育成 ○いじめ調査（各学期1回）、QU調査（3年生以上年2回）を行い、実施後に教育相談を行うことで、児童の心の状態を把握し、問題等の早期発見、早期解決につなげることができた。また、「どんな理由があってもいじめはいけない」の結果数値が、昨年に比べて上がったことも成果と考える。 ○毎月生特委員会において虐待など生徒指導関係の状況を報告し合い、早期発見や解決に向けて動くことができた。</p> <p>②基本的な生活態度の育成 ○「学校生活最重点指導5項目」を設定し、全教師が年間5回の振り返りを行い次からの実践に生かすなどPDCAサイクルを機能させつつ全職員が共通理解のもと指導を行ったことで、子どもの生活が落ち着いてきた。 ▲廊下階段の右側歩行については、職員の評価は振り返り毎に良くなっているが、全体として満足のいく姿には到達できていない。今後も指導を継続していく。</p> <p>③読書活動を通じた豊かな想像力の育成 ○図書室及び各学級文庫の蔵書を充実させたり、一度に複数冊の本を借りられるようにしたりと、本を読む環境づくりをより進めたこともあり、貸し出し冊数が昨年度に比べ5割増し、読書に親しむ子どもが増えている。読書に関する新たな取り組みを行ったりしたことも成果につながった。 ○図書担当からの発信も多く、より多くの教師が意識を持って読書指導に取り組むことができた。 ▲学校ではよく読書をするようになってきたが、家庭ではそのように見られていない。実際に家庭での読書活動があまり変わっていないのであれば、今後は家庭読書も意識した取組をより充実させたい。</p>	

重点目標 3	すこやかな体をつくる	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①進んで運動に親しみ体力向上を図る活動の推進 ○夏季研修で「5分間運動」に関する実技研修を行ったことで、2学期以降、それを意識した体育の授業づくりをすすめる教師も見られるようになった。 ・体力テストの結果やマラソン記録会の結果、水泳進級や縄跳び進級など、自分の成長の結果を健康手帳を活用して6年間継続して記録していることで、以前と比較しても、自分の体や体力に関心を持つとともに「昨年の自分と勝負する」など、自身の記録の伸びを目指そうとする子が増えている。ただ、“そのために普段の生活をどうすればよいか”まで考えたり実践できたりする子は、まだまだ少ない。 ▲外遊びを進んで取り組めるような工夫を、体育委員会を中心に進めていく必要がある。</p> <p>②基本的生活習慣の定着 ・長期休業明けの比較的生活リズムが崩れやすい9月、1月に「生活リズムチャレンジ週間」に取り組んだことで、規則正しい生活を送ることへの意識付けにつながった。さらに、規則正しい生活が定着するよう、家庭とより一層の連携が必要である。</p> <p>③健康・安全意識の向上 ○火事・地震・休憩時間中と、様々な場面を想定した避難訓練を行い、非常災害時の避難の仕方について理解させることができた。また4・6年生において、防災に関する実践的な取り組みを行っており、防災意識の向上につながっている。 ○集団登下校では、高学年児童が良い手本となりつつあり、低学年児童に声かけをしながら歩くようになってきた。</p>	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①校内研修の充実 ○授業公開に向けて、何度も話し合いをし、教材や指導方法について学び合うことができた。 ○校内公開週間や、授業公開の取組により、授業改善につなげることができた。</p> <p>②特別支援教育の充実 ○個々の児童に関して共通理解を図り、全職員で見えていくことができた。 ○校内通級事業研修を通して、授業のユニバーサルデザイン化について学び、今まで気づいていなかったことに意識を向けることができた。 ・校内通級を利用した授業は、落ち着いて学習しやすい環境ができたが、その子が抜けたクラスの授業進度の調整が難しかった。 ▲校内通級研修に関しては、4月の段階では日程が出ていなかったため、2学期以降の研修の内容を全教員で共通理解できず、十分な話し合いを持つことができない時もあった。できれば、4月の時点で確認して進めたいが、今後無理な場合は職員会議などを通してから進めていきたい。 ▲支援が必要な子が多く、十分対応することができなかった。 ▲教員の評価結果の数値が他項目に比べやや低いことについては、まだできていない部分や課題が見えてきて、今後少しずつ取り組んでいこうという前向きな意識の表れだととらえている。 ▲「学習や生活で困った時に先生に相談できる」の項目では評価が75%程度。しかし教員側には、子どもたちはよく相談に来ているとの認識があり、教員の印象と子どもの意識のズレが大きかった。「あまり困っていることが無く相談の必要がない子」がどう答えるかなど、調査時の子どもへの声掛けを工夫する必要もあるのではないかと考えている。</p> <p>③学びの一体化での授業研究 ○保幼小中が見通しを持って取組を行うことの大切さを認識するいい機会となっている。 ・お互いに情報交換しつながらという意味では有意義な時間であるが、積み重ねた話し合いとなると難しい。 ・昨年度から乗り入れ授業の回数が非常に少ない。同じ中学校区でもバラつきがある。</p> <p>④働きやすい職場環境の充実 ○勤務時間削減のための具体的な方策等、管理職からの提案も多く、即成果の上がる取組とまではいかないものの、職場全体での共通理解ができていく。</p>	

重点目標 5	地域と共にある学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①コミュニティスクールによる学校運営の充実</p> <p>○平日の昼間にコミュニティスクール運営協議会を開催したことで、子どもたちの様子を参観したうえで委員から具体的な意見を聞くことができた。</p> <p>○コミュニティスクール委員から紹介された指導者により、停滞していた太鼓クラブの活動が充実したものとなった。</p> <p>②家庭・地域・学校の協働の推進</p> <p>○地域の教育力を活用することができた。特に、図書館ボランティア「どんぐりの会」は毎週火曜日に読み聞かせを行うなど、本校の読書教育において欠かせない存在となっている。</p> <p>○しろやま倶楽部との環境保全活動を計画通り行うことができた。6年生の植樹は、卒業記念行事として定着してきた。</p> <p>○子どもを守る安全パトロール隊の見守りにより、子どもたちが安全に登下校できている。</p> <p>○保護者アンケート「学校は、学校や子どもの情報を通信やHPなどで、分かりやすく伝えている」という項目では、3, 4段階で87%という結果であった。ある程度の評価を得ているが、今後も学校HPの更新や学校通信など情報の発信に努めていかなければならない。</p> <p>▲「家庭学習の手引き」による家庭啓発に取り組んできたが、保護者アンケート「お子さんは家庭学習の習慣が身に付いている」という項目では、3, 4段階で76%という結果であった。今後も取組を進めていく必要がある。</p>	

2 改善方針

- ・勤務時間の削減が言われる中、やるべきことは増える一方(の印象が強い)。会議が多く学年部や学年で話し合う時間の確保もままならない。どこかで根本的な見直しが必要。
- ・算数科を窓口とした研修が一定の成果を見せている。その成果を、更に他教科へも拡げていけるよう取組を進めたい。
- ・子どもの体力の向上に向け、運動好きな子どもを増やすことが急務となっている。そのための体育の授業のあり方や日常の運動習慣の向上等について、学校全体で取り組んでいきたい。
- ・読書に対する学校での子どもの姿に良い変化が見えてきた。今後は更に家庭での姿も変化するよう、取組を進めていきたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大谷台小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	問題解決能力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>・毎日の授業や朝の学習の時間に、言語活動の充実を図り言葉の力をつける。</p> <p>・思考の場を設定した授業作りの研究を推進し、論理的思考力の育成を図る。</p> <p>・ねらいに応じて自分の考えの形成・交流を積極的に図るための場作りについて研究する。</p> <p>・中学校区や校内において、連携を密にした教育活動を行う。</p> <p>○6年生児童全体を対象にスピーチコンテストを実施し、全校集会で共有する場を持った。日常の指導の成果を共通し、低学年児童にも先の目標となる姿を見せることができたのは大きな効果があった。</p> <p>○11月10日に公開授業研究会を開催した。たんぼぼ・各学年部および学校提案、7本の提案授業を行い、それに向け全校で団結して研修に取り組んだことにより、子どもに力をつけることができた。</p> <p>○年間の見通しを共有し、計画的に全員で研修を推進していくことができた。</p> <p>○どの学年も各教科において、日常的にペア・グループ学習を取り入れ、考え合う場面を設定した。</p> <p>○今年度は学びの一体化の担当校として、全体会や各教科別の部会を適切にリードすることができた。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>・QU調査を実施する。(年2回)</p> <p>・各学級で個別教育相談を行う。(年3回)</p> <p>・学校のきまりを職員で共通理解し、指導に生かす。</p> <p>・生徒指導について共通理解を図るため、毎週始めに生徒指導情報交換を行う。必要に応じケース会議を行う。</p> <p>・各学期ごとに1回いじめ調査を行う。(年3回)</p> <p>・「見つめる子」を設定し、その子を取り巻く学級集団の仲間づくりを行う。</p> <p>・5つの人権課題を中心に、人権教育の実践を進めていく。</p> <p>・道徳教育の推進計画に基づいて実践を進めていく。</p> <p>・年間を通して読書の時間を設定し、10分間読書・本の読み聞かせ等を行う。</p> <p>・図書館の環境整備を進めたり、蔵書を充実したりすることで、親しみやすい図書館づくりを進める。</p> <p>○QU全体研修会では児童や学級への見方を深めて手立てを交流するなどQU調査を活用することで、児童の満足率が向上した。</p> <p>○教育相談により児童理解を深めることができた。</p> <p>○情報交換会やケース会議を実施することで情報を共有することができた。</p> <p>△種々の問題について、どのようなメンバーで相談や対応を行うか、整備する必要がある。</p> <p>○「見つめる子」を設定した仲間づくりの実践を意識的に行うことができた。</p> <p>○人権教育について、各自がレポートにまとめ実践を交流し、自らの実践を交流し、日常の指導に生かすことができた。</p> <p>○昼読をすることで、児童が午後の活動に落ち着いて取り組むことができた</p> <p>○ライブラリークエストや本の紹介の木、パズルなど、新しい取り組みを行った。</p> <p>△読書の記録を活用している人としてない人がある。高学年はクラス単位では図書の時を持つことが難しく、図書の本に関わる機会の少ない児童がいる。</p>	

重点目標 3	健康な体の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きになるよう、5分間運動を取り入れるなど、体育の授業を工夫する。 ・体育的行事を生かし、体力向上に取り組む。 ・実際の場面を想定した避難訓練を実施する。 ・月1回安全点検に取り組む。 ・交通安全教室を行い、特に安全な自転車の乗り方に取り組む。 ・食育を他教科と連携し、食育授業に取り組む。 ・ハッピー人参などによる、給食残菜減少に取り組む。 <p>○スポーツテストの結果を踏まえて、最初の運動や主運動の場の工夫もできた。</p> <p>△走力と投擲力に弱みがあり、指導の改善が必要と考える。</p> <p>○委員会の取り組みによって、残菜を減らそうと努力する姿勢が芽生えてきた。</p> <p>○ハッピー人参も子どもたちが喜んでおり、今後も継続していきたい。</p> <p>△野菜・和食嫌いが多く、栄養教諭と連携し、食育指導の充実が必要である。</p> <p>○様々なパターンでの避難を経験させることで、場に応じた行動を考える力がついてきた。</p> <p>○自転車による事故はなく、校内での怪我は少なくなり、安全に気を付けた行動を取ることができるようになってきた。</p> <p>△正しい遊具の使い方を指導し、ケガの防止につなげたい。</p>	
重点目標 4	特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会を定期的に開いて具体的な手立てについて話し合い、指導に生かす。 ・学年会で話された内容を拡大特別支援委員会で交流し、適切な支援を行うことができるようにする。 ・たんぼぼバザールの取り組みを通して、全校の子どもたちと関わり、お互いに理解を深め合う。 ・掲示板を利用し、たんぼぼ学級での活動を知らせることで、特別支援学級の子どもたちへの理解を深める。 <p>○学期ごとの拡大特別委員会で全体での情報共有を行い、必要に応じて個々に委員会を開いて対応をすることができた。</p> <p>△特別支援委員会後の取り組みについて、全体で確認する機会を持つことが難しく、担任や学年任せになる部分がある。継続的な見守りや取り組みができるシステムを構築していきたい。</p> <p>○今年度は児童集会で担任が全校児童に話す機会も作ってもらえたので、より効果が得られた。</p>	
重点目標 5	家庭・地域との協働の推進	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に通信の発行やHP更新を行い、積極的に情報を発信する。 ・授業参観や学校公開日をのべ10回実施し、学校公開を推進する。 ・スクールサポーター制度を立ち上げ、学習活動や特別活動に協力を得て、各活動の充実を図る。 ・防災週間を設け、保護者にも災害の恐ろしさを再認識してもらい、災害から身を守る大切さを啓発する。 ・家庭学習の手引き一覧表として学校の基本的な方針を保護者に通信や懇談などで発信する。 ・4年生の総合的な学習の時間を中心としたEM河川浄化活動を行う。 ・地域指導者と連携し、EMクラブ・茶道クラブの活動を実施する。 ・自主的・計画的に授業づくりや仲間づくりについて学びあう研修会を実施する。 <p>○授業参観・学校公開等は全て計画的に実施された。</p> <p>○学校だよりの発行が60号を超え、行事等の内容だけでなくそのねらいや取り組みの経過についても詳しく家庭、地域に発信することができた。</p> <p>△HPの更新が少なめで、学年によってばらつきがあった。</p> <p>○スクールサポーター制度を発足し、保護者の学習支援を受け入れるとともに、草刈りなど教育環境整備にも協力いただくことができた。</p> <p>○家庭学習の手引きをもとに、学年に応じて通信等で宿題の仕方を伝えるなど、家庭と連携しながら進めることができた。</p> <p>△家庭学習の状況について、学年間での共通理解を計るべく毎月振り返る機会を持つようにしたが、うまく機能したとはいえ、年度途中の改善につなげるのが難しかった。</p> <p>○4年生が炊き出し訓練を保護者とともに行うなど、有事の際の行動を保護者とともに学べたのがよかった。</p> <p>○5年生も防災教室を行い地震の恐ろしさを学ぶことができた。</p> <p>○4年生を中心とした河川浄化活動は計画的に実施され、環境教育として効果をあげた。EMクラブ・茶道クラブの活動も順調に行われた。</p>	

重点目標 6	教職員の資質・能力の向上	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主的・計画的に授業づくりや仲間づくりについて学びあう研修会を実施する。三重大学教育学部の守田庸一先生を招聘し、研究推進について指導助言を得て授業力を高める。 ・ 学校づくりビジョン推進と関連させ、サポートブックを活用したり、面談を実施したりし、教師力アップに努める。 ・ 仕事の精選を行い、教職員が創造的に働ける職場環境を築くとともに、労働時間短縮により職員一人一人の健康を維持し、意欲と活力を向上させる。 <p>○年間通して、計15回(国語6回、人権5回、外国語1回、生活2回、生指1回)のミニ研修会を計画的に実施することができた。30分だが、有意義な時間となった。</p> <p>○大学連携の枠で、守田先生を全体研に招聘し、全体研修会及び公開授業研究会を年間6回効果的に実施することができた。</p> <p>○サポートブックを活用して2回以上の面談を実施することができた。</p> <p>○定時退校日及び会議のメール提案や終了時刻設定に加え、日々の勤務において、声をかけ合って早く帰宅する雰囲気醸成されてきた。</p> <p>△依然として時間外勤務は多いため、さらなる取り組みが必要である。</p>	

2 改善方針

- ・ 今後も、全校集会や各学年での取り組み等、分かりやすく自分の考えを表現する機会を計画的に設定し、どの子にも力量を付けさせたい。
 - ・ 来年度も、「論理的思考力の育成」は大事にしながら、日々の授業の充実を図り子どもたちに力を付けていく。
 - ・ 来年度も、中学校区として、子どもの情報交換の場を大切にし、計画的に学びの一体化の内容や進め方について調整・協議し、より良いものを探っていく。
 - ・ 生徒指導対策委員会を組織として機能させることで、学校として問題行動への対処方法を考えて共有する。
 - ・ 今後も、子どもの背景を見つめ寄り添う姿勢を大切にして、仲間づくりと人権課題を念頭に置いた人権教育の実践を全職員で日常的に進めていく。
 - ・ 来年度は、体力テストを全クラスで実施し、一人一人の課題を明確にすることで、個人目標を持たせるようにしたい。また、様々な運動経験を積ませることで、自己の体の成長を促すようにしたい。
 - ・ 遊具の使用の仕方についても各学年での指導を徹底し、安全に活動できるようにする。
 - ・ 今年度は食育指導に弱さがあったので、来年度は食育の指導(栄養バランスなど)の指導を丁寧に行い、健康的な体づくりに努めていくようにする。
 - ・ 拡大特別支援委員会で、対応後の児童の様子を共有できるようにしていく。打ち合わせの生指報告の時間等を使って校内委員会のお知らせをしていくようにする。
 - ・ 来年度も、通信やHPの更新をはじめとして、情報を適切に発信していく。
 - ・ 毎月、HP更新日を設け、どの学年も月1回は更新するようにする。
 - ・ 平成30年度に開始するコミュニティースクールに引継ぎ、保護者や地域の支援を受け、「チーム学校」として機能していくようにしたい。
 - ・ 来年度も、校内で互いに学び合う姿勢を大切にし、ねらいを厳選して、計画的に効果的なミニ研修会を行っていく。
 - ・ 来年度も、それぞれが個々のめあてを明確に持ち、学校としてビジョンを共有し協働できるように努めていく。
- 放課後に会議の設定がない日を増やすなど、定時退校や休暇取得を推進しやすい環境づくりに取り組んでいく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 笹川西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	基礎基本の定着を図る。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">朝学習で、毎週月・水曜日に「音読」、火・木曜日に「計算」、金曜日に学年の実態に応じた取り組みを行う。個に応じた指導を重視し、国語・算数科での少人数教育（習熟度別）を継続して行う。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">個に応じた指導を重視し、国語・算数科での少人数教育（習熟度別）を継続して行っているの で、子どもたちは自分に合ったペースで学習が進められ、学習意欲を高めることができた。基礎基本の定着を図るため、朝学習に全校体制で取り組んでいることで、算数では四則計算を行う ことに抵抗がなくなってきた。既習内容を考慮した課題を家庭学習に盛り込み、さらに定着を図ったことで、再度振り返る場を 設けられた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">基礎基本の定着を図るための方策をとっているが、子どもによっては定着できていない。	
重点目標2	子どもが夢中になる授業づくりをすすめる。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">毎授業で、「めあて」「ふりかえり」を提示し、対応させることの徹底。学習課題の設定、働きかけについて、校内研修でよりよい授業ができるよう教職員全体で考え、 一人ひとりが授業改善に努める。導入を工夫し、児童が主体的に学べるように努める。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">常に「めあて」「ふりかえり」を意識した授業を行うことができた。その結果、子どもたちも、 「今日の授業では、どんなことを学習するのか」ということを意識して授業を受けるようになった。校内研修で、「学習課題の設定の仕方」「働きかけ」などについて考えることで、教職員一人ひ とりがよりよい授業を行おうと意識するようになり、授業改善につとめることができた。	
重点目標3	心と体により健康教育を推進する。	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">「健康の日」を設け、食育について全校体制での取り組みを行う。授業や保健指導、「生活リズムチェック」を行い、規則正しい生活についての意識を高める。学校公開日に発表会を持ち、保護者や地域とともに健康教育を進める。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">日頃の給食の時間に、食材の効用を話題にあげて推進できた。栄養教諭と連携し、食育について全校体制で取り組むことができた。「学校保健委員会」での発表や各種アンケートなどを通して、保護者に啓発することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">子どもたちは、食育の大切さを知識として学んだが、実生活では実践できていないこともある。 家庭との連携が大切である。今後も継続して取り組みを進める必要がある。	

重点目標 4	自尊感情を高め、ちがいを認め合える仲間づくりをすすめる。	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多文化共生を学校生活の中心にすえた取り組みを行う。 ・ あらゆる機会を通じて人権教育を行う。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多文化共生を学校生活の中心に据えているので、子どもたちは一人ひとりの違いを認め合える子どもたちが多い。 ・ 「どんなことがあっても、いじめいけない」とアンケートに答えた子どもたちが98%に達し、学校のほぼ全員がいじめを否定する意識を持つことができた。 ・ 自己を見つめる内容の取り組みと、他者からの評価をもらう活動を行い、自尊感情を高めることにつなげた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自尊感情を高めるための取り組みを継続してるが、まだまだ自尊感情が低い子どもたちが多い。今後も継続して取り組みを進めていかなければならない。 	

重点目標 5	安心・安全な学校づくりをすすめる。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あらゆる教育活動を通して、命の尊さについて指導する。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あらゆる教育活動を通して、命の尊さについて指導しているので、ほとんどの子どもたちが「命は大切である」とアンケートに答えた。 ・ あらゆる場面を想定した避難訓練を行うことができた。 	

重点目標 6	開かれた学校づくりをすすめる。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に1回程度、授業参観や個人懇談会などを開催し、保護者が来校できる機会設ける。 ・ ホームページを毎日・更新し、本校の教育活動を公開する。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 希望性である2学期末の個人懇談会を希望する保護者が増え、保護者の子どもたちの学習への関心が、年々高まってきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価で、保護者から意見を提案していただいている。本校がよりよい教育活動を行うため、それらの意見や提案を検討し、教育活動にいかしていかなければならない。 	

重点目標 7	教職員の資質向上を図る。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修の充実。 ・ OJT研修会を校内の研修の一環として位置付け、定期的を開催したり、独自の研修会を持ったりして、教職員の資質向上を図る。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ OJT研修会を校内の研修の一環として位置付け開催したことは、教職員の研修意欲を高める結果となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内における、道徳教育の推進が弱かった。 ・ OJT研修を計画しながら、他の会議や行事などで開催が延期されたことが多くあった。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容の定着に向け、授業改善をつねに念頭に置きながら、授業を行う必要がある。 ・ 家庭学習の習慣や集団生活を送るための基本的な生活習慣が身についていない子どもたちもいるので、ねばり強く指導してくとともに、懇談会や家庭訪問を利用し、家庭への啓発を引き続き行いたい。 ・ 学校・地域の実態を踏まえて、多文化共生の人権教育を中心にすえ、系統立てた取り組みを今後も継続して進める。 ・ 子どもたち一人ひとりにあった、支援の方法を考えていく必要がある。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 桜台小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	根気「つよく」真剣に学び合う子の育成	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <p>①基礎的・基本的な知識と技能の定着 ②思考力・判断力・表現力の育成 ③言語活動の充実 ④特別支援教育の推進</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引きを改訂。家庭学習(プラスワン)は授業と同様にめあてと振り返りを意識することを徹底した。 ・複数の指導者による授業を行ったり、学習支援ボランティアを学習内容に応じて活用したりすることで、子どもたちの授業に向かう意欲を高める成果は見られた。今後は特にまとめの学習における少人数指導の在り方について、工夫していきたい。 ・課題を意識することができるようになったものの、課題の質や提示の仕方などについては、今後さらに研修を積んでいく必要がある。 ・ペアやグループの学び合いの持ち方について浸透しつつあるので、今後はさらに子どもたち一人ひとりの学びが深まるように「聴く」「つなぐ」「戻す」を意識して日常の授業を行うことが大切である。 ・表現活動の日常化に心がけ、俳句・詩歌・意見文・観察カード・修学旅行記等、教科学習や行事に合わせて言語活動が行えるようにした。 	
重点目標 2	「あかるく」健やかな心と体を持った子の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <p>①健康・安全についての意識の向上 ②体力・運動能力の向上 ③豊かな生活を営む食育の推進</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業間かけ足・なわとび、運動会等、日常の体育の授業とつなげることを大切に指導を行った。 ・体育の授業で子どもたちが進んで楽しく運動できるように、ミニ研修会を行い、場づくりや指導の工夫等についての力量向上に努めた。 ・身体測定時に、各学年の子どもの発達に応じた保健指導を行った。4年生では養護教諭と担任による性教育の取組から、思春期の体の変化について理解し、自他を認め合うことができた。 ・学校保健委員会を実施し、保健委員の発表を受けて、学校三師から子どもたちや保護者へ話をさせていただく機会をもった。今後、さらに多くの保護者に健康について興味関心をもって参加をしてもらうために、平日の授業参観と学校保健委員会を同時に開催するなど工夫をしたい。 	
重点目標 3	「あたたかく」思いやりのある子の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <p>①なかまづくりの推進 ②人権教育の推進 ③道徳教育の推進</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修として学期に1回ずつなかま作りレポートを書くことで、自分自身を振り返ることができた。また、各学級の取組の様子や現状、課題を共通理解する機会となった。 ・各学期のいじめ調査後には教育相談を実施し、いじめの早期発見・早期対応に心がけた。 ・人権フォーラムでは、桜中学校区3校で集い、人権課題について前向きに議論し、お互いの人権感覚を高め合うことができた。 ・親子で情報モラル講座を受講する機会をもつことで、SNSは便利だがトラブルも生じやすいので、1. フィルタリング、2. ルール決め、3. 相手を思いやって情報発信することの大切さを確かめることができた。今後も毎年内容をかえながら開催し、周知を図りたい。 ・授業参観で道徳の授業を公開したり、道徳の教材を家庭に持ち帰ったりして、道徳の学習について、保護者と共に考える機会を設定した。 	

重点目標 4	信頼される学校づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①学校の情報発信の充実 ②PTA・地域との連携 ③学校評価を活用した学校づくり</p> <p>【成果と課題】</p> <p>・学校だよりや学校HP、PTA役員会等で定期的に情報発信を行った。これからも継続して家庭との連携や共通理解、話題提供等を行っていく。 ・創立40周年を祝う記念集会を行い、保護者・地域・OBとともに学校の創立を祝うことができた。 ・運動会やオープンデイ、授業参観などで、保護者が参観する機会を可能な限り提供したり、PTA行事「ゆびとま」で、学校・保護者・地域が連携して環境整備を行ったりした。 ・学習支援ボランティアとの触れ合いや総合「ようこそ先輩」で卒業生をゲストティーチャーに招くことで、多様な価値感に出会い、学ぶ意欲や社会性を育成することができた。 ・学校アンケートや学校運営協議会での協議内容をもとに、学校経営を振り返り、学校教育活動及び学校運営の改善を行った。</p>	
重点目標 5	教職員の資質向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①授業改善のための校内研修の充実 ②目的意識を持った研修の推進 ③OJTの推進</p> <p>【成果と課題】</p> <p>・すべての子どもたちが「わかる」授業の実現のために日々の授業改善に努め、全員が年5回授業公開を行い、発表する機会をもつことで、自己研鑽に努めた。 ・問題解決能力の向上をめざして、授業改善を行ってきた。理解を確かなものにする「めあて」と「振り返り」を意識し、課題の解決に向けて主体的・協働的に学び合う授業づくりに取り組んできた。そのためには、全体の場でも分からないことを分かるまで聴き合う、説明し合うなど、授業展開についてさらに工夫していくことも重要である。 ・ミニ研修会や還流報告会を行うことで、教師間の共通理解を図るだけでなく、日々の授業改善に向けて振り返ることができた。</p>	

2 改善方針

<p>○重点1 根気「つよく」真剣に学び合う子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着・向上・・・聴き合う関係の深化、家庭学習（プラス・ワン）のさらなる充実 ・思考力・判断力・表現力の育成・・・課題の質の向上を図る。 ・少人数教育の充実・・・複数の指導者による授業、学習支援ボランティアの活用等を工夫する。 <p>○重点2 「あかるく」健やかな心と体をもった子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力の向上・・・子どもたちにとって身体を動かすことが楽しいと思える体育の授業の実施。 <p>○重点3 「あたたかく」思いやりのある子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の推進・・・「いじめや差別を許さない」という視点での教師の子どもの実態を把握する力の向上と、 道徳や人権学習の充実。 <p>○重点4 信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者との連携・・・学校だより、HP、学年通信などの内容充実及び定期的・継続的な発信。 ・地域ボランティアの活用・・・学習支援ボランティアのさらなる人材発掘。 見通しをもち計画的に活用する体制と教職員の意識向上。 <p>○重点5 教職員の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OJTの推進・・・研修で学んだことを日常の授業に生かし、授業改善を図る。 特別支援が必要な児童への支援力の向上とチーム学校での対応。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 八郷西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学力を高める	3
主な方策 成果と課題	<p>具体的方策 ①基礎基本の確実な定着②自ら考え、語れる子</p> <p>成果と課題 □児童「授業はわかりやすい」93%、「ききあい考え合って学習している」94% □保護者「学習内容を理解している」81% 「意欲的に学習している」74% ○授業や朝学、まなびっこタイム、夏季休業日の補充学習等の充実、少人数・TTによる個に応じたきめ細やかな指導、家庭学習の習慣化によって、児童の学習意欲が向上し学力（基礎基本）が定着してきている。 ○ノート指導、考える時間の保障、ペア学習、全員の前で話す機会の設定等により自ら考え話す、学び合いの授業ができるようになってきた。 ●問題解決能力向上のための5つのプロセスを取り入れつつ、場の設定や指導の工夫を続け、段階的に指導していく。●例えば筆算の書き方など基本的な学習の方法については学校全体で共通理解をし指導することで学年の積み上げができるようにする。</p>	
重点目標 2	心を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>具体的方策 ①きまりを守る②仲間と協力する子</p> <p>成果と課題 □児童「きまりを守っている」97% 「学校が楽しい」92% 「いじめや差別は絶対にいけないと思う」100% □保護者「家庭や地域であいさつをしている」83% 「楽しく学校に通っている」98% ○児童会を中心とした今月の生活目標の取組により、きまり（挨拶・時間・清掃等基本的な生活習慣）を守る行動ができており、落ち着いた学習生活環境になっている。 ○いじめアンケート、教育相談、Q1分析を計画的に実施し、職員間の情報交換を密に行うことにより、問題の早期発見・即時対応ができています。さらに、行事や委員会、集会活動を通して、仲間づくりを進め仲間意識を育ててきた。 ●単級であり児童間の切磋琢磨等が少なく、固定した関係になっている場合もあるので、様々な体験活動をさせたり、問題解決のできる場を設定したりして、児童間の関係をつなぎなおし仲間づくりをしていく。●清掃の仕方などよりきめ細かい指導をしつつ、気づいたら片づけたり清掃したりできる体制をつくっていく。</p>	
重点目標 3	健やかな体をつくる	3
主な方策 成果と課題	<p>具体的方策 ①自らすすんで命や体を大切に子どもを育てる②根気強くやり遂げる子</p> <p>成果と課題 □児童「体育の授業や運動会・かけ足などに頑張っている」98% 「健康で安全な学校生活を送っている」97% □保護者「安全・健康の意識を高めるための指導を行っている」87% 「施設・設備がよく整備されている」84% ○学校全体で、保健指導や食育指導、安全指導を計画的に進め、家庭には「生活習慣チェックシート」や学校保健委員会等で啓発するなどして取り組んできた。 ○運動会、水泳、マラソン、なわとびを核とした体力づくりの取り組みを進め、児童一人一人にめあてを持たせ、タイムを記録したり、振り返りをさせたりすることで、体力や根気強くやり遂げる力をつけてきた。 ●苦手意識を持っている児童もおり、より楽しくできる体育の授業を工夫し展開していく。</p>	

重点目標 4	教師力を高める	3
主な方策 成果と課題	<p>具体的方策 ①わかる授業づくりを工夫する。</p> <p>成果と課題 ○一人1回は研究授業をし、「伝え合い学び合う授業」について検討し、市教委の指導主事や教育アドバイザー等の指導助言を取り入れ、指導力授業力をより向上できるようにしてきた。 ○校内支援委員会を月1回定期的に開催しスクールカウンセラーを交えて情報共有をすることで、児童理解が進み、手立てを講じることができた。 ○月2回の定時退校日を設定し全員で実施することで多忙感を少しでも解消することができた。 ●定時退校や会議精選などの取組とともに、仕事の仕方等の工夫や研修会での学びをOJTにより共有化していきたい。</p>	

重点目標 5	地域とつながる	3
主な方策 成果と課題	<p>具体的方策 ①コミュニティスクールを推進する。 ②ゲストティーチャーやボランティアによる『本物』に触れる機会の設定する。</p> <p>成果と課題 □児童「地域の人に教えてもらったりしたことは勉強になる」93% □保護者「学校の様子を積極的に知らせている」88% ○読み聞かせ・お話の会・ふれあいランチタイム・八郷西文化祭・クラブ活動・陶芸製作・社会見学、交通安全教室、八郷歴史探検隊等、さまざまな学習場面で、地域と連携した教育活動を推進し「本物」に触れる機会を設定してきた。 ○授業参観・フリー参観を定期的に行い教育活動を公開している。また各種通信やHPによる学校からの情報発信をしてきた。 ●地域教材の開発や人材活用などさらに取り組んでいく。 ●様々な取組をしているが、教職員の負担を少なくすることも検討していきたい。</p>	

2 改善方針

<p>①問題解決能力向上のための5つのプロセスを取り入れつつ、場の設定や指導の工夫を続け、段階的に指導していく。</p> <p>②例えば筆算の書き方など基本的な学習の方法については学校全体で共通理解をし指導することで学年の積み上げができるようにする。</p> <p>③単級であり児童間の切磋琢磨等が少なく、固定した関係になっている場合もあるので、様々な体験活動をさせたり、問題解決のできる場を設定したりして、児童間の関係をつなぎなおし仲間づくりをしていく。</p> <p>④清掃の仕方などよりきめ細かい指導をしつつ、気づいたら片づけたり清掃したりできる体制をつくっていく。</p> <p>⑤苦手意識を持っている児童もおり、より楽しくできる体育の授業を工夫し展開していく。</p> <p>⑥定時退校や会議精選などの取組とともに、仕事の仕方等の工夫や研修会での学びをOJTにより共有化していきたい。</p> <p>⑦地域教材の開発や人材活用などさらに取り組んでいく。</p> <p>⑧様々な取組をしているが、教職員の負担を少なくすることも検討していきたい。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 三重北小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の向上	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○「学び合う」学習を授業に位置づけ、基本の課題と活用の課題を設定し、学校全体として考え合う児童の育成に積極的に取り組んだ（教職員アンケートの回答「学びのルールの徹底を図る」「基礎基本を習得させ学力の定着に努めている」100%）。活発に自分たちで発言したり、聞いたりする児童たちの姿から「学び合い」が浸透してきているのがわかる。児童のアンケート結果も「意欲的に学習に取り組んでいる」と答えた児童が92%、「困った時や分からない時はペアやグループの友達に尋ねる」児童が94%と高率である。</p> <p>○「一人残らず全ての子に学びを保障する授業」を目指す授業とし、「落ち着いて安心できる授業」「共同的な学びの導入」「探究し発見する学び」「わからなさを重視」「よく聴く教師（受信型）」等を授業改善の核として、研修を進める。授業づくりについてのOJTも活発に行い、各教室で行われる授業スタイルが学校として統一されてきており、それが、全国学調等の結果にも反映されている。</p> <p>○保護者へのアンケートでは、「学び合う授業を通して、学力を高める教育を進めている」の質問項目で、90%の保護者が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答し、昨年度と同様に高い評価が得られている。</p> <p>○「学習習慣や生活規律が身についている」「子どもの家庭学習の定着・習慣化に協力できている。」の項目では、保護者の20%以上が「どちらかといえばそう思わない・そう思わない」と回答している。家庭学習の定着について保護者との連携が必要である。</p>	
重点目標 2	健康な体の育成	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○体力テストの結果分析から明らかになった課題（巧緻性・瞬発力・柔軟性）を改善するため、ビジョン部（体力・健康）から提案された運動をもとに、全学年が授業に取り組んだ。その結果、体力テストで平均値の低かった投力の記録が伸びた。</p> <p>○運動会や朝の駆け足運動、持久走やなわとび集会等、体育授業・体育行事の工夫・改善が行われ、子どもたちの体力向上や健康増進がなされ、体力テストの結果にもその成果が表れた。</p> <p>○遊びの環境を整え、外遊びへの意欲を高めるために「三重北チャレンジカード」を作成した。子どもの実態として、外遊びの割合が昨年度より減少したことから、子どもが「本当に遊んでみたい」と思えるカードに改善する必要がある。</p> <p>○三重北遊び週間を年間2回設定し、児童や教師が考えた遊びを通して体力の向上を図った。</p> <p>○校内保健委員会を開き、健康や食育の指導等に取り組んだ。</p> <p>○学期ごとに、歯みがき強化週間を設け、家庭での実践を記録させ、歯みがきの習慣化を図った。今後は、保護者との連携を図り、歯みがきの大切さを継続して伝えていく。</p>	
重点目標 3	豊かな人間性の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○仲間づくりを基本としながら、各学級で道徳教育および人権教育を推進してきた。8月と2月には仲間づくり研修会を実施し、各個人が作成した仲間づくりレポートをもとに組みの振り返りを行った。また、学びの一体化において人権の公開授業研を行った。</p> <p>○道徳の時間における人権学習を実施するとともに、QU調査やいじめ調査、教育相談などを実施し、心の教育の推進を図った。</p> <p>○児童アンケートで「将来の夢を目標持っていない」「自分にいいところなし」と回答する児童がともに15%前後と、ネガティブ思考の児童が意外と多く注意を要する。中学校と連携したキャリア教育や地域人材の活用・地域での学習などを推進し、社会とのつながりに関心を持たせるとともに、学校生活全体（学び合い・道徳・行事等の活用）を通して、自尊感情を育てていく必要がある。</p> <p>○豊かな人間性の育成として、「あいさつ」運動に取り組む。「自分から進んであいさつできる」と回答する児童は90%、「場に応じたあいさつができる」と回答する保護者は70%と差があった。本年度あいさつ標語を作り、地域行事等で目に触れるよう掲示を行った。あいさつ運動が、家庭・地域をも巻き込んだ取り組みに発展するよう、今後も取り組みを考えていきたい。</p>	

重点目標 4	保護者・地域と連携した取り組み	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○地域の人々の協力により児童はいろいろな体験をし、さまざまな活動が積極的に行われている。</p> <p>○たけのこ掘り、米作りなどの体験学習により、文献で学ぶ以上の学習効果があったことが児童の感想文からうかがえた。地域の恵まれた環境は、地域特有の財産であり、体や心の成長に大いに役に立っている。</p> <p>○社会科（平和学習、昔のくらし）、生活科・総合的な学習の時間（神社見学や梅ジャム作りの学習等）で、地域の教材に出会うことは、より身近に、より具体的に学ぶことができ、児童の興味・関心、学習の意欲向上に効果があった。</p> <p>○地域学習の指導案、資料、記録を残し、三重北小の財産として残し、さらに改良を加え、継続して取り組んでいきたい。</p> <p>○地域の自治防災組織及び四日市大学と連携した防災訓練（4年）の実施と、土曜授業枠を活用し、地域の防災訓練への児童・保護者の参加依頼協力をおこなった。地域の防災訓練では、多くの児童・保護者の参加があり、地域と共に進める防災訓練の意識が高まった。</p> <p>○学校の取り組みや願いを保護者に伝えるために、学校教育ビジョンを意識した学校だより、学年・学級通信、学校HPの発信を継続していききたい。また、地域への学校だよりの回覧は今後も継続していききたい。</p>	
重点目標 5	教職員の資質・能力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○教職員同士、授業を公開したり、他の教師の授業を見に行ったりして、授業力の向上をめざし、資質・能力向上に努めている。授業を公開して、指導方法等について意見交換等を行うことはよい取り組みであり、今後も継続していく。</p> <p>○「わからなさ」「まちがい」を大切にしたい授業づくりに積極的に取り組んでいる。</p> <p>○公開研究会の実施により、三重北小の「学び合いの授業」の取り組みが、他校の教職員からも評価をもらい、振り返りと推進の意欲に役立った。</p> <p>○公開授業研週間やミニ研を定期的に行うことで、全校で目指したい授業について共通理解できた。</p> <p>○自己目標を設定し、年間を通じて個人研究に取り組んだ。個々の取組の振り返りを次年度に生かし、より高い目標をめざして取り組む必要がある。</p> <p>○昨年度同様、電子黒板等ICT機器の効果的活用を図っている教職員が65%と低い値を示している。近い将来、必ずこれまで以上に必要とされる分野であり、生徒や保護者の関心も高い。土台となるデータの収集、作成、利用に、より積極的に取り組んでいく必要がある。</p>	

2 改善方針

○学校づくりビジョンに沿って、各ビジョンリーダーを中心に学校改革が進んでいる。職員の同僚性を培いながら、児童が関わり合い、互いに学び合いながら高まっていく授業の在り方について全職員が共通理解を図り、研究を進めた。本年度は各教科の本質に迫る学びの実現に向けて、研究を深めた。来年度はさらに研究実践を積み重ね、「子ども一人ひとり・教師一人ひとりの学び合う学びに向けて」をさらに研究を進めていく。

○11月に公開研究会を開催した。来年度も本年度の成果をもとに、研究実践を進め、外部からの参加者との協議を通して、取り組みの成果と課題を明らかにしていく。

○本年度同様、学級を開き、授業を見合うことを進め、同僚性を高めていくことで、「学び合う」教職員の組織づくりをさらに進めていく。

○特別な支援が必要な児童について、児童の実態、保護者の願いをしっかりと聞き、受け止めながら、学校全体の中での児童の安心できる居場所作りに努めるとともに、一人ひとりに確実な学力の保障を行っていく。

○授業やさまざまな体験活動等に、多くの地域の方々の支援により、開かれた学校づくりが確実に進んだ。次年度もさらに地域の方々の支援をいただき、学校教育活動の充実を図っていく。また、コミュニティスクール運営協議会の意見も取り入れながら、地域に開かれた学校運営を行っていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 羽津北小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	共に学び、確かな学力を獲得する授業の構築	3
主な方策 成果と課題	<p>①基礎・基本の定着を図る授業の工夫 ・学習のルールを守り友達と仲良く勉強している95.7%」「授業では、よく聞いて考えて伝え合っている91.0%」「毎日忘れずに家庭学習をしている92.6%」など多くの児童が学習に前向きに取り組んでいる。朝の学習や自分学習に積極的に取り組めるように、学級全員が自分学習に取り組む時間を設けたり児童の学習内容を交流し合ったりしている。また、保護者へも通信等で取組を伝えている。 ・家庭読書デーを週末に行ったが、児童への指導が十分ではなく保護者の評価も微増であった。</p> <p>②思考力・判断力・表現力を育むための指導法、授業の工夫 ・「ホワイトボードを使った授業は楽しい95.7%」「授業ではよく聞いて、考えて伝え合っている91.0%」と児童は肯定的にとらえている。今後はさらに主体的・対話的・協働的な学習を進めるための学習課題やホワイトボードの効果的な使い方を研究していく。</p>	
重点目標 2	心の教育と安心・安全な学校づくりの推進	3
主な方策 成果と課題	<p>①心豊かな集団づくり ・いじめ調査・教育相談を複数回行ったたり、気になる児童の情報交換を日常的に行ったりしたことで、教職員間で共通理解が進み、SCや保護者と連携しながら継続的に指導することができた。</p> <p>②命を大切に教育 ・仲間づくり研修などを通して人権教育を進めているが、昨年度と比べ自尊感情の高まりには至っていない。</p> <p>③特別支援教育の充実 ・校内特別支援委員会を定例化したりケース会議を開いたりして教職員が共通理解のもと児童の支援にあたることができた。</p> <p>④規範意識の向上 「はづきたのやくそく」「けやきっ子10か条」をもとに、児童委員会の取組や振り返り活動を通して指導内容が定着しつつある。</p>	
重点目標 3	教職員の資質・能力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>①校内研修・および個人研究の充実 ・「校外研修に積極的に参加し校内研修も充実したものになっている100%」教職員は研修に積極的に取り組み、学んだことを校内に伝えている。</p> <p>②教職員の学校運営への積極的な参画 ・指導部会、研修委員会が定期的に行われ取組の進捗状況が定期的に示されている。</p> <p>③会議・業務の改善と効率化 ・勤務時間縮減のため、事項書を前日に配付するなど、会議の時間削減の努力をしているが総勤務時間の大幅な縮減には至っていない。</p> <p>④職場の活性化 ・学年内、学校全体での情報共有・行動連携がなされてきている。ミニ研では担当者会議の連絡やすぐに役立つ指導方法が提供されている。</p>	

重点目標 4	地域・家庭と協働する学校づくりの推進	3
主な方策 成果と課題	①情報発信等の充実 ・「各種たよりやホームページによって、学校についての情報提供が充実している91.9%」十分ではないが保護者の知りたい情報が伝えられている。 ②地域の方との協働 ・学習を充実させるために外部講師を活用することが定着してきている。 ③地域の文化や伝統、産業等の教材化 ・全学年陶芸を行い、子どもたちは毎年違う作品ができることを楽しみにしている。 ④家庭・地域と連携した家庭の教育力の向上 ・協力を得られない家庭については、家庭と日常的に個別に連絡を取ったり家庭訪問をしたりしてつながりを持ち連携できるようにしてきた。 ・家庭児童相談室、主任児童委員、民生委員等の関係機関と連携し、少しでも状況が改善されるよう取組を進めた。	

2 改善方針

- ・学習のルールが定着し落ち着いて学習に取り組める児童が増えている。さらに積極的に学習や読書等に取り組めるよう具体的な支援をしていく。
- ・いじめ調査、QU調査、教育相談などが生かされ、児童の心に寄り沿った指導がなされている。今後も各種調査を利用し個々の子どもの心に寄り沿い職員の共通理解のもと保護者等と連携し指導を行っていく。
- ・特別支援教育を充実させ、校内通級教室やサポート事業にかかわる職員だけでなく、全職員で通常学級における支援の必要な児童について適切な支援を行っていく。
- ・集団づくり・仲間づくりの取組をさらに充実させ、児童自らが挑戦したり活躍する場を保障することを通して自尊感情を高める。
- ・教師の個性や持ち味を発揮できるミニ研を充実させ、共に学ぶ教師集団をめざす。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 内部東小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	経営の重点・・・信頼される学校づくりの推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○コミュニティスクールの取り組みが少しずつ進んでいる。さらに効果的に協働できると良い。</p> <p>○保護者対象にアンケートを実施して、学校教育に対するニーズを把握したり、達成度の状況を確認したりすることで、教育活動を見直し、改善につなげることができた。また、クラブ活動、ふれあいまつり、読書推進にかかる取り組み、交通安全指導等の教育活動に、保護者や地域の方々の協力を得ることができた。今後も家庭や地域と協力しながら子供を育てるという姿勢を大切にしていきたい。</p> <p>△学校だより、学級通信、ホームページ等で、学校からの発信をさらに充実させていくと同時に、オープンスクールや懇談会等、学校と保護者が交流できるような機会を充実させていくことが大切である。</p>	

重点目標 2	指導の重点・・・一人ひとりが大切にされる教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○家庭学習の課題を学年でそろえ、継続し取り組んだことで、基礎的な学力、家庭学習の習慣が定着した子供が増えてきた。</p> <p>○3年生以上の算数科で、少人数授業、T、Tを実施したことで、算数に苦手意識を持っていた子供たちに学習意欲を持たせることができた。</p> <p>△保護者、子供に実施したアンケート結果から、読書に関する評価が、目標値に達していないことが明らかになった。全校で読書の時間を一斉にとったり、親子読書を実施したりしてきたが、さらに家庭と連携し、本に親しむ子供の育成に努めるようにしたい。</p> <p>○職員会議、特別支援委員会、教育相談、カウンセリング等で、特別な支援が必要な児童について、共通理解と支援の方法を話し合うことができ、適切な指導・支援につなげることができた。</p> <p>○生徒指導委員会や代表委員会の子供から、挨拶や学校生活のルールについて全校にはたらきかけを行ったことで、子供たちへの意識付けになり、徐々に子供たちの行動に表れてはきているが、今後も継続した取り組みが必要である。</p> <p>△学級や学年で起きる様々な問題について子供たちで話し合い、どう行動すればよいのかを考えることができた。しかし、考えたことを実践していくという点では、まだ十分とは言えない。今後も互いの良さを認めたり、相手の気持ちを考えたりする意識を高め、行動の変容につなげていくため学校全体で取り組んでいく必要がある。</p> <p>△新体力テストの結果を活用して、授業改善に努めるよう心がけた。しかし、1時間の授業における子供一人ひとりの運動量の確保という点においては十分とは言えない。</p> <p>○業間かけ足、持久走記録会、長縄記録会等の取り組み以外に、体育委員会や代表委員会の取り組みとして、業間に全校遊びを行ったことによって、外遊びをする児童が増えつつある。</p> <p>○保健委員会の活動の一環として、保健委員の子供が行った「早寝・早起き・朝ごはん」等の活動によって、子供の健康に対する意識を高めることができた。</p>	

重点目標 3	研修の重点・・・教師の学びを支える研修の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○「問題解決能力向上のための5つのプロセス」を重視した授業改善に取り組むことができたと感じている教師が多い。</p> <p>○学年での研修を基にした授業公開を行うことで、教材や指導方法についてより深みのある研修が実践でき、指導力の向上につなげることができた。また、OJTを活用したミニ研修会、研修会後の振り返りなど、自分たちで研修を進めたり、自分の実践に返していこうと意識したりすることができた。さらに校内研修の取り組みに力を入れて、授業の質の向上を目指したい。</p>	

2 改善方針

- ・家庭学習の課題を学年でそろえるなどの取り組みにより、子供たちの家庭での学習習慣や基礎学習の定着に効果がみられた。今後も子供たちの実態に応じて、課題の内容、量などを検討しながら取り組みを進めていく。
- ・少人数授業については、クラス編成や指導方法等、児童の実態に応じ、より効果的な運用について研究していく必要がある。
- ・特別な教育的支援を必要とする子供については、今後も特別支援委員会、職員会議等で教職員の共通理解を図り、保護者、関係諸機関と連携をとりながら支援体制づくりに努める。
- ・アンケート結果から明らかになった様々な課題を改善するための方策について、組織的かつ効果的な対応・指導にあたることを本校の姿勢として、今後も大事にしていきたい。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 中央小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着（・問題解決能力の向上・少人数教育の活用・読書活動の推進）	3
主な方策 成果と課題	<p>少人数教育の活用により、個々のつまづきなどを見届け、個に応じた指導を行った。子どもの実態から授業づくりを考え、「わかる」「できる」「活かす」ことが実感できる授業づくりを進めてきた。授業研究を節目に、子どもたちが問題解決的に学習する授業づくりにつとめた。</p> <p>以上のような取り組みから、確かな学力の定着に関わる項目の評価は、8割を超え、家庭学習についての評価はA B合わせた評価が保護者83%・児童81%であった。しかし、学期に一度程度設けたチェック週間の結果では、確実に定着できていない児童もいた。</p> <p>図書館まつりを学期2回行い、自主的な活動を行うことができた。委員会の児童と教職員がクラスに行き読み聞かせを行っている。発達段階に応じた本を選び、どの子どもとても良い表情で聞いている。家庭読書活動の励行を便り等で呼びかけてきたが、学校評価（保護者）が低かった。児童は関心が高いことから、今後、具体的に何をすればよいか示しながら取組を進めていく。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成（・道徳教育の推進・規範意識の向上・人権教育の推進・特別支援教育の推進・キャリア教育の推進）	3
主な方策 成果と課題	<p>Q U調査を活用し、仲間づくり研修会を実施することで教育相談体制も充実させた。そのうえで、一人ひとりの子どもの良さを十分に見届けながら、自尊感情を高める取り組みを行ってきた。日々の授業において、学び合いを大切にし、子どもたちどうしの関わりを深めてきた。</p> <p>以上の取り組みから、9割以上の子どもたちは友達との関係がうまくいっていると感じている。また、みんなが安心できる学級になっていると感じている。保護者からも9割以上のA・B評価を得ている。また、自尊感情の育成の関する項目では、保護者も児童も8割以上が肯定的評価となっている。ただ、困っていることや悩んでいることなどを先生や友達に相談できるという項目は、A B評価合わせて、73%に留まっている。</p> <p>年間計画に基づきキャリア教育も実践してきた。単学級の良さを活かして、系統性を考えてつなげていくと良いが、個々の取組になってしまった。研修会を計画したり、実践交流会をしたりしながら共通理解を図っていききたい。</p>	
重点目標 3	健康・体力の向上（・体力、運動能力の向上・心と体の健康教育の推進・子どもの安全意識の向上）	3
主な方策 成果と課題	<p>体力・運動能力の向上について、5分間運動の充実等体育の授業での体力づくり強化を図ってきた。また、縄跳びチャレンジでは、自分のめあてをもち、体育の授業や休み時間に意欲的に継続的に取り組めた。縄跳びカードの工夫、ジャンプ台の設置、縄跳び大会を実施するなど成果をあげている。寒い中でも縄跳びをするなど外遊びをする子が増えた。「外で運動することが好きである」の評価は、保護者91%、児童86%であった。</p> <p>食育については、栄養教諭の定期的な学校訪問があったので興味や関心を高めることができた。成長と共に全体的に食べる量が増えてきた。校舎内は呼びかけや注意にも関わらず、走っている子が多かった。朝の健康観察板を届ける時など時間がないのであわてて走っている子が多かった。時間に余裕をもてるように時間の調整を行うことも必要と思う。</p>	

重点目標 4	保護者・地域との協働（・学校からの情報発信・家庭学習チェックシート等の活用・教育支援ボランティアの活用・学校評価を活用した学校づくり・和太鼓など、地域の特色を生かした学習や活動の充実）	3
主な方策 成果と課題	地域の特色を生かした学習や活動の充実にむけて、本年度は各学年生活科、総合的な学習の時間の中に地域学習を位置づけた。毎年、和太鼓を教えていただいたり、商店街や介護センターで出かけ地域の人たちと触れ合ったりすることはできた。 学校全体を通して系統的に活動できなかったことは反省材料であり、今後有効な手立てを考えて取り組んでいきたい。	

重点目標 5	学校教育力の向上（・豊かな人間性や確かな教師力の育成・教職員の意思の反映、満足度の向上・各種会議の改善、業務の効率化）	3
主な方策 成果と課題	研修計画に沿って授業づくりを考え、子どもたちの実態に合った取り組みを考えながら取り組みを進めてきた。よって、A B評価合わせると教師全員が、個々の子ども の思いや考え、かかわりを大切にしたい授業づくりができた」と評価している。	

2 改善方針

<p>確かな学力の定着に関わる項目については、家庭学習の具体的な方法などを授業を通して指導を充実させるていく必要がある。また、基礎的基本的な知識・技能の定着・活用力育成のために、「わかる」「できる」「活かす」ことが実感できる授業づくりや、子どもたちが問題解決的に学習する授業づくりにつとめていく必要がある。</p> <p>各学級あたりの児童数が少ない現状が続くので、今後も集団としての分析・対応より、個々の児童の能力・特性に応じた分析と指導の工夫がより必要である。</p> <p>困っていることや悩んでいることなどを先生や友達に相談できるという項目は、A B評価合わせで、73%となっていることから、今以上に仲間づくりの取り組みや教育相談などを充実させていく必要がある。</p> <p>安全指導の観点から、校内を走っている児童が多かった。児童への直接的な呼びかけと共に、教師側も、児童が時間に余裕をもって行動できるように計画的な指導を検討していく。</p>	
--	--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 橋北小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	<p>「確かな学力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識や技能の定着 ○問題解決能力の向上に向けた授業づくり 	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の基礎基本の定着を図る取組の推進 ・「話す・聞く力」「書く力」「読む力」を向上させる学習の充実 ・家庭学習の習慣化 ・知識・技能を活用する授業づくりの充実 ・問題や課題の解決を大切にした授業の取組 ・子どもが意見を交流したり、考え合ったりする授業の充実 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセスを意識した授業づくりに取り組み、学習課題の設定や授業内容の工夫が図れた。 ・他学年と交流する活動を取り入れたことで、実践的な活用が図れた。 ・家庭学習の手引きを作成し、保護者に配付したことで、自主学習に取り組む児童が増えた。年度途中においても、引き続き通信等で保護者との連携を図り家庭学習の定着を徹底したい。 ・朝の学習の時間確保が難しくなってきたため、基礎基本の定着を図るには、授業時間の中に組み入れていく必要がある。 	

重点目標 2	<p>「豊かな心」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○温かい心で支え、認め合う仲間づくりの推進 ○夢や意欲を育むキャリア教育の推進 ○読書意欲が高まる取組 	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパー橋北っ子に基づく基本的生活習慣の定着・・・家庭との連携・・・ ・人権感覚・自己有用感を高める取組の推進 ・互いがつながら、励まし合う仲間づくりの推進 ・「考え・議論し、行動する」道徳の授業の推進 ・人や文化、自然等から学ぶ体験活動の充実 一地域・家庭との連携一 ・学年段階に応じたキャリア教育の推進 ・読書意欲が高まる取組 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは挨拶や掃除、係の仕事に対する意識が高い。来年度は、代表委員会を中心にさらに意識を高める活動を行う。 ・日々の学級経営や学習活動から、自尊感情が伸びてきているのが分かる。友だちの話を聴く、自分の気持ちを言葉にするについては、各学年でまだまだ伸ばしていきたい資質であり、学校全体で取組を進める。 ・全職員で子どもたちの情報を共有し、子どもに対して共通の対応をすることができた。スクールカウンセラーの教育相談は、保護者に浸透しつつあり、教育相談が身近なものになりつつある。 ・橋北地区での活動で、地域の方の素敵な出会いを生かす工夫がなされた。ゲストティーチャーを招いての学習がとても多く、子どもたちのキャリアの視点も育まれたといえる。地域の人材を生かしたキャリア教育の土台を生かし、さらに自分たちの将来を見据える目を育てたい。 ・学期に1回の読書週間や家庭読書を進めてきた。児童にも家庭にも少しずつ定着してきた。朝のさわやかタイムの見直しや休み時間における読書への呼びかけを進めていく必要がある。 	

重点目標 3	<p>「健康でたくましい力」 ○体力向上をめざした取組の推進 ○健康・安全意識の向上の推進</p>	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく運動量のある授業づくりの推進 ・めあてを持って取り組む体育的行事、運動に親しむ取組等の推進 ・「早ね、早起き、朝ごはん」の生活リズムの推進 ・食教育・健康教育の充実 ・避難訓練、安全教室等による危機回避能力の育成 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業の充実についての達成目標90%に対して、90.5%の結果であった。このことから、各学年に応じた運動量を確保した体育の授業づくりができていていると判断できる。今後は、本校の弱みである握力と柔軟性に特化した5分間運動に全校で取り組む必要がある。 ・児童アンケート「早寝早起き朝ごはんに気をつけている」の達成目標は85%を上回ることができた。年3回の生活リズムチェックの取組が定着し、自分で目標を決めたり、保護者のコメントがあったりして、意識を高くもつことができるようになった。 ・児童アンケート「健康に気をつけている」の達成目標は90%を上回ることができた。風邪予防のためのマスク着用や持久走時のうがい・手洗いの声掛けをかかさず行ったり、一年間を通してハンカチチェックを行ったりしてきたことで、児童の健康に対する意識が身についてきた。虫歯がある児童が多いため、今後は歯磨きの習慣をつける必要がある。 ・Jアラートや不審者対応の避難訓練について、より具体的な想定を考え行っていく必要がある。 	

重点目標 4	<p>「地域とともにある学校づくり」 ○家庭・地域との連携・協働による教育活動の推進</p>	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源や地域人材を活用した小規模校のよさを生かした活動、家庭・地域との連携推進（すくすくサポート） ・学校・学年だよりやホームページ等による積極的な情報発信 ・学校評価（児童・保護者）、学校関係者評価（学校づくり協力者会議）を踏まえた改善活動の推進 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より、地域連携の取組をたくさん行うことができた。取組を通して、地域の特徴を知ることができ、地域の方とのつながりを深めることができた。 ・情報発信について、保護者アンケートの結果は96%で、良い評価を頂いた。各学年のHP更新は、滞りがちになる時もあるので、互いに声をかけ合って少しずつでも増やしていきたい。 ・保護者アンケートの「学校の教育活動は満足できる」が95%、「学校づくりビジョンの実現に努めている」が90%で、おおむね良い評価であった。今後、アンケートで数値の低かった項目や学校づくり協力者会議で頂いたご意見をもとに、取組を強化していきたい。 	

重点目標 5	<p>「学校の教育力の向上」</p> <p>○教職員が研修を重ね、互いの教育力の向上を図る</p> <p>○教職員が効力感の持てる環境づくりの推進</p>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語力を高め、共に問題を解決する授業づくりの推進 ・外国語活動の推進 ・特別支援教育の推進 ・効果的な会議の実施等による公務能率向上の推進 ・チーム学校による組織的な対応の充実 <p>【成果と課題】</p> <p>5つのプロセスを活用した指導案や授業づくり、問題解決能力の向上を全教職員が共通理解をして取り組んだ。提案授業研修会や年間2回の授業づくりレポート作成を通じて、普段の実践や授業づくりを見直すことに努めた。また、言語力向上については、基礎基本や国語の用語を活用することを継続して学習することで定着してきた。問題解決能力向上については、単元でどんな力をつけるのかを明確にすることで、ねらいや課題が見通せるようになった。各研修会において指導主事等から適切な助言をいただくことで、取り組みの振り返りや改善点を共有することができた。</p>	

2 改善方針

・問題解決プロセスを基本にした学習については、学期ごとに重点目標を決め、年間計画に位置付け、取り組むことでより子どもに力をつけていきたい。また、授業においては、授業始めに対話によって問題解決を図る必要な課題提示、自己の考えを作る時間保障、問題解決の共有に向けた話し合い、振り返りといった授業スタイルの決め、子どもにとっての学びの連続を確立していく必要がある。

・教材研究の時間確保ができるように、有効的な時間の使い方を考えていくことが必要である。会議での簡潔な提案、メールを活用した打合せなど、できるところから改善に努め時間短縮を図りたい。また、学校行事の精選や地域と連携した活動への参加体制の見直しを図っていきたい。

・言語活動の充実に向けては、学校のすべての教育活動において、「言語文化」を築く営みをこれからも継続していく必要がある。

自己評価書

四日市市立 楠小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	豊かな心の育成 ～思いやりをもち、かかわりあう子～	3
主な方策 成果と課題	<p>なかまづくりの研修では、核となる子を設定して取り組みを進め、周りの子や教師自身の変容が重要だという共通認識ができた。今後も、子どもの生活背景も含め、よりていねいに見ていく必要がある。</p> <p>本校の人権課題（幼少期からの偏見や決めつけ）解決に向けて、年度当初に全職員で共通理解するとともに、人権教育年間計画の見直しを図り取り組みを進めてきた。また、校内研修として人権の視点を重視した授業づくりに取り組んだ結果、子どもたちの「いじめは絶対に許さない」という意識が高まった。また、毎学期行っている「いじめ調査」や「あったかタイム」の取り組みでは早期発見に努め、一人ひとりの思いに寄り添い、安心・安全に過ごせる支援体制を取ることができた。しかし、自尊心については、まだまだ十分とは言えず、自分のことを大切にすることを大切に高めていけるよう取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>恒例となった人権ポスターを描く取り組みは、子どもたちにとって友だちへのかかわりを考えるだけでなく、普段の自分の行動を振り返る機会として定着してきている。また、地域での展示が行われるので、子どもたちにも励みになっており、地区人権協と連携する機会としても有意義である。</p> <p>道徳教育では、身近な課題を題材にし、自分の考えをもとに話し合い活動を入れてきた。一定知識の理解は進み、学級内で多様な考えを交流することができた。しかし、実生活に生かすことは難しく、実践に結びついていない。決めつけた見方も減ってはきたが、まだ十分とは言えない。</p> <p>挨拶の必要性についての意識はできているが、自分たちからという点では難しい。教師からも積極的に行い、より気持ちのよい挨拶の仕方を習慣化させたい。清掃活動では、昨年に引き続き「黙動」や「時間を守る」ことを発達段階に合わせて行ってきた。具体的な場面で、自分から考えて行動できる子どもたちにしていきたい。</p>	
重点目標 2	確かな学力の育成 ～考えを伝えあい、自ら学ぶ子～	3
主な方策 成果と課題	<p>昨年度に引き続き、朝のスキル学習、少人数やTTによる指導、本校独自の学力調査などを実施した。朝のスキルの時間には、文章読解や思考を要する問題を解く回数を増やし、本校児童の課題である「考える力」をつけることを重点的に取り組んだ。算数の時間には、TTやコース別の少人数による指導で、児童の振り返りをもとに個人のペースやつまずきに合わせて学習に取り組めるよう支援を行った。</p> <p>また、本校独自の学力調査では、技能・表現問題だけでなく、思考・判断や知識・理解の問題の到達度も昨年度と比較して分析し、指導に生かすことができた。その他にも、ICT、ホワイトボード、「めあて」「ふりかえり」の意識などの指導方法の工夫を行い、「わかる授業」を心がけている。また、その学年で押さえるべき事項の掲示物を作成し、基礎的・基本的事項の定着を図ってきた。その結果、学校アンケートからも自分から学習に取り組む姿勢や意識ができていることが伺える。しかし、定着の満足度が低い学年もあり、学力面での課題が見られる。</p> <p>また、家庭学習についても、「家庭学習の手引き」「自主学習だより」で必要性を伝えるなどして進んで学習する習慣がついているが、保護者の満足感が低かったり、家庭での協力が得られない状況があったりするのが課題である。</p>	

重点目標 3	<p style="text-align: center;">健康な心と体の育成 ～健康な生活を心がけ、体を鍛える子～</p>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>体育の授業で、5分間運動に取り組みやすいように、体育館にポスターを掲示した。ポスターを見ることにより、意識して取り組むことができた。しかし、学級での取り組み方に差があったので、全校的に同じレベルで取り組んでいけるようにしていく必要がある。</p> <p>業間かけ足やなわとびチャレンジなど、全校一斉に取り組んだ。また、スポーツテストも全学年で実施している。入学時から毎年実施していることや、関連する運動を取り入れた授業に取り組んだこと、また、学年ごとの目標となる記録を体育館に掲示することにより、少しずつ記録が伸びてきている。また、自分の記録だけではなく、仲間と協力することの大切さを学ぶことができた。しかし、スポーツテストの結果を見ていくと、個人差が開きつつある。どの子も楽しめる体育の授業や取り組みを考えていく必要がある。</p> <p>給食後のはみがきに取り組んでいる。取り組みを始めてから数年が経ち、定着しつつある。虫歯の子の数も減少しており、治療する子も増えてきている。また、定期的に「生活リズムチェック」を行い、生活習慣を見直す機会を持った。子どもたちの寝る時刻を改めて把握することができた。だいたいの子どもが、「早寝・早起き・朝ごはん」を意識し、実行しようとする姿が見られるようになった。しかし、家庭環境によって、寝る時刻が定まらない子がいる。また、取り組み期間以外では、自分の生活リズムを見直すことができていないこともある。今後も引き続き、虫歯の治療・生活リズム両方とも、保護者への啓発が今後の課題であると考えます。</p>	

2 改善方針

子どもたちが「認められている」と実感できる活動の場の設定を共通理解を図りながら進めていきたい。また清掃活動は中学校区で話し合うことでそれぞれの取り組みや現状を確認し合うだけでなく、用具の使い方や机のつり方といった掃除の流れを子どもに混乱がないように極力統一し、自己評価等も取り入れ、自ら考え、行動、改善していけるように指導していくことで、豊かな心の育成を図りたい。

学力の育成については、学力向上に向けた考える力をつけるために、少人数で考える時間や言葉で説明する機会を取るなど、具体的な取り組み方法や内容を考え、授業形態の研究と実践を推進していきたい。

全国体力・運動能力、運動習慣等の調査の結果から、子どもたちの体力が、前年度より、上昇していることがわかった。しかし、国や県と比較すると、本校の子どもたちは総運動量が大きく下回っている。そのため、様々な種目で平均値を下回っている。全校で取り組んでいるものだけではなく、さらに休み時間や体育の時間を活用して、子どもたちが「体を動かすことの楽しさ」を味わえるような取り組みを考えていきたい。また、体育の授業の時にはその時間や単元の目標を示し、始めと終わりにも「めあて」「ふりかえり」をするなど、見通しを持って取り組むことができるような授業にしていきたい。